（遊覽漫遊旅行案內繪端書）宮島

（遊覽漫遊旅行案內繪端書）奈良

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

82-348

瀛車の乘客

（國民新聞所載）

今や我國の鐵道綿路も、四千哩に垂んとするの延長をなし。東北青森灣より西南長崎港迄、僅かに馬蹄二葦帶永を除けば、連絡ある瀛車旅行の差支なきを見るに及びぬ。明治卅二年度に於る乘客總數一億二百廿六萬人にして、人口の二倍と出づ。されば鐵道生活は、既に我が國民の生活の幾分を占む可きや當然のみ。詳言すれば其の多少の差異こそあれ、何人も一年若くは一生の幾時間を、瀛車旅行に暮さゞるものなきの姿となりぬ。或人は毎月に幾回となく東海道瀛車を上下するものあり。或人は山陽鐵道に。或人は日本鐵道に、其の毎月の幾日、若しくは毎年の幾日を暮らすものあり。若しそれ須磨、明石より神戸、大阪に、大磯、鎌倉、逗子より横濱に、大森、品川より東京に通勤する人の如きは、今茲に精確の數と見出す能はずと雖も、今日に於て頗る多く、今後倍々倍を增加す可き傾向あるや明けし。乃ち瀛車内の生活は、三度の食事と與に、殆んど缺く可らず、避く可らざる生活の部分とならんとす。

然らば則ち今日に於て、如何に瀛車内の生活をして、便利に、愉快に、且つ高尚ならしむ可きやを講究するも、必らずしも等閑の業にあらざる可し。吾人の觀察をして、瀛車の乘

客相互の事に限らしめよ。鐵道の理事者に對する注文の如きは、暫らく他日の問題とせむ。

瀛車に乘り込む前に、二個の難場あり、第一は切符を買ふとなり。第二は買ふたる切符を役員に示し、之を鉄ましめて、乘車場に進むことなり。何れも混雜甚だしく、老人や、小供や、婦人抔は、頗る困難を感ず。其の混雜の最も重なる原因は、後者が前者を推し退けて進まんとするにあり。若し乘客相互に其の秩序を守らば、幾千百人あるも、決して狼藉の事ある可らず。

且つ切符と買ふにも、自分の都合をも慮かる可きは勿論なり。然るに或は五圓紙幣を出して、東京より品川迄の切符を求むるものあり。彼等は切符賣捌所を、兩替屋となすものにして、如何にも不埒の至りと謂ふ可し。記者は寧ろ五厘銅貨にて、切符を購ひつゝある者を見たり。買ふ方に於て、切符賣捌口を占領し、悠々として、一個づゝ數へ。而して賣る方に於て、亦た一個づゝ數へ。其の間幾分幾秒あるを知らず、他客の迷惑知る可き也。兎も角も成る可く輕便に辨じ得る可き用意をなして、切符を求むるとは、瀛車の乘客の忘る可らざる要義也。若し其の購求する代價の全數たらずんば、寧ろ之に接近せるものたらしめよ。

瀛車の内に入りて、最も奇異の感を爲すは、手荷物の澤山なると是れ也。英人の諺に家屋を除けば、何物にても手荷物たらざるはなしと云ふも、そは荷物車に托するものにして、持主と同室せる手荷物の謂ひにあらず。然るに我國にては、棚に上げ、腰掛の下に入れ、或は腰掛と腰掛との間に措き、甚だしきは腰掛の上に置くもの亦た多からずとせず。元來客車は、人の乘る可きものにして、荷物を積む可きものにあらず。其の萬々止むを得ざる手廻りの外は、之を車内に持込むと、甚だ以て不當にあらずや。

車内は一種の協同生活にして、乘客相互に自他の快樂、少くとも便宜を計る可き義務ある也。然るに動もすれば、眼中人なきが如き擧動を爲すもの多きは何ぞや。吾人は必らずしも車内の光景を以て、非禮の共進會と放言せず。されど其の殺風景は、實に用捨を能はざらむ。喫煙して其の煙を、他人の顔面に吹き懸け、其の卷煙草の灰とば、他人の衣に墜し、更らに自から怪しまず。或は膝、甚だしきは股を露はし、覗として顧みず。夜行若しくは長途の瀛車にもあらざるに、横臥して、其の泥靴を、他人の膝頭に加へんばかりに伸ばすあり。或は車中に婦人客のあるにも頓着せず、其の衣服を更むる抔、怪しからぬ振舞をなすものあり。其の仲間の多數なるに乘じて、他人を凌辱するが如き態度となすあり。若しそれ相手をも拂はず、醜褻なる談話を、高聲にて喋舌るが如き怪事の、一二等一等の乘客中に、少からざるは、吾人が頗る我が國風の反射として、慨嘆する所也。

婦人、老人、子供の如きは、社會協同保護の下に立つ可き者にして、彼等は之を社會に向ふて要請するの權理なしとするも、社會は之を保護す可き義務を忘る可らず。然るに車内に於て、記者の屢ば經驗する所は、大ひに其の趣きを殊にするものあり。仁王をも欺く壯夫が、双腕を蟹の如く左右に開張し、而して其の側に老人や、子供や、婦人の席を得ずして立ちつゝあるを見て、更らに知らざる如きは何ぞや。

此れはまだしもの事なり、甚だしきは其の側に大ひなる荷物を横へ、一人前若しくは二人前の坐を塞ぎつゝ、毫も知らざる風をなすものあり。而して偶ま他客の哀願的相談により、已むを得ず其の荷物の幾分を推し退け、僅かに膝を容るゝの地を譲るものあり。彼等とても一人前の切符より外は有せざるに、他人を立たしめて、己れは荷物と與に坐そるとは、如何に先取權あるにせよ、隨分横着と謂はざるを得ず。尚ほ甚だしきは他人の哀願的相談にも關せず、平氣にて濟まし居り、役員の命によりて、漸く之を聽く者あり。此の如きは社會的感情の上よりすれば、全く死人も同樣也。彼等は必らずしも惡意あるが爲めにわらず、自個の都合のみを知りて、他人の都合を慮かるに及ばざるのみ。即ち社會的感情の素養を缺くに坐そるのみ。

本論の作者の實見したる所によれば、或る日國府津東京間の滊車に於て、一個の紳士、途中より乘車したる中老の婦人の爲めに、自から起て坐を譲れり。彼は其の婦人を立たしむるに忍びざれば也。然るに思ひきや此の空席に坐したるは、婦人にわらずして、其の同行者たる十七八の少年ならんとは。少年何者ぞ、其の婦人の子なる乎、親戚なる乎。彼は何の挨拶もせず、泰然として之を占めたり。是れ實に珍らしき現象にして、唯だ笑止千萬なりしは、譲坐の紳士のみ。

惟ふに以上開陳したる所は、其の黒き半面のみならむ。我が國民の總てが、此の如き非禮の國民たらず、不行儀の國民たらざるは、殊更らに吾人の辯解を要せざる可し。然れども恊同生活の興味は、我が國民に於て未だ深きを感せず。社會的感情の妙趣は、我が國民に於て未だ濃かならざるを免へざるの今日に於ては、滊車の旅行が、殺風景なるも、固より深く咎む可きにわらず。然も之をして便宜あり、愉快あり、且つ高尚ならしむるは、所謂る國民的生活の上に於て、少補なしとせんや。

之と聞く佛人の途中の驛にて、滊車より下らんとするや、他の乘客に會釋するも、其の扉を鎖さずして去るもの多く。英人の然かするや、他の乘客に挨拶せざるも、自から扉を鎖して而して後去る者多しと。凡そ國風の眞相は、此の如き機微の際に暴露せらるゝものとせば、世界の視聽の中心に於て、生活をなす我が國民たるもの、それ豈に機微の點に

遊覽旅行案內繪端書）長良川

遊覽旅行案內繪端書）有馬

帝國 IMPERIAL LIBRARY

大阪山中金龍堂印行

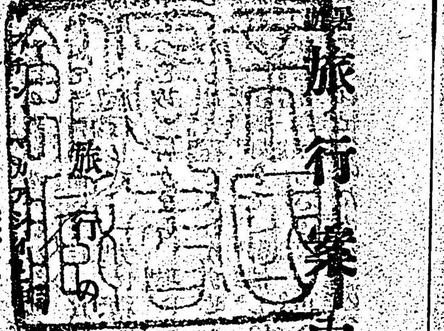
於て、愼戒そる所なくして可ならんや。

願はくは我が國民の生活と縮圖したる滊車の內に於て、相互ひに禮節を正ふし、行儀を善くし、相與に自他の都合を計り、車內の協同利益と一般便宜の爲めに、期せずして一致せしめよ。昔は庖丁屠牛の道に於て、天下を治むるの術を得たり。吾人若し滊車內の生活に於て、其の宜しきを得ば、國民的生活に於て進む所あるや知る可きのみ。

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

避暑漫遊
旅行案内



文淵堂編輯局 編

まそのは今英國で有名な文學者で、其の作つた「大英近代史」は既に日本にも飜譯されて居る程でせが、此人が嘗て膨張的國民は必らずや旅行的國民ならざるべからずと云ふて大びに旅行の必要を論じた事がありまそ、色々と昔からの事蹟と調べた上、國家が膨張にやうとそるには先づ國民が膨張しなければならぬ、國民が膨張レやうとそるには先づ銘々の旅行的嗜好を發達させなければならぬ、内にばかり閉ぢ籠つて居る人間は自然其の精神も引込思案になつて仕舞つて迚も外へ踏み出して仕事をそる事なぞ出來るものではない、希臘にしても羅馬にしても乃至は近世の西班牙にしても和蘭牙にしても、國家が強盛になる前には先づ其國民の旅行思想が非常に高まつて居つた、此

ほ歴史上等しからざるの事實であると申して居りました、それから文本騰は美術の批評家で此が色々青年のために成る本を著はして、現に其の「インテレクチュアル、ライフ」や「ヒユーマン、インターコース」などは處々の學校の教科書にまでなつて居る夫のフヒリップ、ギルバルト、ハマルトンも旅行と云ふ事に就ては毎々其筆を勞して居ります、一日の旅行は十卷の書を讀むに勝る、殊更青年の學生などは機會と事情の許し限り勵んで旅行しなければならぬ、歴史にせよ地理にせよ、動物學にせよ、植物學にせよ、机の上で本と首ツ引をしたばかりでは何の役にも立たぬ、旅行によつて之を實地に照らし見るにあらざんば學者の苦心も教師の親切も一切生命の無いものとなつて仕舞うと論じて居ります、然ればこそ西洋諸國では上は王侯の貴きから下は田夫の賤きに至るまで暇さへあれば吃度何處ぞへ旅行して、一方に精神を慰め身体を丈夫にすると共に一方又新らしい智識を得る事をつとめて居りまして、現に先頃お逝去になつた英國の女皇ヴィクトリヤなども、御歳を召してからは夫程でもありませんかつたが、未だ血氣の盛んな御若い時分には何より彼より旅行が一番御好きで、御忙しい政務の隙を盗んでは全國の名山勝水と跋渉なさり、殊に世人の足跡未だ至らざる高い山へ御登りになるのが大得意で、蘇格蘭などには女皇によつて發見せられ紀念のため女皇の名を冠そる勝地が其數廿の餘有るそうでも、それから又今の

獨逸の皇帝も同じく有名な旅行家でして、只今では政治の方が御忙しいので思ひ乍らも〻イ出不勝になつて御出でゝをが、其以前に置きましては歐羅巴ばかりでは物足りず遠く亞細亞の砂漠まで押し出そうとなさつてゞした、先代の伊太利の皇帝及今の澳地利の皇帝も亦旅行は御好きの方でして、御歳を召しても此ればかりは御止めにならず、白耳義の王樣は又御自分ひとりで御樂みになるばかりでなく、人の旅行を助けるのも御好きで、其のために年々莫大なる御手許金を御下げになつて居ります、十九世紀の偉人として兒童走卒に迄其名を知られたスタンレーなども同じく此の王樣の御助けによつて亞非利加内地の探險をしたのでありまする、一人の上の好む處千之よりも甚しとやらで、上に立つて御出でなさる方々が既に此の通りの有樣でありまするから下々の者が一にも旅行二にも旅行と騒き立てるのも全く無理もない譯で、終には自分の國だけでは滿足せず隊を組んでパピロン、アッシリアの古跡を尋ねたり、遊艇を造つて海から海と漕ぎ廻つて見たり、其方法の如きも當り前の事では面白くないからと云つて徒歩旅行とか騎馬旅行とか乃至は竹馬旅行自轉車旅行、甚しきに至つては背進旅行と號して後ろ向きになつて世界中廻つて歩かうなどと云ふものまで出て來るやうになりました、勿論此等は物數奇道樂のそる事で單に奇を街ふに過ぎないのではありまするが、一般の旅

思想が高まつて居ればこそ自然此んな奇人も出て來る譯で、それに比べて見ると我日本なぞ未だ〳〵ホントに悟けない者と云はねばなりません、早い話が御互ひ一寸疲れを休めやうとか氣保養でもしやうとか申しましても、大概は四疊半の小座敷で飲み食ふ歌ふ位に止まり滅多に外へ踏み出をやうな事はありませぬ、縱令又踏み出したにした處で高々行つて十里か十五里、當節百里二百里の旅行としやうと云ふ者は用事なれば格別先づ皆無と云つても宜う御座いましよう、其にも係らず口を開けばヤレ膨張的日本だとか、グレーダー、シヤパンだとか、丸で世界を一呑にするやうな事を言つて居るのは、丁度小供が裏の山市で戰さ事をして御山の大將己れ一人と居張つてるやうなもので、愚にあらざれば即ち狂人が聞いたら何んなに笑ふ事でしよう

併し旅行の目的は左樣四角張つた、國家のためとか國民の爲めとかばかり申そものではありません、第一手近の自分のため、三度の食事に次での大切な事で御座いまを、中には何も別に旅行しなくても運動さへ十分にして居れば澤山だと云ふ人もありまをが、運動ばかりでは体の爲めにはなつても少しも精神を養なう足しにはならないもので、精神の保養がないならば、体はいくら健固になつても一向その身に利益そるところはないものでを、夫れ故縱令平生十分運動として居る人でも時々は旅行を試みて珍らしい景色をも見新らしい智識をも得、其思想の轉換を謀らなければなりません、況して平生餘り運動をしない人、若しくは運動そる時間のない人は、せめて一週間に一度でもよろしいから、身輕るに出で立つて近在の旅行でもして御覽なさいませ、歸つて仕事に取りかゝる時には吃度新らしい元氣が体中に充ち滿ちて、丸で生れ更つたやうな氣がそるに違ひありません、若しろれ一ケ月二ケ月の暑中休暇と利用して一年分の氣晴でも散じやうとなさいまをなら、以下章を追ふて記載致しまそる注意萬端の事抔を御覽下をつた上、更に名所案内の條を繙ひて、御都合のよい方へ御發足なさいませ此書は凡ての点に於て十分旅行者の便宜をはかつてある積りでを

旅行の準備

一月二月の旅行をしやうと思ふ時には豫め其道順と時日とを定めて置くのが肝要でを、殊に家族と持つて居るとか會社へつとめて居るとか云ふ人は、前以て何時何日には何處何處の何と云ふ宿屋へ泊ると云ふ事まで定めて御置きなさい、多少遊覽の自由を制限される樣ひはありまをが、人事家事には何時何の樣な急の事が起つて來るかも知れません、其時若し當人の行き處が知れなんで居て御覽なさい、後に愛つたものゝ心配は何の位でしよう、

現に編輯者の知つて居る或る華族の若様なぞ其の爲め親の死に目に會へなかつた事がありました、些細な事でもあり面倒な事でもありますが此れは是非とも必要な事で御座いますそ日も定まり處も定まりましたら今度は服裝でそが此は夏冬とも洋服に限りますそ、乘り物で通そつもりなら和服でも一向差支えはありませんが、一体旅行の面白味はくたびれた足を引きずり乍ら彼方へ寄り此方へ寄りそる間にあるのでして、汽車や汽船の上等室に座つたまゝではナットも旅行にはなりません、縦令又足弱か何かと連れて居て迚も歩く事は出來ないとした處が、矢張り洋服の方が輕便で宜しう御座いますそ、それで地質は冬ならスコッチ、夏ならばセルでそが、土用の中なぞにい縮の洋服も一寸ナツでそ、仕立方は餘りキチンとしないで少しは寛みのある方が若心地も宜しう御座いますし何かの時の便利にもなりまそ、ポケットも成る丈け大き目〳〵に仕立て、殊に上着のポケットには覆と附け其又覆へは釦を附けて御置きなさい、此は飛んでも駈けても中の物が落ちないためでそ、襯衣はホワイトシャツがあれば結構でそが、此は窮窟な上に田舎へ行では洗濯に困りまそから、冬ならチルの襟附、夏ならば縮の襟附にあさいませ、併しカラーは襟の汚れを防ぐばかりでなく、夏などあれの有る無しで餘程涼しさが違ひますから半ダース位は用意して置くのも宜しう御座いましよう、そして若しカラーを用意して行くとそれはシャツは襟附でなく

ても搆ひません、其代り襟飾の洒手なのを二ツ三ツ持つて入らつしやい、盛夏には短衣を脱いてシャツの上へヂカに上衣を着る事もありますが、襟飾さへ一寸氣が利いて居れば反つて見た處のいゝものでそ

帽子は鳥打に限りまそ、冬から春先へかけてはスコッチか玉羅紗が宜しう御座います、近頃若紳士の仲間に流行出しました古代摸様の緞子も面白う御座いまそ、夏は普通麥稈帽子でそが、風に吹き取られる心配がありまそから、少し重苦しい嫌はありまそが出來るならコルクか燈心で搆へて、一寸覆をかけた例の白ひのになさいませ、履き物は一体なら靴に致そべきでそが日本人の足はまだ履き慣れで居ないものでそから、稍ともすれば足を痛めて早く草臥が來まそ、それよりい寧ろ脚袢を着けて足袋を履いて草鞋にした方が得策でそ宿へついたら宿の下駄を借りて、見物でも何でもなさいませ、併しそれでは餘り下品過ぎる是非靴をと思召すならゴムはよしにして編上げを御召しなさい、ゴムは兎角履いてる中に足に合はなくなるやうな事があつて困りまそ

身に附いたものは此の外ツボン下、猿股ですが此は其時々適宜のものを御需めなさるがよろしい、蝙蝠傘はステッキの代りにもなるのでそから、重くなくてそれで丈夫なのが宜う御座んしよう、時計に磁石、ナイフに双眼鏡、それに一寸した手帳など矢張り肌身を離し

てはならないものでも、外に着換が一枚、是は手ぬぐひに限りません、冬はろの他に羽織を用意し、夏は縮の浴衣を用意して御置きなさい、大概の宿屋では着けば必らず着換を持て来るものでもが、悪ひ病ひの黴菌などが附いて居ないとも限りません、此は是非用意して置くべきでも、それから出来るなら夜の物を被ふシーツが一枚と空氣枕と一つ、手拭は無論の事でも、

食べ物は極く〳〵の田舎へでも行く時は何か用意して行かねばなりませんが、今は鑵詰と云ふものがありまして、大概の處へは行き渡つて居ますから其必要もありませぬ、酒や煙草も變つた好みがあれば格別、それでなければ矢張り持て行くには及びませぬ、何んな山奥へ行てもコインに正宗の瓶詰は吃度ありまそ、寧ろ困るのは醤油の方で、醤油が悪ひため折角の魚もうまくなかつたと云ふ事が屢ありまそから少し食ひ物の通をやらうと思ふなら土菱と瓶へでも詰めて御持ちなさい、

此の外箸、小揚枝、耐風マッチ、ピストル、桐油、験温器、寒暖計、毛布、西洋剃刀、歯磨、楊枝、石鹸、巻紙、封筒、郵便切手、葉書、頼信紙、鉄、鑢詰切、栓抜、筆、鉛筆、矢立、櫛、鋭、コスメチック、香水、名刺、認印、毛抜、手形用紙、収入印紙、耳掻、眼鏡、風呂敷等の内自分に入用なものを撰んで一つの旅行カバンへ御詰めなさい、携帯品は

成る可く一纏めにして止むを得ざるもの、外決して二包みにしないやうになさいませ（尤も荷物を背負つて二里三里と歩行かうと云ふには振り分けにするに限りまそが）ろして其の包も成る可くキッシリとせずに幾らか餘裕をつけて御置きなさい、此は途中で色々のものと買つた時、初からキッシリして置くと後で詰める事が出來なくて厭でも二包みにしなければならないやうになるからでそ、

忘れてならないのは藥でそ、銘々合ひ藥があるなら吃度夫れを御用意なさい、其他水わたりとか食あたりとか乃至は流行病の豫防藥としては複方コロ、ダイン、風藥としてはヘブリン丸、船や車の酔ひには清快丸、切創打ち身などの救急藥として石炭酸、昇汞水などは是非携帯する必要がありまそ、繃帯はあれば結構、併し無くても此は手拭でも間に合ひまそから心配そるには及びません、繃帯ばかりこゝで大袈裟

此れ等の物が一通り揃つた處で扨今度は書籍でそ、演車の中とか船の中とか乃至は宿へ着いてから、ツイ讀ひものがないため飛んだ退屈とする事がありまそ、此れは矢張りはじめから何々と本を定めて置いて旅行の傍ら勉強をもする方がいいでしよう、併しそれが面倒と云ふなら、源田泣菫の『暮笛集』とか浩々歌客の『詩國小觀』とか云ふものを持て行つて月明かなる波打際、木蔭涼しき山の峡あたりで、靜かに吟誦したなら益し羽化登仙の快がある

だらうと思ひまそ、若し又學生諸君が學校の休みを利用しての旅行でしたなら、是非松村博士の『植物採集便覽』を御携帯なさるやうに、此は縱令採集をしないまでも、季節及色彩によつて各植物の名がわかるやうにしてありまそから、一寸路傍の草を摘んで其名と知らうと云ふ時など非常に利便を感ぜる本でそ、外に參謀本部の地圖と汽車の時間表此は申そまでもありません、

旅中の心得

『扨も美事なおつぐら馬や、七ツ浦圖に曲祿そへて浦圖ばりして小姓衆と乘せて、海道百里を花でやり』ましたのは、遠き見ぬ世の夢となりまして、今では何處へ行くにも彼處へ行くにも是非厄介にならなければならないのは汽車と汽船です、旅中の注意と申しても、外は二の次、第一には先づ是れでそ、ろれで賃錢の事や里程の事や、荷物托送の事などは別に一章を設けて說明してありますから此處では一般の注意だけを申して置きましよう

一、汽車にしても汽船にしても時計は正確にして置かなければなりません、成らう事なら五分の十分は進ませて置く事が肝要でそ、たつた一分の違ひで乘り損じで二時間も三時間も長待ちしなければならぬ事がありまそから

二、切符を買う前に豫め賃錢の支度をしてお置きなさい、窓の下へ立つて剩錢を一々勘定して受取るのは氣が利かない事も此上なしでそが無益の時間を費して側に迷惑をかける事も一通りではありません、此も當時流行の公德問題の一つでそ

三、汽車へ乘る時、先を爭ふてまだ十分停車しない前に飛び乘りとやるのは危險此の上もない事でそ、列車の中には兎もそれば一度停車して後ヅシンとはづみを食はせるものがありまそから能く注意しなければいけません、

四、併し餘り悠々として居つて列車に座席がなくなつて立往生そるのも感服した事ではありません、それに鐵道營業法第十五條に『乘車券を有する者は列車中座席の存在そる場合に限り乘車そる事を得』とありまして、座席は出來ないものですから能く〳〵氣をれつけなさいませ能く切符を賣つた癖に乘せない法があるかと云ふて驛長を相手取つて訴を起したりなどそるものがありまそが此は無理でそ鐵道營業法と知つて居らないからの事です

五、列車運轉中に飛び乘りしたり飛で降りたり、又は列車の運轉中車の側面にある昇降口を開いたりそるものは同じく鐵道營業法により見付けられたが最期廿五圓以下の罰金に處せられまそ

六、切符を持たずに乗つたり又持つてたにした處ろれが無効の切符であつたりしまそと普通賃錢の二倍以内の割増を取られまそ、切符檢査の時故意に切符を見せなかつたり又降りる時其切符を掛り員に渡さなかつたりそるものも同じく二倍以内の割増と取られまそ併し時間が迫つて切符を買う暇がなく、係り員の許諾を得て乘り込んだものは咎數に係らず廿錢以内の割増で濟む規則でそ

七、時々列車が停車場でない處で停止そる事がありまそ殊に擦れ違ひ驛などでは停車場の入口で停止する事がありまそが其時は係り員の許しがない以上矢張り下車してはいけません強て下車しまそと鐵道營業法第三十三條によつて處罰されまそ

八、一度切符を買つた後でもまだ切つてない間は外の切符と買ひ替へる事も出來まそし又之を返して賃錢を戻して貰ふ事も出來まそ但それは買つた其日の中の事で明日になつてはモウ無効でそ

九、列車が遲れた爲め乘り換へ驛で接續列車に乘車そる事が出來なかつた時には通し切符を持て居るものに限り、無賃で出發停車場まで送り返して呉れまそのみならず、其賃錢とも戻して呉れまそ併し若し乘客が其驛へ降りて用を足したり又は歸りに途中で下車したりなどそる時には矢張り當り前の賃錢を取られまそ

十、手荷物を賴ひには列車の出る五分前に其手續をしなければなりません後れまそと其列車で送らずに次の列車へ廻される事がありまそ、

旅宿は前以て能く擇んでお置きなさい重立つた市の旅宿は此の案内の中に指名してありまそが、指名して無い處は今日泊つた宿で明日泊るべき宿へ紹介して貰うと云ふやうになさいませ、返そ〳〵も車夫や宿引の言ふ事を聞いては不可ません

旅宿は小さいのよりは寧ろ大きい方を御撰みなさい、食ふ物や待遇の善惡は言を費そまでもなく、經濟の点から云つても其方が得策でそ、

旅宿へは成る可く早く着くやうにしませんと折角着いても善い座敷は旣に人に占領されて同ト宿料を拂い乍ら汚い座敷へ寢かされる事がありまそ出立も早く泊りも早くと云ふのが旅行第一の秘訣でそ、學生の旅行なら茶代の必要はありません東海道の旅宿などでは近頃大部學生の取扱ひ方に慣れて來ましたから茶代をやつたからとてやらなかつたからとて別段の變りもありません夫れより女中に廿錢もやる方が利き目があります（茶代をやるなら着いた時早々にやるが宜しい立つ時やる位なら寧ろやらない方がましでそ）

時計だとか紙入だとか云ふものは旅宿へ着いたら直ぐ帳場へ預けて預り証を取つて御置きなさい幾ら善い宿屋でも決して床の間や戸棚へ拋り放しにして置ては不可ません泊り合せ

の客の中に何んな人物が居るかわかりませんから
停車場前の茶屋とか車の立場馬車の帳場とかに
一箱玉子一個でも金を出して買つたなら別に茶代を置くには及びません茶代と云ふ奴は置
いて馬鹿置かなくて馬鹿と云ふ位で置いた爲め此奴金があるなと見込まれて車屋から旅宿
から一切合の大荒扱ひをされて困つた例はいくらもあります
旅宿へ着いたら早速衣服を着替へて、それから湯、それから飯、飯を仕舞つて市中を散歩
でもして歸つて日記を書くと云ふ順序にそるが宜しい、衣服は和服なら女中に命令して直
ぐに乾そ、洋服は上衣と外套を別々にして叮嚀に疊む、若し瀧車で椅子摺れでもして黒光
りに光るやうな事があつたら早速テレビン油を酒精にとかして、それをフランチルの切へ
つけて能く擦つてお置きなさい、
革鞄などへ詰めて置いた衣服は兎もすると微臭くなるものでそから之は前以て消炭を紙に
包んで其間へ入れてお置きなさい、若し又油でも付きましたなら大根の卸し汁を油の着い
た處に揉み付け熱湯で一寸摘み洗いとなさいませ、蠟燭の蠟などが付いた時には温灰を紙
に包み汚染の上を擦つてお置きなさい、晩酌の時ヒョットお酒がかゝりましたら煙管の雁
首を口に啣んで煙を二三反吹きかけてお置きなさい

靴は脱いだ時直ぐ泥を落して叮嚀に磨いて日の當らぬ處へ置くが宜しい、大概の人は履く
時に磨いて、脱いだ時には一向掃はないで置きまそが、是れは靴を長く持たせる法ではあ
りません
靴墨は奇麗な水で餘り濃くなくうつそり溶いて靜かに塗るが宜しい世間では皮を柔かにそ
るためとて酢や酒で溶くものがありまそが此等は其時一寸は皮を柔にしまそが質と荒らし
て仕舞ひまそから反て不爲でそ、赤靴は別に瓶へ這入つた塗料がありまそが光澤出しに
一番善いのは玉葱の汁でそ、次ではレモン、橙等の汁で先づ最初處々にある黒い汚点を洗
い落して、それから皮一面に薄く前記の汁を擦りつけて、其あとをフランチルの小切れで
磨き上げるのです、バナヽの實も特効があると云ふ事でそから試めして御覽なさい
濡れた靴を其まゝ乾かしたり又水で洗つたりすると皮が堅くなるばかりでなくヒドク恰好
を損して仕舞いまそから靴が濡れた時には先づ溫つた雜巾で泥を拭取つてオリーブ油かワ
セリンを塗つた上日影で乾かして其上で靴墨を御塗りなさい、オリブやワセリンがなけれ
ば牛か豕の脂でも宜う御座いまそが、此方でそと光澤出しが困難でそ

旅中の衞生

藥の事は前にも一寸申上ましたが旅へ出ては病氣が何より恐しう御座いまそ、此れが連れでもあるとか知り人でもあるとか云ふのなら未だしも、見ず知らずの他國で一人ぼつちで病氣をする程つらいものはありません、殊に山路へでも踏み込んで醫者に縁遠い處で〳〵も病み付いて御覽じろ、氣ばかりでも生命にかゝはる位のものでそ、それ故前以て一寸した病氣の手當だけ心得て置くのもわながち無用の事ではありまそまね、

中毒した時　には何でも早くそれを嘔き出させるが肝腎で湯三合に塩一摑みの割合で食鹽湯をこさへて飲むもよし湯三合に芥子一匁の割で芥子湯をこさへて飲むもよし、モット輕便な法では鳥の羽を口へ入れて喉を擦つても宜しい、併し此れは其中毒が嘔衝を起させるか痲醉を起させるかの場合で、若しヒヨットして石炭酸とか重コローム酸とか凡て腐蝕の性質を有して居る毒藥でも呑んな場合には牛の脂でも又バタでも宜しいから溶して置て飲めるだけ御飲みなさい、普通の食當りと云ふやうなものも此の方法で宜しう御座いまそ

切傷の場合　若し血の色が黒く濃かつた場合には水で洗つて其上を石炭酸で消毒して白い布で巻いて置けばいゝのでそが、若し血の色が紅くて脈の打ち方も激しく容易に止りそうもない時には血管を壓迫して、手拭か何かで其前後を縛つてお置きなさい、そうしないと血はいくらでも出て來て何時まで經つても止め途がありません、何れにしても注意そべきは袂の埃や煙草の屑などを傷口につける事で、此は一向血止めの効がないばかりでなく稍もすれば其の中から色々の黴菌を移植して思はぬ病氣に罹る事がありまそ、

挫傷の場合　高い山へ上つたりなどそると、得て足を挫いたり手を挫いたりそるものでそが、其場合には時を移さず挫いた部分を熱い湯につけるか若しくは沸騰した湯で絞り上げたフランチルで以て其の傷所とお包みなさい、人家を離れて湯のない場合にはアルコールかブランデーと水に割つて其中へ手拭を浸して夫れで包んで置いても宜しい、併し此れは救急の手當だけで決して挫傷の治療法ではありませんから、此まゝで捨て〳〵置てはいけません、あとで御醫者樣にかゝるのは無論の事でそ

毒虫の場合　當り前蛇に噛まれた時は柿の澁をつければ直ぐ治りまそが、蝮に噛まれた時には其處だけ切て仕舞うか又焼いて仕舞はなければなりません、此れは毒が体中へ廻る恐があるからでそれから蜂にさゝれた時には重曹をとり込むのが一番能く利きまそが煙草のヤニや玉葱の汁も利かない事はありません、若し又さゝれた針が殘つて居ましたら、小さな鍵と持て來て其穴で強くれ押しなさい、針の抜ける事請合でそ（トゲをとをした時も矢張り鍵の穴で抜く事が出來まそ）

出血の場合　鼻血が何樣しても止まらぬ時には顔を仰向きにして両腕を頭の後に置き、

片手で鼻を摘み乍ら片手で頸頭と御冷やしなさい、大抵は此れで止まりますが若しそれでも不可ませんでしたら塩水か明礬水を鼻の穴へ注ぎ込むでも、酒を飲み過ぎたり激しく運動したりして血と吐く事がありましたら先づ氷の片を口に含み、それから氷嚢を胃の上へ乗せて静かに休んで御出でなさい

●腦充血の時　腦充血と云ふ病氣は恐い病氣でして、一時間前まで大きな聲で談笑して居たものが突然眼を廻はして其まゝ事切れになる事も少なくはありません、一寸でも手當が遲くれるとモウ取り返しがつかなくなるものでそから、少し激しく起つて來た時には用捨なく肩でも頸でも切り開いて血を出すのでそ、併しそれ程激しくない時には水で冷やしてろ〳〵肩を叩いて置てそれから「ブローム加里」なり、健腦丸なり御飲みなさい

●下痢した時　下痢にも色々ありまして赤痢などとなりますと素人療治では反つて事を誤りますが普通寒冷へとか食當りとかで下痢する時には先づ善いブランデー四オンスに桂皮水四オンス、玉子の黄味二個と砂糖半オンスとを交せて一度に三匕か四匕づゝ御あがりなさい、それでも利かなかつたら今度はコ、ロダインの複方でないのを十五滴から廿滴位水に溶かして御飲みなさい

●蟲の塲合　寶丹や清心丹で善くなる間は結構でそが、それも利かなくなりましたらコカイン　〇、〇三を水十瓦程に溶解して御飲みなさい、醫者に賴んで前以て用意して置くと宜う御座います、橙や密柑の皮も一寸効能があると云ふ事でそし、鰻も暈を消すとか申傳へて居りまそ、

●疲勞興奮劑　非常に疲勞した時にはブランデー一合と肉桂水一合と善く打つた玉子の黄味二ッと白砂糖四匁とを交せて十分毎に四匁づゝ飲むと身体が落ちつくものでそ、それから足の疲れた時には鹽水で揉んでもよし、醋を交せた湯で温めてもよし、疲れがヒドクて痛みを覺える時にはアンモニア又は硼砂を溶かして其湯の中へ足とつけて置くと奇妙に疲れが取れて仕舞いまそ

●水の鑑別法　飲まうと思ふ水とコップへ入れてそれへ單寧酸を一匙加へて見て若し濁つたら飲んでは不可ませぬ濁らなかつたら飲んでも差支はありませぬ、若し旅中で單寧酸など持合せて居ない時には上等の砂糖を加へて日光に晒して見て濁らなかつたら安心して御飲みなさい、併し穩め單寧酸五分、舍利別四分、蒸溜水六分及酒精十二分半の混合液を拵へて置いて水の中へ落して飲むと大概の毒は消して仕舞ひます

●水浴と水泳　近頃海水浴と云ふ事が大分盛んになつて來まして、旅行と云へば吃度海水浴が之に伴ふやうになつて參りましたから今本章の終に臨んで簡單に其心得を申上げて置

さまでしよう、

一体人の体の温度と云ふものは攝氏の卅七度が平温で、それより以上でも不可ませんし以下でも亦宜しくはありません、處が海水冷浴をしますと此の体温が卅五度以下に降つて少し寒氣と感ずるやうになり、海水温浴をしますと卅九度以上に昇つて身体が熱灼するやうになつて來ます、即ち共に生理的平温に變化を與へ一時不健康の狀態に陷るものでそ、それも此の不健康の狀態は身体の内部から起つたのではなく外部から無理に押し付けられてなつたのでそから、内部の諸機關は之に反抗して是非共以前の健康なる狀態に返そうと して茲に一種の生理的作用を生ずるのでそ、此生理的作用が即身体の健康を増進する基なんでそが其生理的作用は孰れも反動的作用の事故餘り長くなりますと反つて身体の衰弱を來すものでして、殊に病氣上りの人なぞは益〻其病原を深ふする恐がありますから冷浴にしても温浴にしても定度と云ふ事が何より肝腎でそ、それで其定度と申すのも人によつて多少の變りは御座いますが、先づ達者な人は朝晝夕二回、少し体の弱つて居る人は朝夕二回、病の末期で營養の甚しく衰へて居る人は一日一回が適度でそ、そして一回毎の入浴時間は十五分から廿分までの間で、どんな達者の人でも之を過ぎては不可ません、それから又病氣中の人及び治つて未だ間もない人は冷浴よりも寧ろ温浴の方が宜しう御座いま

す、

水浴に適する時間は朝の六時から八時までゞ、日中に泳がうとする時には必らず帽子を冠つてそして又時々頭を水の中へ沒入そる事を忘れてはなりません、汗をかいて路を歩いて來て其汗を拭かずに直ぐ水中に卒倒そる事がありますと其爲め腦充血を起して水中に飛び込むのも大毒でそ、時による御飯を食べたばかりで直ぐ水に這入つたり、御酒を飲んでまだ醉の醒めぬ中に水浴そるのも大毒でそ、俗にこゞらが返ると云ふのは大概滿腹痛飲して入浴した結果でそ、併し左樣かと云つて又空腹の時泳ぐのは尚惡るう御座います、身体が疲れて嘔氣を催そばかりでなく、事によると手足がしびれて動けなくなる事があります、

水へ入る前に体を激しく動かそ(例えば水に赴く前に疾行する如き)のも宜くありません、緩り歩いて行つて先づ淺い處で腕、腋下、胸、頸、頭を能くしめし、それから指へ水をつけて耳の中を掃除し、徐々に深い處へ入つて行つて、やがて全身(頭をも)水中に沒して、ろれから泳ぎ始めるのです、頭と水の中へ入れて能く冷やして置きませんと、腦充血を起す憂がありまそ、

水から出た時には乾いた手拭で全身を摩擦し、衣服を着て少し運動をなさいませ、運動し

なあとでブランヂーを少し飲んで置きますと非常に氣力を増すものです。

汽車と汽船

旅行をするに何の道心得て置かなければならないのは汽車と汽船の規則でそ、殊に近頃鐵道線路が蜘蛛の巢のやうに彼方へも此方へも引き廻はされましてからは、一寸間違つても直ぐ神戸へ行かうと云ふものが京都へ連れて行かれたり、奈良へ行かうと云ふものが和歌山へ連て行かれたりして、飛だヒドイ目に逢はされまそ、能々注意しないといけせません、

●全國鐵道會社一覽

それで汽船の方は先づ後まはしとして、汽車の方から申ましようならば、明治參拾四年四月の調べによりますと全國鐵道會社の數は四十二で細別すれば

官設鐵道

基隆新竹間（六〇哩二〇）
新橋神戸間（三七七哩一三）
大船橫須賀間（一〇哩〇三）
大府武豐間（一二哩〇四）
多治見名古屋間（二二哩四二）
米原富山間（一五二哩六七）
高崎直江津間（一一七哩〇三）
福島上の山間（五四哩一五）
青森靑之巢間（六二哩〇五）
砂川旭川士別鹿跡間（一二九哩二八）

日本鐵道

新橋赤羽間（一六哩一四）
上野水戸平仙台間（二二哩五三）
小山友部間（二七哩〇四）
上野前橋間（五〇哩七五）
上野高崎間（六九哩〇九）
青森間（四五六哩七二）
宇都宮日光間（二五哩）
尻內淺間（五哩四）

九州鐵道

門司佐世保間（五四哩六二）
小倉行橋間（一五哩〇二）
有田伊萬里間（八哩二）
早岐長崎間（四八哩一五）
鳥栖旗本八代間（七七哩六四）
宇土三角間（一五哩二六）
若松直方大隈間（三〇哩三六）
直方伊田間（九哩六九）
小竹幸袋間（三哩〇四）

關西鐵道

湊町奈良間（二五哩四三）
天王寺大阪間（六哩四七）
王寺櫻井間（一三哩一一）
名古屋奈良間（八一哩二四）
龜山草津間（三五哩〇三）
加茂網島間（三一哩七二）
津龜山間（九哩六〇）

豐州鐵道

行橋宇佐間（二七哩六三）
行橋川崎間（一〇哩六九）
後藤寺宮床間（一哩七一）

炭礦鐵道

室蘭札幌小樽手宮間（一三三哩一九）
岩見澤幌內間（八哩三四）
幌內太幾春別間（四哩三九）
岩見澤砂川間（二一哩九五）
砂川歌志內間（五哩九六）

伊豫鐵道

高濱森松間（九哩二三）
横河原立花間（七哩三〇）
外側部中間（六哩五五）
古町松山間（二哩八八）

南海鐵道

和歌山雜賀間（三八哩七六）
天下茶屋天王寺間（一哩三七）

中越鐵道

高岡伏木間（四哩四五）
高岡城端間（一八哩四一）

房總鐵道

千葉大原間（三五哩六二）
大網東金間（四哩三〇）

成田鐵道

佐原安食間（二二哩五七）
成田佐倉間（七哩七八）

總武鐵道

東京銚子間（七一哩七七）

豆相鐵道

三島大仁間（一〇哩七一）

豐川鐵道

豐橋大海間（一七哩三〇）

近江鐵道

彥根貴生川間（三六哩）

七尾鐵道	七尾津幡間	（三三哩四五）
奈良鐵道	京都柵井間	（三八哩一五）
京都鐵道	京都園部間	（二二哩一六）
西成鐵道	大阪安治川間	（三哩五二）
阪鶴鐵道	尼崎福知山間	（六七哩七五）
參宮鐵道	津山田間	（二六哩一〇）
尾西鐵道	蟹江新一宮間	（一六哩）
南和鐵道	高田五條間	（一四哩六九）
紀和鐵道	天王寺和歌山間	（三一哩一九）
高野鐵道	大阪堺間	（一七哩三一）
河南鐵道	柏原谷田林間	（六哩〇六）
播但鐵道	姫路飾磨間	（三〇哩三四）
中國鐵道	津山岡山間	（三四哩七六）

鹿津鐵道	鹿原秋見間	（一七哩二六）
德島鐵道	德島撫川間	（二一哩三九）
讃岐鐵道	高松琴平間	（二七哩一九）
甲武鐵道	東京八王子間	（二六哩七七）
川越鐵道	國分寺川越間	（一八哩四〇）
青梅鐵道	立川日向和田間	（一一哩三三）
東武鐵道	東京久喜間	（三四哩六三）
龍崎鐵道	佐貫龍ヶ崎間	（三哩六九）
太田鐵道	水戸太田間	（二二哩一一）
佐野鐵道	越名足生間	（九哩五六）
上野鐵道	高崎下仁田間	（三二哩九）
北越鐵道	直江津沼垂間	（八四哩一一）
岩越鐵道	郡山若松間	（三九哩一一）
山陽鐵道	神戸厚狭間	（三〇七哩四一）

會社の數は此の樣に澤山あつて線路の哩數も仲々大したものでが切符や手荷物の規定は何處も彼處も大概同じやうなもので今其中の必要なものを擧げて見しようならば

●五十哩以上の切符　各鐵道とも五十哩以上の切符に就いてはそれ〳〵特別の利益と與へてあります先づ官設鐵道の東京神戸間及高崎直江津間では左記の驛に限り下車して再び乘繼ぐ事が出來ます

横濱、大船、藤澤、大磯、國府津、御殿場、三島、沼津、興津、靜岡、淸水、大井川、掛川、名古屋、一ノ宮、岐阜、大垣、米原、敦賀、武生、福井、小松、松任、金澤、津幡、高岡、富山、倶利伽羅、馬場、大谷、京橋、大阪、三ノ宮、神崎、神戸、高砂、龜山、桑名、四日市、關、龜山、加納、大垣、美濃赤坂、垂井、關ヶ原、柏原、長濱、敦賀、今庄、鯖江、福井、森田、金津、吉崎、松岡、細呂木、丸岡、芦原、牛ノ谷、大聖寺、動橋、小松、粟津

友部、笠間、水戸、關本、勿來、湯本、平、原ノ町、中村

切符の通用期限は前と同じく五十哩以上百哩未滿は二日、百哩以上二百哩未滿は三日、二百哩以上三百哩未滿は四日、三百哩以上四百哩未滿は五日四百哩以上は六日でそ

山陽鐵道の神戸三田尻間は前の二つとは少し違つて居まそ、即ち乘車規程に

五十哩以上の切符を所持せらるゝ乘客は姫路、岡山、笠岡、福山、尾道、糸崎、廣島

已斐、宮島、岩國、柳井澤、德山、三田尻、小郡の十四驛に限り下車し通用期限內再び後の列車に乘繼ぐを得べし但し官線と連絡の切符を所持せらるゝ乘客は右十二驛の外神戸兵庫の二驛にても同樣下車そるを得べし

前記十四驛外の途中驛にて下車せらるゝときは最初の乘車驛より下車せらるゝ驛迄を一區域とし更に該下車驛より着驛迄を一區域として此二區域間に對する賃錢を併算し乘客所持の切符賃錢より超過せざれば其儘下車と承諾をと雖も若し之に超過せば其差金を申受くべし

五十哩未滿の切符所持の旅客は途中何れの驛にても下車し切符通用期限內は再び便宜の列車に乘繼ぐ事を得

としてありまそ、夫れで切符の通用期限は五十哩未滿は一日、五十哩以上百哩未滿は二日百哩以上は百哩毎に一日を加へる割合で、社線と他線との連絡切符には相互の哩數を通算そる規定でそ

●手荷物及小荷物　一手荷物と云ふのは旅客が自分で持て列車へ這入るか又は手荷物係りへ預けるので、鐵道局をはじめ各道道會社を通じて一等客は六十斤まで二等客は四十斤まで三等客は三十斤まで無代で托送そる事が出來るのでそ、小荷物と云ふのは必ずしも旅客が之を持て行く必要はないので、詰り小包郵便のモ少し簡便なものと思へば差支へありません、それに小荷物は毎客車便で運送そるものもあ商品の見本、親戚朋友の間に贈受そる少量の荷物運送には極めて安全に且つ速達の便が有まそし又鐵道線路の聯絡せる道中は其各鐵道を通じて運送そるを得るの便もありまそ（例へば官線の弘前驛發送の小荷物日本鐵道の奥州線及赤羽線を經て更に官線の東海道線に移り最後に山陽鐵道線を經て廣島驛に着し同驛より宛名の人に配達そるの類）此の場合には運賃は總べて鐵道局の規程通でそ、小荷物の配達に就ては官私設鐵道皆別々で一定しては居りません官設鐵道では重要驛は配達と爲し日本鐵道の如きは各驛市町村內に配達を爲し其他は概して官設鐵道の如く重要驛の市町村內には直配達と爲そ其の外は荷物取扱店にて取扱つて居まそ尤も甲武鐵道は未だ配達とはじめませんが

小荷物は金貳錢を拂へば二十四時間「ステーション」に預け置くことが出來まそし若し二日間預け置くときは更に貳錢を增しさへそれ〳〵ので途中驛にて用事ある旅行者には最も便利でそ併し運送中に起りたる損失は持主の引受で鐵道局は其責に任ᵖまません

以下掲ぐる賃金は持込配達の賃錢を込めてはありませんが小荷物に限り重なる場所に於ては其請取人の宿所まで配達しまそ但配達賃は十斤迄の物品は金五錢十斤以上は十斤（若くは十斤未滿）毎に金壹錢の割合を以て送出人より受取ることになつて居まそ

小荷物及其他の物品は托送せんとそる列車の刻限より少くも二十分前に「ステーション」の小荷物取扱所に渡さなければ不可間に合はないと次の列車にて運送そる事がありまそから

旅宿手荷物幷ニ小荷物運賃

里程	無賃制限外手荷物	但一最低賃金五錢	小荷物	通常小荷物	紙細工漆器造花帽子煙草入其他小獸其他家具等損じ易く且當商の物品最低賃金拾錢	犬	子犬、子豕	最低賃金五錢	低賃金拾錢
二十五哩迄	壹	一斤ニ付錢	拾	一斤ニ付錢	貳	一斤ニ付錢	貳	一頭ニ付錢	拾
五十哩迄	同	一錢五厘	拾五錢	同	壹錢五厘	同	參	同	拾五錢
百哩迄	同	貳錢	參拾錢	同	錢	同	錢	同	參拾五錢
百哩以上	五十哩迄同		右に掲ぐる賃金は運送里程五十哩迄目方百斤迄のものに限る		同	同	四錢	同	錢
百哩以上毎	五十哩未滿同				同	同	五錢	同	五拾五錢
貸	厘				壹	同	同	同	錢
					錢	同	同	同	貳拾錢

此の外死体は一人一哩につき金貳拾錢最低價金四圓（但滿十二歳以下の小兒は半額）馬車は一輛一哩につき金二十錢最低價金四圓、人力車は一輛一哩につき金三錢最低價六十錢、自轉車及小兒車は一輛一哩につき金貳錢最低價四十錢でそ、

金銀貨幷に地金銀、寶石、金玉細工物は一哩まで金四錢百哩以上毎に金壹錢を加へる割合で最低賃は金五十錢、又紙幣郵便切手及金錢に係る證書類は一斤につき廿五哩まで廿錢五十哩まで參拾錢百哩まで四拾錢百哩以上毎に金拾錢で、此の種類の貴重品の運送は特に定めた列車で取扱ふものでそ、それ放托送者は豫めステーションで其時間を聞合せて少くとも發車の卅分前に小荷物取扱所へ差出そやうになさいませ、

又停車場では重量三十斤以上百斤迄一日金四錢、重量三十斤以下一日金貳錢、自轉車又は小兒車一日に付金五錢の割合で品物を預つて呉れまそ預り品は預け入の日より一ケ月を限りとし紛失毀損に對する賠償額五拾圓以内の定めでそ但し爆發又腐敗し易きもの、他品を汚損そる虞あるもの、荷拵不完全のもの、重量百斤以上のもの又は莚包其他長大のもの等を預け入るゝ事は出來ません

以上は官設鐵道の規定でそが私設鐵道も亦此の規定に從つて手荷物及小荷物を取扱ひまそ

尤も運賃は各鐵道會社を通じて前記の運賃より割引そるもの多く中には三割方も安き運賃にて取扱ふ會社もあります里程は參宮鐵道、關西鐵道、筑豐鐵道の如きは五哩毎に運賃の相違ありて短距離の間に小荷物を送るには大に便利でそ又阪堺鐵道の如きは犬を除くの外は畳目幾斤何驛と何驛との間運賃幾錢と云ふの定めでそ

貨物運送の手續

鐵道で貨物を運送しやうと思ふものは貨物の等級によつて運賃の相違ある事又貨物を澤山送るには貨車がありまして運賃が極めて廉い事を知つて居なければなりません、それで貨物の等級は一、二、三級及高級品あり以上五級ある都合で、其の一級品は何々にして二級品は何々と云ふことは一寸書きつくる事は出來ませんから此處では省きまして其賃錢丈けを擧げて置きます即ち

一級品（穀物、肥料、藁、其他）の運賃は	目方百斤に付一哩	金弐厘
二級品（砂糖、塩魚、紙、其他）の運賃は	目方百斤に付一哩	金三厘
三級品（陶器、煙草、酒、其他）の運賃は	目方百斤に付一哩	金四厘
高級品（衣服、薬品、鶏卵紙、其他）の運賃は	目方百斤に付一哩	金六厘

級外品（駕籠、車、金銀器物、其他）の運賃は品物に依て異なりそれらの貨物速達便と云ふのがありまして此れは貨物の個數により計算そるもので一個五十斤若くは五十斤未滿毎に左記の賃金でそ（但し橙物俵物の類にして斤量に一定標準あるものは斤量の端數を切捨て取扱ふのてそ）

哩程	百哩迄	百五十哩迄	二百哩迄	三百哩迄	四百哩迄	五百哩迄	
賃金	四拾錢	四拾五錢	五拾錢	五拾五錢	六拾錢	七拾錢	八拾錢

併し生絲、繭、絹布、生皮苧、麥稈眞田、燈心、藁、葉煙草、織物器械、寒天、木製箱類小兒車、干糸瓜、帽子類、紙細工品、生鳥、生獸、危險品、死體、貴重品取扱となそべき物品及び重大の物品（一個の量二百斤以上若くは才積四十立方尺以上の物品）は速達便では取扱ひません

貨物速達便は鐵道作業局運輸部の定むる區域内に於ける受取人住所に配達そるもので區域外に配達そるときは配達料を徴收そる規定でをそして貨物速達便列車及貨物速達便の取扱を爲す停車場は鐵道作業局運輸部に於て時々之と定めまそ事故詳細は停車場でれ聞合せなさいませ

全國滊車の賃金表

全國の滊車賃は色々になつて居まして官設鐵道では一等は三等の三倍になつてまそが、山陽線では倍の處もあり、日本鐵道では百哩まで一哩に付三等凡そ金一錢四厘、百哩以上は一哩毎に凡そ金一錢二厘、二等は百哩まで一哩

に付弐銭壹厘、百哩以上壹銭八厘、一等は百哩まで三銭壹厘五毛、百哩以上弐銭七厘の割になつて居まそ

左表の中各驛の下に二、三と記したのは二等三等の畧記で、新橋から静岡までの賃金を見やうとそるには先づ静岡の處から右の方へ横に線を引て、次に新橋の處から下の方へ縦に線を引くと変又した處即一、六〇が所要の三等賃金になるのでそ、官設鐵道の一等は三等の三倍でそから別に書いて置きませんでした外に寝台列車の賃金は晝夜四圓壹弐圓夜參圓で一等賃金の外に時間の長短に係らず徴収されるに事になつて居まそ、

欠

MISSING

旅行案内繪葉書目次

松島 宮島
裏見瀧橋立
墨堤 奈良
大磯 有馬
江の島 吉住
長良川 金閣寺

注意 部合により自三十三頁至五十七頁の頁金表を省略せり

避暑避寒遊覧旅行案内繪葉書目次

松島
宮島
裏見瀧
立石
墨堤
瓦
大磯
馬入
江の島
住吉
長良川
金閣寺

注意　都合によりて自三十三頁至五十七頁の貫金表を省略せ

郵便と電信

旅行中滊車滊船に次で必得て置かなければならないのは郵便と電信の規則です、普通の郵便や電信は誰れしも知らない者は無い位でそが、少し込み入つた配達証明とか、代金引換とか云ふものになりまそと大概は不知不案内で、其ため折角政府で作つて呉れた便法を、見そ〳〵用ゐずに仕舞う事が澤山ありまそそれから、又小包郵便は旅行先で一寸土産物を買つたり名物名産と買つたりした時、前以て宅へ送り届ける必要もありまそし、滊車滊船の便のない處では小荷物托送の代りに小包郵便に托を必要もありますから是非一通りは心得て置かなければなりません、ろれ故左に遞信省で調査になりました郵便電信心得の中から、必要の部分だけ切り抜いて御參考に供を事としました、

郵便の關する一般の注意

郵便物宛名人の住所は國郡町村大字名家屋敷の番號に至るまて成るへく詳細に認め置くへし若し其認め方不十分なるときは誤達又は遲達の慨なきを保し難し但小包郵便物なるときは厚紙又は木札を附著して之に記載をることを得

郵便物の封紙又は帶紙に破損し易きものと用ふるときは封中の物品散亂紛失の愛あるに依り成るへく丈夫なる紙を用ふへし

通常郵便物の大さは曲尺にて長一尺三寸、幅八寸五分、厚五寸を限りとし其重量は第三種乃至第五種郵便物にありては三百匁、商品見本及雛形にありては百匁と超ゆへからず小包郵便物の大さは長、幅及厚は各二尺を超ゆへからず又其重量は一貫五百匁を超ゆへからず

郵便物は其品質形狀に應し危險、損害又は惡臭を防ぐに足るへき適當の包裝を爲をへし

郵便に關する料金は別に定むるもの〻外總て郵便切手を其の郵便物に貼付して之を納むへし

郵便切手は封皮の表面左側の上部に貼付をへし

通常郵便物

通常郵便物の種類及料金の左の如し

第一種	書狀……重量四匁又は其端數毎に	金三錢
第二種	郵便葉書……通常葉書	金一錢五厘
	往復葉書	金三錢
	封緘葉書	金三錢
第三種	毎月一以回上刊行をる定期刊行物……一號一箇重量二十匁又は其端數毎に	金五厘
第四種	書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、畫、圖、商品見本及雛形、博物學上の標本……一號又は二箇以上一束重量二十匁又は其端數毎に	金一錢
第五種	農產物種子……重量三十匁又は其端數毎に	金二錢

第三種乃至第五種郵便物を封緘したるもの及第一種乃至第五種郵便物に該當せさるもの並に葉書の表面又は第三種乃至第五種郵便物に通信文を記載したるものは第一種郵便物として取扱ふへし

異種の郵便物を合裝したるものは其種類中の最高料金を納付すへき郵便物と同一の取扱

を爲さゞへし但し第二種郵便物を他種の郵便物と合裝したるものは第一種郵便物として取扱ふへし

第二種郵便物は其表面に限り左の事項の外之を記載することを得若し之に反したるときは第一種郵便物として取扱ふへし

一　差出人及受取人の宿所氏名、身分、職業及商標等

二　日附及要用、主意、慣用語

第二種郵便物に物品を添附することと雖も原形の儘使用して契約書、委任狀若くは受領證等と爲さんか爲め收入印紙を裏面に貼付したるものは第二種郵便物として取扱ふ若し之に反したるときは第一種郵便物として取扱ふへし

第二種郵便物の料額印面を汚斑したるものと雖も之と同額なる切手を貼付するときは有效とす

政府の發行する通常葉書と同一の寸法及紙質にして同一の位置に「郵便葉書」の文字を印刷し且之と同額なる郵便切手を貼付したる私製葉書は通常葉書と看做し若し之に反するときは第一種郵便物として取扱ふへし

業務用書類は全部若くは一部を筆書したる各種の文書にして特定の人に對する通信文の性質を有せさるものたるへし

商品見本及雛形は營業者と往復するものにして其郵便物の外部に差出人又は受取人の營業名及其表面に商品見本又は雛形と記載をへし

●小包●郵便

小包郵便物を差出さんとする者は小包取扱局所に於て送票紙と申受け其各欄に相當事項を記入し之に小包郵便料相當の切手を貼付して差出すときは受領證を交付す但し此受領證は小包郵便物の還付を受くるとき又は損害賠償の請求等を爲すとき必要に付大切に保存をへし

小包郵便物を還付し又は同一郵便區外へ轉送するに要する料金は後納とす

小包郵便物を還付し又は同一郵便區外へ轉送するときは其還付又は轉送の里程に從ひ更に郵便料を徵收す此場合に於ては還付料又は差出人の請求に依る轉送料は差出人より徵收し受取人の請求に係る轉送料は受取人より徵收す

差出人は小包郵便物差出の際其郵便物か名宛地の小包取扱局所に於て配達すること能はさる場合に於て其郵便物の轉送又棄却を豫め請求をることを得

小包郵便物の料金は左の如し

内地小包郵便料

	二百匁マテ	四百匁マテ	六百匁マテ	八百匁マテ	一貫匁マテ	一貫二百匁マテ	一貫五百匁マテ
十里マテ	五錢	七錢	九錢	十一錢	十三錢	十五錢	十七錢
百里マテ	八錢	十二錢	十六錢	二十錢	二十四錢	二十八錢	三十二錢
百里以外	十六錢	二十四錢	三十二錢	四十錢	四十八錢	五十六錢	六十四錢

●別●配●達●郵便

別配達郵便とは通常の配達時刻に拘はらず直に特使を以て配達さるゝものを云ふ

書留又は價格表記の通常郵便物及小包郵便物は別配達となすことを得へきに付其郵便物の表面看易き場所に「別配達」と記載をへし但し別配達局を指定するときは「何局別配達」と記載をるものとす

別配達郵便物受取人不在等の事故に依り交付をること能はざるときは別配達の效用を失ふものとす

別配達料は其郵便物一箇に付市内は金十錢市外は金三十錢とし他の郵便區内に配達をるときは差出人指定の配達局と名宛地所轄の郵便局との里程に應し別に一里迄毎に金十五錢とす

別配達解繳料は市の内外に拘はらず別に其實費額を受取人より徵收を受取人之と納付せさるときは差出人より追徵をす

留置郵便

留置郵便は差出人指定の郵便局所に留置き受取人の出頭を待て交付せらるゝものを云ふ

留置郵便物差出人は留置郵便局所より其受取人に郵便物到著の通知を請求をることを得

此留置通知料は郵便物一箇に付金三錢とす

留置郵便物は其表面看易き場所に「留置」と記載をへし若し留置局を指定をるときは「何局留置」と記載をるものとす但し留置通知を爲さゞるときは「留置通知」と記載をへし

留置郵便物の留置期間は三十日とす若し交通不便にして受取人其期間内に出頭し能はざると認むる地に宛たるものに限り特に其期門を延長をることあるへし

配達證明郵便

配達證明郵便とは其郵便物か配達を了りたるものなることを證明をるものを云ふ

書留又は價格表記の通常郵便物及小包郵便物は配達證明を爲さゝるときは配達郵便局所に於て其配達證明書を差出人に送付をるものとす

配達證明料は郵便物一箇に付金三錢とす

書留郵便

書留郵便は郵便局の帳簿へ登記し送達上其受授の手續を明かにするものを云ふ

通常郵便は書留と爲すことを得但し價格表記と爲したるものは書留と爲さゞることを得ず

書留郵便物は其表面看易き場所に「書留」と記載し郵便局所に差出し受領證を受取るへし

但し此受領證は書留郵便物の還付を受くるとき又は損害賠償等の請求を爲さゞるとき必要に付大切に保存をへし

書留料は郵便物一箇に付金七錢とす

價格表記郵便

價格表記郵便とは有價の物品を封入したる郵便物の價格を表記をるものを云ふ但し書留と爲したる郵便物は價格表記と爲さゞることを得

價格表記郵便物は其表面看易き場所に「價格表記金何程」と記載し郵便局所に差出し受領證を受取るへし但し此受領證は價格表記郵便物の還付を受くるとき又は損害賠償等の請求を爲すとき必要に付大切に保存をへし

價格表記金額の制限は金千圓とす

價格表記料は表記金額十圓迄は金七錢、十圓以上百圓迄は其超過したる額に對し十圓迄毎に金五錢、百圓以上千圓迄は其超過したる額に對し十圓迄毎に金四錢とす

代金引換郵便

代金引換郵便とは其郵便物の引受郵便局所に於て其差出人の指定したる代金と其引換郵便物と引換を爲さるゝものを云ふ

代金引換郵便物は價格表記の通常郵便物及小包郵便物に限るものとす

代金引換郵便に依る金額の制限は一口に付金三百圓とす

代金引換郵便物を差出すときは其表面看易き場所に「代金引換金何程」と記載し之を郵便局所に差出し受領證を受取るへし但し受領證は代金引換郵便物の還付と受くるとき又は損害賠償等の請求を爲すとき必要に付大切に保存すへし

代金引換郵便物は到著郵便局に留置き其旨と受取人に通知すへきに付受取人は其通知と受けたる局所に出頭して代金と引換に之か交付を受くへし但し其留置期間に關しては留置郵便物と同一とす

取立郵便局所に於て代金引換郵便物の代金を其受取人より取立たるときは引受局所は其旨と差出人に通知すへきに付差出人は所定の期間内に其通知書、受領證及取立金送達料を差出し之と引換に取立金の交付を受くへし

代金引換郵便物の受領證を亡失したるときは差出人は其事由を記載したる證明書にて之に代用をることを得此場合に於ては相當の擔保を供せしむることあるへし

代金引換料は一口に付金五錢とし外に取立金送達料として其引換金額十圓迄は金五錢、十圓以上百圓迄は其超過したる額に對し十圓迄毎に金四錢、百圓以上三百圓迄は其超過したる額に對し十圓迄毎に金三錢とす

現金取立郵便

現金取立郵便とは代金受領證、株式配當券、公債又は社債の利券、保險掛金受領證にして持參人に支拂はるへき證券に對し現金の取立を爲すものを云ふ

現金取立郵便に依る金額の制限は一口に付金三百圓とす

現金取立は同時に二通以上の證券を委託することを得とも雖も同一の債權者より同一の債務者に宛て同時に取立つへきものは此限にあらす

現金取立の委託を爲さんとするときは郵便局所に於て現金取立委託書を申受け各欄に相當事項を記入し金額を取立つへき證券と共に差出し受領證を受取るへし但し受領證は現金取立の取消又は還付を請求するとき必要に付大切に保存すへし

一定の期日内に取立委託を爲すへき證券は其期日より早くも十五日遲くも五日以前に郵便局所に委託を爲すへし但し債務者所在地に達すへき日數を除く

現金取立郵便にして債務者より其金額を取立ること能はさる場合に於て其證券の還付を望むものは豫め委託書に其旨を記載すへし

現金取立郵便にして債務者の支拂拒絶に依るときは取立局所は七日以内に出頭して該金額の支拂を爲すへき旨を記載したる告知書を其居所に殘置くものとす但し前項の請求ある場合は此の限にあらす

現金取立郵便にして債務者の所在不明なるか若くは其取立區域外に移轉したるとき又は債務者か其金額の支拂を拒絶をるか若くは其金額を所定の期間内に支拂はさるときは委託證券受領證と引換に委託の證券を差出人に還付そるものとす

取立郵便局所に於て取立委託の金額を取立たるときは引受郵便局所は差出人に其旨を通

知すへきに付き差出人は所定の期間内に其通知書及委託證券の受領證及取立金送達料を差出し之と引換に取立金の交付と受くへし

委託證券の受領證亡失及取立金の取消の場合に於ける取扱方は代金引換郵便と同一とす

現金取立料は一口に付金五錢とし外に取立金送達料として代金引換と同一の割合に依る

料額を納むるものとす

現金の取立は當分の內郵便爲替金居宅拂を取扱ふ電信局の郵便區市內に於て取立つへき

ものに限る（內國爲替の部爲替金居宅拂の項參看）

郵便物轉送及還付

通常郵便物の轉送及還付は別に料金を徵收せさるものとす

郵便物差出人は其未た配達を了せさる郵便物の名宛變更又は取戻と請求することを得へきに付之か請求を爲さんとする者は郵便物差立前なるときは金五錢、差立後にして郵便に依るものは金八錢、電信に依るものは金四十錢、名宛變更の請求に係るものは金七十錢と前納するものとす

通常郵便物の受取人他の郵便區內に移轉したる場合其移轉先分明なるときは其移轉先に轉送するものとす但し小包郵便物なるときは差出人又は受取人の請求あるときに限り之を轉送するものとす

通常郵便物の受取人既に其宿所を移轉したる後なるときは集配人に受取人の所在地を明示し其轉送を求むることを得若し配達を受けたる後なるときは其郵便物に轉送先を記載したる附箋を爲し配達を受けたる日より十日以內に郵便に差出すときは料金と納付することなくして轉送することを得然れとも其の期限を過きて差出したるときは新に差出したるものと同一の取扱を爲すへし但し受取人の移轉先不明にして郵便物の還付を爲す場合も亦同一とす

郵便物の受取人所在不明なるとき、郵便料不納なるに依り受取人之か受取を拒みたるとき及留置期間を經過したるときは配達し能はさる郵便物として之を差出人に還付するものとす

小句郵便物にして前項の外差出人より豫め其轉送又は棄却若くは受取人より轉送の請求を爲さゝるとき或は轉送の請求を爲したるときと雖も其配達を遂くること能はさるときは之を差出人に還付するものとす

郵便料金還付

郵便料金にして左に記載したるものは其納付人の請求に依り還付するものとす

一　郵便局所の過失に因り徵收したる郵便料過徵額及誤納額

二　通常郵便物以外の郵便物にして郵便局所の過失に因り其取扱を爲さゝりし場合に於ける其料金

三　郵便局所の過失に因り普通郵便に依りて到達したるとき時刻より遲れて受取人に到達したる別配達取扱の料金

四　亡失又は失效に依り損害賠償を爲したる場合の書留郵便物、小包郵便物、價格表記郵便物、現金取立郵便物の郵便に關する料金

損害賠償

郵便物の取扱に關し左の場合あるときは其損害を賠償するものとす但し差出人又は受取人の過失に因りたるとき及其郵便物の性質又は瑕疵に因りたるときは此限にあらす

一　書留郵便物を亡失したるとき

二　小包郵便物若くは價格表記郵便物を亡失又は毀損したるとき

三　郵便に依る取立金の證券を亡失一又は其效力を失はしめたるとき

損害賠償の請求期間は郵便物差出の日より二箇年とす

損害賠償を請求せんとする者は郵便物の種別、品名、箇數、實價、請求金額其他必要なる事項及之を請求する事由を記載したる請求書を差出すものとす

損害賠償の決定に對し不服あるときは其通知を受けたる日より三箇月以内に民事訴訟を提起することを得

損害賠償を爲したる後其郵便物を發見したるときは賠償受領者に通知すべきに付き賠償受領者は其通知を受けたる日より六箇月以内に賠償金の全部又は一部を返付して其郵便物の交付を請求することを得

損害賠償の金額は左の割合に依る

一　書留郵便物亡失のときは一箇に付金十圓

二　價格表記郵便物亡失のときは表記金額の全額、毀損のときは其表記金額と殘存價格との差額但一表記金額市場價格に超過するときは市場價格に依り算定を此場合に於ける市場價格は引受當時に於ける引受郵便局所在地の價格に依る

三　小包郵便物亡失又は毀損のときは重量百匁又は其端數毎に金二十錢

四　現金取立郵便に依る證券の亡失又は失效のときは其實損額

爲替に關する一般の注意

郵便爲替證書は任意に讓渡すことを得と雖も小爲替證書にして受取人の指定なきものは此限にあらず

郵便爲替に關する各種の請求と爲さんとするときは本人に於て其請求書證書等の裏面に委任文を記載し記名調印をするか又は別に委任文を差出すものとす此場合に於ては代人は請求書證書等に代人たるの肩書を付し記名調印すへし

法人又は法人にあらさる團體より郵便爲替に關する各種の請求を爲さんとするときは其請求書證書等に其名稱を記載調印をするか又は其代表者若くは金錢の出納を掌る者に於て其肩書を付し記名調印をするものとす

印章を所持せさる者爲替に關する各種の請求書證書等に調印すること能はさるときは相當保證人を立て記名調印をするものとす

郵便爲替差出人爲替金の受領證書亡失等の爲め之を提出又は呈示し能はさるときは相當保證人を立て其證明書と差出すものとす

郵便爲替證書一枚の金額制限は別に定むるもの、外左の如し但し通常爲替及小爲替の金額は厘位未滿電信爲替の金額は圓位未滿の端數を附すことを得

一通常爲替　金五十圓　一電信爲替　金五十圓　一小爲替　金五圓

郵便爲替證書一枚の爲替料は左の如し

爲替金額	通常爲替料	電信爲替料
十圓以内	六錢	三十錢
二十圓以内	十錢	三十五錢
三十圓以内	十五錢	四十錢

爲替金額	通常爲替料	電信爲替料
四十圓以内	十八錢	四十五錢
五十圓以内	二十二錢	五十錢

小爲替料は金三錢とす

通常爲替證書送達手數料は證書一枚毎に金五錢とす

郵便爲替に關する訂正通知手數料は郵便に依るものは金三錢電信に依るものは電報料に相當する金額とす

爲替金拂渡停止又は解除請求手數料は郵便に依るものは金三錢電信に依るものは電報料に相當する金額とす

爲替證書の有效期間を經過したる場合に於ける爲替金の拂戻請求手數料は爲替一口に付通常爲替及電信爲替は金六錢小爲替は金三錢とす

爲替證書を亡失毀損汚斑したる場合に於ける爲替金拂戻請求手數料は爲替一口に付通常爲替及電信爲替は金六錢小爲替は金三錢とす

至急電報に依り通報そる電信爲替手數料は電信爲替料の外在韓國本邦郵便局所と其他の局所とし間に取組むものは金一圓二十錢其他は金四十錢又電報別配達の取扱に關しては郵便別別配達料に相當そる金額とそ

電信爲替證書別配達料は郵便別配達料に相當する金額とそ

郵便爲替證書の有效期間經過又は亡失毀損汚斑したる爲め再度證書の請求手數料は爲替一口に付通常爲替又は電信爲替は金六錢小爲替は金三錢とそ

郵便爲替金渡濟通知料は爲替一口に付郵便に依るものは金三錢電信に依るものは電報料に相當そる金額とそ

郵便爲替金居宅拂請求手數料は爲替一口に付通常爲替又は電信爲替は金四錢小爲替は金二錢とそ

郵便爲替證書の有效期間は其發行の日より通常爲替及電信爲替にありては九十日小爲替にありては六十日とそ然れとも爲替取扱局所に於て郵便爲替金の拂渡を遲延したる爲め經過したる日數は算入せさるものとそ

郵便爲替證書有效の期間滿了の日より三箇年以內に再度證書の交付又は爲替金の拂戻を請求せさるときは其郵便爲替金は國庫の所有に歸す

通常爲替振出

爲替を差出そ者は爲替取扱局所に於て爲替振出請求書用紙を申受け之に爲替金高、差出人受取人の宿所、氏名〔差出人及受取人の商標、商號又は其他の符號を附記そることを得〕及拂渡局所名を各相當欄に記載し之に爲替金、爲替料相當の郵便切手を添へて差出し爲替證書及受領證書を受取るへし但し受領證書は爲替證書亡失し再度證書を請求そるとき又は爲替金の拂戻を受くるとき證據と爲るへきものに付大切に保存し置くへし

差出人爲替振出の際豫め一定の期間を限り其爲替金拂渡の猶豫を請求そることを得此場合に於ては爲替振出請求書に猶豫すへき日數〔振出の日より起算そるものとそ〕を記載そるものとそ

差出人爲替振出の際相當料金を納付して爲替證書送達の請求を爲そことを得但し受取人所在不明等に依り送達そること能はさるときは之を差出人に還付そ

前項の請求を爲したる差出人は爲替振出請求書餘白に爲替金送付の目的を記載し自己の宿所、氏名と共に受取人に之か通知と請求そることを得但し爲替金送付の目的は爲替證書の餘白に之を記入の上送達し又差出人の宿所、名氏は拂渡の際受取人に通知そるものとそ

差出人爲替證書を受取人に送るときは爲替振出請求書に認めたる差出人受取人の宿所、氏名其他と漏なく受取人に通知そるを可とそ此通知の書面と爲替證書とは成るへく別封にて送るへし

差出人爲替振出後爲替振出請求書に記載せし差出人又は受取人宿所、氏名等に誤記ありたることを氣附きたるときは受領證書と示し訂正請求書と差出そへし此場合に於て拂渡

局所に通知を要するときは各相當料金を納付して訂正事項の郵便又は電報送信を請求することを得

振出局所に於て前項の請求に應したる場合と雖も拂渡局所に於て既に爲替金を拂渡したる後なるときは其旨を差出人に通知するものとす

通常爲替拂渡及拂戻

受取人爲替金を受取るときは爲替證書に記名調印の上拂渡局所に差出し郵便局所吏員の尋問に應し差出人受取人の宿所、氏名其他諸件を明瞭に答へ之を受取るへし

爲替證書の金額、記號番號及證書を發行したる郵便局所主務者の記名調印等不明となりたるときは毀損汚斑したるものとそ

左の場合に於ては爲替金の拂渡を停延す此場合に於ては爲替證書の裏面に其事由及停延の日數を記載調印し之を受取人に返付を但し其停延期間内に事故判明するか又は資金充實し拂渡に差支なきに至りたるときは直に之と受取人に通知をするものとそ

一　爲替證書遞式のとき
二　爲替振出請求書遞式のとき
三　爲替振出請求書未達のとき
四　爲替證書と爲替振出請求書と金額符合せさるとき
五　拂渡資金缺乏のとき

爲替證書金額振出請求書金額と不符合の場合に於て證書又は振出請求書に記載ある金額の少き方に依り假拂渡を請求すると得此場合に於て證書面金額より少なき金額を受取るときは證書裏面に其金額を記載し記名調印をするものとそ

差出人爲替金の拂渡停止を請求せんとするときは受領證書を示し請求書を差出へし若し拂渡局所に通知を要する場合にありては規定の手數料と納付して郵便又は電報通知を爲すことを得

爲替取扱局所に於て前項の請求に應したる場合と雖も既に爲替金を拂渡したる後なるときは其旨を差出人に通知をするものとそ

差出人爲替金拂渡停止の解除を請求せんとするときは前二項の例に依るものとそ

差出人爲替金の拂戻を請求せんとするときは受領證書と共に振出局所に差出をものとそ但し爲替證書の有效期間を經過したる場合に於て爲替金の拂戻と請求をするときも亦本項の手續爲をへし

差出人爲替證書と亡失毀損若くは汚斑したる場合に於て爲替金の拂戻と請求せんとするときは爲替取扱局所に於て爲替金拂戻請求書用紙を申受け相當事項を記載し振出局所に差出し且受領證書と示をへし

前項に依り振出局所は拂渡局所に於て其爲替金の拂渡なきことを確めたるときは其拂戻請求書に拂戻認可の旨と記載し之を差出人に返付をへきに付差出人は拂戻請求書中爲替金受領證印の部に記名調印し受領證書と共に差出をものとそ

差出人又は受取人は爲替拂渡局所の變更と請求をすることを得

差出人爲替拂渡又は拂戻局所の變更を請求せんとするときは振出及拂渡局所名、爲替證書記號番號、爲替金額、拂渡又は拂戻を受けんとする局所名を記載したる變更請求書と受取人爲替拂渡局所に差出し且受領證書を示すへし

爲替取扱局所に差出し且受領證書を示すへし

受取人爲替拂渡局所の變更を請求せんとするときは振出及拂渡局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡を受けんとする局所名を記載したる變更請求書を爲替取扱局所に差

出し且爲替證書を示をへし
前二項の場合に於て拂渡又は拂戻局所の變更を認可そるとき又は既に爲替金の拂渡若くは拂戻と爲したる後なるときは其旨と請求人に通知そるものとそ

電信爲替

電信爲替を差出を者は爲替取扱局所に於て電信爲替振出請求書と申受け之に爲替金高、差出人受取人の宿所、氏名及拂渡局所を各相當欄に記載し且差出人及受取人宿所、氏名には特に片假名文字を附記し之に爲替金、電信爲替料相當の郵便切手と添へ差出し受領證書と受取るへし但し規定の郵便別配達料又は相當の至急電報料を納付して電報賴信紙又は電報送達紙の郵便別配達又は至急電報に依り拂渡局所に其通報の請求を爲そことを得

電信爲替證書は拂渡局所に於て受取人に送付を但し差出人は爲替振出の際郵便別配達料相當の金額を納付して爲替證書の別配達を請求そることを得
電信爲替金の拂渡拂戻振出請求書の誤記訂正、爲替金の拂渡停止若は解除拂渡若は拂戻局所の變更等に關しては總て通常爲替の例に依るものとそ
受取人所在不明等の爲め電信爲替證書を送達そること能はさるときは差出人に還付をるものとそ

小爲替

郵便小爲替を差出す者は爲替取扱局所に到り爲替金及爲替料相當（在清國、本邦各局所相互間又は在清國各局所と其他の各局所との間に取組むものなるとき、小爲替料は五錢を要するものとす）の郵便切手を差出し小爲替證書及受領證書を受取るへし但し小爲替證書金額の直下に主任認印洩なるときは受取人の迷惑と惹起すに依り之を受取る際篤と注意し若し抑捺洩なるときは之か押捺を求むへし
小爲替差出人は其爲替金の受取人及拂渡局所を指定そるも否とは差出人の隨意とす若し受取人を指定せんとそるときは證書面相當欄に受取人の宿所、氏名又拂渡局所名を指定そるとそ
きものは證書特參人に拂渡そものとそ
差出人小爲替證書に指定したる拂渡局所名、受取人宿所、氏名中の變更又は其指定と取消さんとそるときは其證書を受領證書と共に最寄の爲替取扱局所に差出し其旨を申出て之か認可の證印を受くへし
受取人爲替金を受取らんとそるときは小爲替證書の相當欄に宿所、氏名を記載調印の上拂渡局所に差出し之を受取るへし
小爲替證書亡失の場合に於ては其發行の日より百五十日を經るにあらされは爲替金拂戻を爲さゝるものとそ但し相當保證人を立て請求そるときは此限にあらそ
小爲替證書の有效期間を經過したるとき又は證書を亡失毀損若は汚斑したるときは其爲替金の拂戻を請求そることを得此場合に於ては通常爲替の例に依り拂戻局所の變更を請求そることを得

爲替金渡濟通知

爲替差出人は爲替振出の際規定の手數料又は相當電報料を納付して爲替金渡濟通知を請求そることを得但し小爲替なるときは其宿所氏名を申出つへし
通知料納濟の爲替には必そ振出局所にて爲替證書等（電信爲替は受領證書）に「爲替金渡濟通知料

納濟」の印を押し尚電信通知なるときは納濟印の右傍に「電報」の二字を記載そへき筈に付爲ㇾ注意し手續洩なるときは相當手續の履行を求むへし

受取人郵便に依る渡濟通知と要そる爲替金を受取るときは拂渡局所の求に從ひ通知書に記名調印そへし

再度證書

郵便爲替證書有效期間を經過したる爲め再度證書を請求せんとそするときは爲替取扱局所に於て再度證書請求用紙を申受け相當事項と記入し有效期間を經過したる爲替證書と共に之を差出そものとそ

郵便爲替證書亡失毀損若は汚斑したる爲め差出人に於て再度證書を請求せんとするときは爲替金受領證書と差出し前項の手續と爲そものとそ

前項の場合に於て受取人より再度證書を請求そるときは相當保證人を立つへし

再度證書の請求者其發行の通知を受けたるときは再度證書請求書の受領證書と其指定したる爲替取扱局所に差出し再度證書の交付を受くるものとそ

小爲替證書の亡失に係る再度證書の請求は其發行の日より百五十日を經過したる後にあらされは再度證書の發行を爲さゝ但し相當保證人と立て請求そるときは此限にあらす

爲替金居宅拂

爲替差出人（小爲替を除く）又は受取人は爲替金の居宅拂を請求そることを得但し差出人は爲替振出後に於て居宅拂の請求を爲し得さるものとそ

爲替受取人爲替金の居宅拂を請求せんとそるときは其宿所、氏名、爲替種別、證書記號番號及爲替金額を記載したる居宅拂請求書と作り之に料金相當の郵便切手を貼付して拂渡局所に差出すものとそ但し該請求書は無料郵便物として差出そことを得へきに付封入したる封皮には明瞭に「爲替事務」と記載することを要そ

差出人の請求に係る爲替金居宅拂は其拂渡局所に通常爲替振出請求書又は爲替電報の到著したる日又受取人の請求に係るときは居宅拂請求書受付の日より遲くも三日以內に居宅拂渡を爲そへし若し爲替金の拂渡を停延そへき事故ありて其期間內に拂渡を爲そこと能はさるときは其旨と受取人に通知そるものとそ

爲替受取人不在其他の事故に依り居宅拂を爲すこと能はさるときは第二回拂渡月日を豫告し更に其豫告の日に於て第二回の居宅拂を爲すものとそ

左の場合に於ては爲替金居宅拂請求の效を失ふものとそ

一 爲替受取人か拂渡局所の爲替金居宅拂取扱區域外に轉居ㇾたるとき

一 爲替證書の效用を失ひたるとき

一 第二回居宅拂の場合に於て爲替金居宅拂を爲そこと能はさるとき

爲替受取人は差出人又は自己か爲替金の居宅拂を請求したる後と雖も拂渡局所にて爲替金の拂渡を受くることを得

左の郵便電信局郵便區市內に在る郵便局所に於ては同郵便局所に振宛て且同郵便區市內に居住する者の受取るへき郵便爲替に對し爲替金の居宅拂を取扱ふ

武藏國東京郵便電信局
攝津國大阪郵便電信局
山城國京都郵便電信局
武藏國橫濱郵便電信局
攝津國神戶郵便電信局
肥前國長崎郵便電信局
石狩國札幌郵便電信局
越後國新潟郵便電信局
尾張國名古屋郵便電信局
肥後國熊本郵便電信局
陸前國仙臺郵便電信局
安藝國廣島郵便電信局

下野國宇都宮郵便電信局
信濃國長野郵便電信局
陸奥國青森郵便電信局
加賀國金澤郵便電信局
讃岐國多度津郵便電信局

陸前國鹿兒島郵便電信局
和泉國堺郵便電信局
紀伊國和歌山郵便電信局
備前國岡山郵便電信局
後志國小樽郵便電信局

渡島國函館郵便電信局
筑前國福岡郵便電信局
越中國富山郵便電信局
阿波國德島郵便電信局

郵便爲替料金還付

郵便爲替に關し常該事務員の過失に因り左の事故を生したるときは差出人又は受取人の請求に依り郵便切手を以て其既に納めたる料金を還付するものとす但し其請求方は郵便爲替證書有效期間滿了後三箇月以内に料金を納めたる爲替取扱局所に之を爲すへし

一　電信爲替證書の送達を通常爲替證書の到達すへき期限に後れしめたる爲め該爲替金の拂戻となりたるとき

二　郵便爲替の料金納付を要したる特殊取扱に關し其手續を脫漏したるとき

電報の種類

官報とは官廳地方自治體の公信若くは受取りたる官報を呈示して差出す電報等を云ふ私報とは官報を除き諸般の通信に附きて都ての者より差出す電報を云ふ通常電報とは次に示す特別の電報にあらさる尋常普通の電報を云ふ至急電報とは通常電報に先ちて傳送せらるゝものと云ふ此電報は「ウナ」の畧符號と以て指定すへし

返信料前納電報とは返事の電報に要する料金を前納する場合は「ナッ」照校電報料を前納する場合は「ナム」の畧符號を以て指定すへし但和文は十五字歐文は五語を超えて前納するときは畧符號の次に其字數又は語數を加記すへし

照校電報とは通信上の誤謬を豫防するため傳送の際一々反復校正せらるゝものを云ふ此電報は「ムニ」の畧符號を以て指定すへし

受信電報とは受信人の到達したる日時（若し郵便を以て送達したるときは郵便に附託せし日時）を報知せらるゝものを云ふ此電報は電報を以て報知を受くる場合は「ッニ」郵便を以て報知を受くる場合は「ッッ」の畧符號を以て指定すへし

追尾電報とは受取人の轉居先又は旅行先又は等へ轉々追送せらるへきものを云ふ此電報は「ナヲ」の畧符號を以て指定すへし

再送電報とは受信人又は宛所の者の請求に依り受信人の轉居先又は旅行先等へ轉々追送せらるへきものを云ふ此電報は「ナチ」の畧符號を以て指定すへし

同文電報とは一市區町村内又は著信局所を同しくする地に住し居所を異にする數人に宛て同時に差出す同文のものを云ふ此電報は各通に記載したる其宛名の者に配達する場合は「ムヨ」各通に同文各通の受信人名を連記し配達する場合は「ヨイ」の畧符號を以て指定すへし

電報の通數を加記すへし但十通を超ゆることを得ず

留置電報とは著信の電信局所に留置き又は最寄の郵便局所に留置かるへき電報を云ふ此電報は其局所名を肩書し「ムナ」の畧符號を以て指定すへし

別使配達とは著信局所よりの里程に拘はらず島嶼と艦船とを問はず別使にて電報を配達さるゝものを云ふ此電報は「マッ」の畧符號を以て指定すへし但著信局所より三里を超へたる場合に於て其里程を豫定し之に對する別使配達料を納付するときは畧符號の次に其里程を指定すへし

艀船配達とは艦船乘組の者へ艀船を以て電報を配達さるゝものを云ふ此電報は「ハホ」の

畧符號を以て指定すへし

別使料電報報知とは別使の配達料を發信人にて納付せんとするとき電報にて其別使に要したる料金の報知と受くるものを云ふ此電報は「マ ム」の略符號を以て指定をへし別使料郵便報知とは別使の配達料を發信人に於て納付せんとするとき郵便にて其別使に要したる料金の報知を受くるものを云ふ此電報は「マヨ」の略符號を以て指定をへし

書留郵便配達とは著信局所より書留郵便として電報を配達さるゝものを云ふ此電報は「ツナ」の畧符號を以て指定をへし

無線配達電報とは封緘せをして配達さるゝものを云ふ此電報は「ナレ」の畧符號を以て指定をへし

局待とは電報の差出人か發信の電信局所に在りて返信を待つことを受取人に知らしむるものを云ふ此電報は「ヤム」の略符號を以て指定をへし

親展とは電報の受信家へ到達するとき他人の披見を憚ることを知らしむるものを云ふ此電報は「ニカ」の畧符號を以て指定すへし至急親展とは前項の電報にして至急を要するものを云ふ此電報は「ウニ」「ウ(歐文なれはC)」の略符號を以て指定をへし

電報の書方

和文電報には商標又は記號等片假名を以て記載し難きものに限り羅馬字又は亞剌比亞數字及歐文記號を挿入をることを得但此場合には小括弧を以て之を區別をへし

電報の文字は正格に書記さゝれは意外の誤謬を生をることあるのみならず其遲延を招くものなれは都て分り易く紛はしからぬ樣賴信紙に記載して差出をへし但賴信紙の持合なきときは便宜の紙と用ふるも妨なし

受取人の住所氏名は配達上差支なき樣成るへく分り易く且贅字なき樣之を記載すへし尤も受取人と約束を爲し其受取人より電信局所に願出て登記を經たるときは畧號を以て書載をることを得但略號の外必を著信地名を附記をるものとを若し一市區町村内に二箇所以上の電信局所あるときは著信地名の前に尙は著信電信局所名を記入し括弧を以て記載をへし

略號登記を受けたる人の家に在る者に宛てたる電報には其略號に「方」「氣付」又は之に相當をる文字を附記し其略號を使用をることを得

受取人の氏名は同一の家に宛てたる電報には其略號に「方」「氣付」又は之に相差出人其住所又は氏名の傳送を要をるときは電報本文の末尾(電報送達紙の外部に表記を要するときは受信人住所氏名の下)に之と記入をへし又其傳送を要をると否とに拘らを差出人は自己の住所氏名を本字にて賴信紙の餘白に記載し置くを要を然らされは其電報に關し注意等を受くることある場合之を受くること能はさるの不便を生をへし

字數及語數計算

電報中左に記載したるものは字數又は語數に計算を

(一)本文 (二)歐文電報の受信人居所氏名但居所氏名を略號にて記載したる電報に附記したる著信局所名を除く (三)和文電報に連記したる第二以下の受信人名竝逓送書したる道尾電報又は再送電報の第二以下の居所 (四)傳送を要をる發信人居所氏名 (五)指定事項 (六)第二號乃至第四號の居所氏名に附屬する歸字

和文の數字及記號は其一箇を片假名一字に計算し濁點半濁點を附したる文字は之を片假名二字に計算し但括弧及小括弧は各之を片假名一字に計算をへし

和文電報中に用ゐたる羅馬字、亞剌比亞數字及歐文記號は其一字又は一箇と片假名一字

に計算し括弧、轉倒句讀及字下線は各之を片假名二字に計算せ

電報料金及手數料

一市區町村内に發受せる通常電報料は左の如し

	和文片假名十五字以内	五字以内を加ふる毎に
前項以外の通常電報料は左の如し	金十錢	金三錢
	和文片假名十五字以内	五字以内を加ふる毎に
	金二十錢	金五錢

至急官報料は通常電報料の二倍とし、至急私報料は通常電報料の三倍とし、照校電報料は通常電報料の四分の一を增し、電報受信報知料は一通毎に和文は十五字、郵便受信報知料は一通毎に金三錢とす、追尾電報料は追尾一回毎に原信電報料と同一とし、再送電報料は再送毎に原信電報料と同一とし、同文電報料は原信を除くの外一通毎に和文は金十錢、外國郵送電報の郵送料は金二十錢とし、電報受取證書料は一通毎に金三錢とす、別使配達料は一通毎に金二十錢とし、但著信局より三里を超ゆるときは二里以内毎に金二十五錢を增して之を受取人より徵收し但三里を超えたる別使配達料を受取人より徵收せしめざる差出人に於て納めんとするときは別使料電報報知又は別使料郵便報知の略符號を以て指定し別使料電報通知は和文電報十五字に相當する通常料金別使料郵便通知は金三錢を增納し尚は追納料金に充つる爲め電信局所の指示する相當金額を豫納し置き著信局よりの報知に依り精算するものとす

島嶼に宛たる別使配達料は里程に拘はらず一通毎に金二十錢とし但配達實費之れに超過したるときは其不足額を受信人より徵收するものとす

解船配達料は金二十錢とし電報正寫料は和文二百字以内毎に金五錢、歐文五十語以内毎に金十錢とし電報閱覽料は電報一通毎に金三錢とし未た傳送せざる電報の返還と請求するときは一通毎に金五錢を納付するものとす

電報局渡料は證票一箇毎に年額金六圓とし局渡證票を亡失し更に證票を請求するときは金二十錢を納付するものとす但返信料の前納、諮問及其返信料の假略號登記料又は配達先登記料は登記一箇毎に年額金十二圓とす

電報の料金は都て郵便切手を以て納むるものとす但返信料の假納、別使配達料の豫納、電報受取證書料、正寫料と除き其他は賴信紙に貼付して差出すへし

電報料金に一錢未滿の端數を生したるときは之を錢位に切上くるものとす

電報の料金に不足あるときは其不足料金の二倍を追徵せらるへし

電報の料金と還付する場合は左の如し

一 電信局所の過失に因り受信人に到達せざるか又は郵便にて到達し得へき時日より遲れて到達したる電報の料金但發信人又は受信人の請求に依り不達の電報を送達したるものを除く

二 電信局所の過失に因り照校電報に誤謬を生し且用辨を闕きたるものの料金但郵便の電報に依り校正し得たるものを除く

三 電信局所の過失に因り徵收したる過納及誤納の電報料金

四 發信人の請求に依り配達前停止したる電報に對し前納したる返信料、受信電報料及配達料

五 電報直配達區域内にて配達したる電報又は別使、解船若は書留郵便を以て配達を爲さゝりし電報に對し發信人の前納したる配達料

六 返信料前納證書を以て發送したる電報の料金前納額に滿たざるときは其殘餘の料金

七 受信人返信料前納證書を受領するを拒みこれを發信人に通知したる場合に於て和文十五字歐文五語の通常電報料を控除したる前納の返信料金

八　返信料前納電報に對ー返信料前納證書を發行せさりーとき又は返信料前納電報を配達ー能はさりーて發行ーたる證書の使用期間を過きたるとき若は交付ーたる返信料前納證書を其使用期間に使用せさりーときは前納ーたる返信料金

九　發信局所に於て傳送前に返還ーたる電報の料金

電報發送及受領

電報と依頼そる時間は受付時間内に限るへし但至急電報は此限にあらそ

電信局所に電報受付函の設けあるときは電報受付時間外に限り之に電報を差入るゝことを得但至急電報及料金を假納し又は通貨を以て納付そる電報は差入るゝへからす

電信局所隔りたるか又は其他の都合にて電信局所まて持行き難きときは電報を郵便にては其普通郵便料に限り無料とそ

受信電報の配達と受けたるときは直に受取紙に時刻を記入し記名の下に捺印し別使配達電報を受取りたるときは受取紙の記名の下に捺印し之と配達人に交付そへし

受取人誤て他人に宛てたる電報を受取り若くは受取りたる上之を開封したるときは其事由を附箋し速に之を配達局に返付そへし

受取人其電報の配達を待たそ電信局に於て直に之を受取らんとそる者は豫め書面を以て其配達と受くへき局所に申出て電報局渡證票と受取るへし

受取人左記の電報を受取りたるときは其配達人に依託して電報を發送そることを得此場合には依託そる電報の餘白又は裏面に貼付したる郵便切手額を記入して之を配達人に交付そへし但萬國電信條約書に依り發送そへき電報、豫納金の納付を要そる電報は依託そ

ることと得そ

一返信料前納電報　一局待電報

尋問改正及停止

發信人差出したる電報の受信人に達せしや否を尋問せんとそるときは其電報を差出したる時より七十二時間以内に尋問電報の發送方を請求そることを得但其電報に要そる料金を納め且返信に要そる料金を豫納そへし

受取人受取りたる電報の發信人居所氏名の尋問を要そるときは前項の例に依り相當の料金を納め其電報を受取りたる時より七十二時間以内に尋問電報の發送方を請求そることを得

電話に關する一般の心得

電話所に來りて電話を爲さんとそる者は先つ通話券を申受け之に相手方所屬の電話交換局名及相手方の電話番號を記載し且一通話時の電話料に相當そる郵便切手を貼付し差出そへし

自働電話機を設けある場所に於て電話を爲さんとそる者は先つ相手方の電話番號を電話交換局に電話し電話交換局より料金を差入るへき旨返事ありたるときは其電話機に設備しある料金差入口に電話料相當の通貨（通貨の種類は電話交換局にて定むるところに依るへし）を差入るへし但し一旦差入たる通貨は何等の場合と雖も之を還付せさるの規定なれは交換局より返事のなきにも拘らそ無暗に差入れさる樣注意そへし

對話中は決して發電機の把手及受話機の掛金物を動を可からそ若し之を動そときは交換

局に於て談話濟と見做し線路を切斷そることあるへし

對話中交換手より談話終りしや否を問ふことあらは直に「話中」と答ふへし

電話所に於て對話中電話判明ならさるに至るか又は突然不通と爲りたるときは受話機を掛金物に掛け置き直に電話室を出て電話取扱者に其旨を告くへし

電話所にては其地又は線路の接續せる他の地の電話交換局に屬そる加入者と電話を爲すことを得れとも特に指定したる長距離電話の通信は其相手方か長距離電話に加入し居る場合に限る

電話所の電話は他に電話請求者なき場合の外一通話時（毎五分時間までを以て一通話時とも）以上繼續することを得そ

電話所にて二通話時以上電話を繼續したるときは電話取扱者に渡そへし

郵便切手を電話取扱者に渡そへし

自働電話機に依る電話は二通話時以上繼續そることを得そ

電話所に來りて電話を請求したる者電話を終りたるときは直に電話室を出て電話取扱者に其旨を告くへし若し然かせされは尙は通話中と見做し餘分の料金を徵收せらるへし

電話呼出

電話所に來りて後に掲くる呼出地域内に在る加入者以外の者を他の電話所に呼出し電話せんとそる者は呼出請求券を申受け之に被呼者の居所氏名、請求者の居所氏名及被呼者の電話所に來るへき時間を記載し且一通話時の電話料及電話呼出料に相當する郵便切手を貼付し差出そものとす

呼出請求者は被呼者の居所氏名又は呼出時間に改正を要するときは呼出請求の時より二十四時間以内に電話呼出料を納付して之と請求したる電話所に請求そることと得

電話呼出の請求あるときは被呼者居住地にある電話所に於て呼出通話券に左の事項と記載し電話料前納證書として被呼者に交付そへきに付之か交付を受けたる者は何れの電話所にても其呼出通話券を以て電話そることを得但し其電話料か證書記載の金額よりも餘計なれは不足の分に對そる金額相當の郵便切手を呼出通話券に貼付し差出そを要そ

一電話料前納の金額

一被呼者の居所及氏名

一請求者の氏名及請求を爲したる加入者又は請求を受けたる電話所の所屬電話交換局名竝電話番號

一被呼者の電話所に來るへき時間の指定あるときは其時間

一證書の發行所名及發行年月日

電話料前納證書の使用期限は證書發行の日より七日以内とそ

電話料及電話呼出料

電話料及電話呼出料の金額は左の如し

地域	一通話時ノ電話料	一回ノ電話呼出料
同一電話加入區域内	金十五錢	金十錢
大阪堺間	金二十錢	同
大津京都間	同	同
桑名四日市間	同	同
赤間關門司間	同	同
東京横濱間	金二十五錢	金十五錢
名古屋桑名間	同	同

地域	一通話時ノ電話料	一回ノ電話呼出料
名古屋四日市間	金二十五錢	金十五錢
大津大阪間	同	同
大津堺間	同	同
京都大阪間	同	同
京都堺間	同	同
京都神戸間	同	同
大阪神戸間	同	同

避暑遊覽旅行案內（附錄）
裏見瀧

避暑遊覽旅行案內（附錄）
橋立

帝國 IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT RAILWAYS

大阪山中金陽堂印行

郵便

堺	神戸間	金二十五錢	金十五錢
赤間關	福岡間	同	同
門司	福岡間	同	同
札幌	小樽間	同	同
大津	神戸間	金三十錢	金二十錢
名古屋	大津間	金四十錢	同
名古屋	京都間	金四十五錢	同
名古屋	大阪間	金五十五錢	同
名古屋	堺間	金六十錢	同
名古屋	神戸間	金六十五錢	同
橫濱	名古屋間	金九十五錢	同

東京	名古屋間	金一圓	金二十五錢
橫濱	大津間	金一圓三十錢	同
橫濱	京都間	同	同
東京	大津間	金一圓四十錢	同
東京	京都間	同	同
橫濱	大阪間	金一圓五十錢	同
橫濱	堺間	同	同
東京	大阪間	金一圓六十錢	同
東京	堺間	同	同
橫濱	神戸間	同	同
東京	神戸間	金一圓七十錢	同

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

近畿諸鐵道

扨此れから愈〻名所案内に取かゝる事になりましたが、國別縣別などでは却つて索引に不便だらうと思ひまして、態と各鐵道線路により停車場を起点として其附近の名山勝水を調べる事にしました、

最初近畿諸鐵道と申ますのは關西鐵道、南海鐵道、阪鶴鐵道、高野鐵道、京都鐵道、奈良鐵道、南和鐵道、紀和鐵道、河南鐵道、參宮鐵道の十鐵道を便宜上一括したのでして、詰り此によつて近畿諸縣の各名勝を網羅しやうと云ふ趣意なのでゝ、參宮鐵道まで入れた事ゆゑ官線の神戸京都間、近江鐵道の彦根貴生川間なども、當り前なら一所にしなければならないのでそが、列車連絡の關係もあり旁これは東海道鐵道の部へ組み入れる事にしました、併し大阪と云ひ京都と云ひ各重要驛は夫れ〳〵他の諸鐵道の起点になつて居まして其章下に一々案内してありますから、官線を後まわしにしたからと云ふて、あながち之を沒却したわけではありませぬ、

●大阪●

大阪は以前難波津又は浪花潟と云つた處で東西一里十四町、南北二里十二町、關西第一の大都會で商工業の点に於ては今でも東京より勝つてる程でそから此の上築港工事が竣成し道路改修が完全した曉には何んなに大きくなるか解りません、停車場は東海道鐵道の梅田を主としまして網島、天滿、櫻の宮、京橋、玉造、桃山、天王寺、今宮、湊町(以上關西鐵道所屬で市の東郊を繞つて居まそ)福島、野田、西九條、安治川口の船附場と梅田とを結び付けて居る線でそ(難波、(南海鐵道)道頓堀(高野鐵道)等都合十六ありまそ▲旅宿の重なるものは大川町の北川、千秋樓、北濱の花外、加賀屋、今橋の紫雲樓、築地の竹式、中之島の大阪ホテル、森吉、銀水樓、花屋、後藤、曾根崎の靜觀樓、傳法家、土佐堀の佐々木なぞで宿料は善い處が二圓から五圓中等が一圓から三圓で場末へ行けば隨分丼錢位で泊める處もありまそ▲料理は大阪獨特の味がありまして東京なぞで迚も食べられない旨い物がありまそ重な料理屋と其十八番を御知らせ申そうなら先づ江戸堀の槌田(薩摩汁)北濱の灘萬(鱶の吸物)平野町の堺卯(鱶のやへ作り)中之島の森吉(海鼠焚)曾根崎の靜觀樓(子持さよりの吸物)網島の鮒宇(鯉こく)堂島の但寅(蟹の味淋漬)北の新地の菱寅(小鮒の揚煮)北濱の網吉(鰹)同柴藤(鮒の糸作り)茶臼山の雲水(海苔卷豆腐)南地法善寺のみをり(鯛甘煮)等御贔筋の魚治(おいなめ附燒)松島の現長(鶏一式)川口の自由亭(西洋料理)御靈筋の梅月(天ぷら)等でそ、▲名物と云ふものは何もありません強て云へば凡ての物が皆名物でそ停車場あたりで能く岩おこしを賣つて居まそが此はホンの小供だましで細工物にも取わけて此れと云ふものはありません

遊覽の場所は第一大阪城　此は天正十一年に豊臣秀吉が築いたのでして、石は當時の諸侯の寄附に係り今でも長さ數十間の石が殘つて居まそ▲天滿天神　天神橋の北にありまそ、昔し此の近所に山があつて其山の鍬で毎晩不思議の光の發そるのを里人が怪んで、伺ひを立てゝ見た處菅公の靈が此地の梅を慕つて影向したのだと云ふ事でそれから急に社を營み寛文年間に今の處へ移したのだそうでそ毎年七月廿五日には神輿を舟に載せて大川を下り中々の賑ひでそ社の後は俗に天神裏と申して義太夫や祭文や新内源氏節などの寄席が軒を列べて居まそ▲御靈社　東區平野町五丁目にありまして祭神は天照太神別殿には鎌倉權五郎が祭つてありまそ境内の文樂座と申そのは操り人形の根元で今は桐竹紋十郎、吉田玉助などが越路太夫、津太夫、呂太夫などゝ一所に興行して居まそ▲本願寺　備後

町筋にありまそのを北の御堂と申し久太郎町にあるのを南の御堂と申まそ本尊は勅れも安阿彌作の阿彌陀佛で結搆の壯麗目を驚かそばかりでそ▲座摩神社　南御堂の後にありまと昔神功皇后が三韓から凱旋なさつた時御船を御寄なさつた處だそうでそ▲四ツ橋　長堀と西横堀と交叉する處に井の字なりに四つ橋をかけて俗に四ツ橋と云ふので中々有名でそ▲心齋橋　長堀に架けてある小さな汚い橋でそが市中一番賑ふ處です▲道頓堀　心齋橋を眞直ぐに行くと道頓堀でそ、浪花座、中座、角座、朝日座、辨天座の五芝居が軒を比べて外では見られない繁盛を極めて居りまそ▲千日前　道頓堀を一寸横へ這入つた處で昔は仕置場だつたそうでそが今は寄席や見世物が軒を比べて朝から晩まで鳴物の音を絶つた事はありません▲高津神社　道頓堀を東へ行つた處の阪の上で仁徳天皇を祭つてありまそ大阪には珍らしい眺望絶佳な處でそ▲露の天神　此は北區北野にある鄕社で菅公筑紫へ左遷の砌り此地を過ぎて『露と散る涙に袖は朽ちにけり都のことを思ひ出れば』と咏じた處だそうでそ▲江口の里　淀川の分れの神崎川の側で昔しの港場でそ江口の君とは此處に居た遊女の事でしよう▲野田の藤　矢張り梅田の近所で野田村春日社の境内にありまそ文祿年間秀吉が遊覽した茶亭がまだ殘つて居まそ▲天保山　天保年間に安治川と淺つて其砂で築いた島でそ梅田からは二里

の餘ありましよう▲新町　そつと昔からの色町で今に其當時の面影を殘して居りまそ此の外松島、難波新地、北の新地及堀江にも遊女屋がありまそが松島の外は皆置屋と揚屋を區別してありまそ▲今宮の戎　湊町から十五六町南にありまそ毎月十日の例祭でそが人阪名物の一つになつて居まそ▲櫻の宮　淀川の上流で川を挾んで造幣局に對し東京で云へば向島と云つたやうな處でそ

●天王寺●　城東線と申して湊町から梅田へ行く瀧車は此處で乘り換へとなるのでそ丼六年には博覽會が開かれる筈で其準備のため近頃停車場も改築されました▲四天王寺　日本佛法最初の道場で聖德太子の草創でそ門を入つて正面に五重塔があつて觀覽料二錢で誰れにでも登る事を許して呉れまそ○先年此の塔の上から飛び下りて悄死をしたものがありました▲茶臼山　天王寺の西南にある小山で大阪夏の御陣の時眞田幸村の討死した處でそ山の東南の邦福寺と云ふ禪寺は俗に雲水と申して精進料理で有名でそ天王寺の西北につゞいた岡は夕陽ヶ岡と申して放蕩與伯の墓がありまそ▲生國魂神社　夕陽ヶ岡の北高津神社の南で應神天皇の時の草創です毎年七月廿八日に大祭を行ひ氏子の町々はだんぢり家台を出して中々賑ひでそ

平野　昔杭全の莊と云ふた處で攝津の東成郡に屬して居りまを田村將軍の舊蹟長寶寺へは僅かに二丁餘通念佛派の本山大念佛寺も同じ町の中にありまを寺域三千七百餘坪、近鄰に稀な大寺でを

八尾　河内國中河内郡にありまを近傍の名所は古へ　橘寺と申しました龍華寺、聖德太子御難除けの由緒のある野中寺、小野の篁の作つたと云ひ傳へらるゝ八尾地藏尊等でを▲十三峠　と云ひまそのは此處から神立村を通つて大和の國境まで參る山道で大阪から龍田法隆寺なゞへ通ふ街道でを業平河内通ひの古蹟も其中にありまを▲枚岡神社　神武天皇の御宇の草創で春は梅秋は萩の名所でを停車場から一里▲信貴山　矢張り此の停車場から下りて行くのでして山嶺に到れば東に大和西に攝河泉の三國を望み眺望頗る絶佳でを傍に天正年間松永久秀の籠つた城跡がありまを▲瓢箪山　河内瓢箪山の辻占と云ふて辻へ立つて往來の人を見て其見た人の風采によつて占を立てる稻荷さんも此の停車場の近くでを

柏原　河内國南河内郡大和川の北岸にある村で紀州高野に通ずる街道でを、河南鐵道富田林線の乘換驛で此處から東へ一哩程行きまをと有名な龜瀨トンチルがありまを▲道明寺天神　芝居で能くやる道明寺とは此處の事でして道明寺停車場から僅かに二町以前は眞言律宗の尼寺だつたのでをが御維新後分れて別に土師神社と號して居りまを菅公筑紫左遷の砌伯母覺壽尼を此里に訪ふて曉別れを惜んで『鳴けばこそ別もいそげ鶏の音の聞えぬ里の曉もかな』と詠ぜられたとか云ふ事で村民今でも鶏と養ふのを忌んで居りまを▲玉手山　同停車場からは三四町安福寺と云ふ寺があつて春は菜の花、秋は松茸で有名でを▲葛井寺　西國順拜第五番の札所で正平年間楠正行が手勢三百騎で細川顯氏の三千餘騎を破つた古戰場でを

河南鐵道

柏原　から分れて南しまをと直ぐ道明寺の停車場でを毎年三月廿五日に菜種の御供祭の時には特別に臨時汽車が出まを道明寺の次は

古市　停車場で下りて四町程行きまをと應神天皇の御陵がありまを日本武尊の御陵も直ぐ其のろばで駒ケ谷桃林へは十二町おぐろ大黒へは一町でを、

喜志　源義家が自分で刻んだ八幡宮を祭つてある壺井八幡は此の近所でを社前石燈の下に壺井の靈泉と云ふのがありまして萬病平癒の特効があると申傳へて居りまをが富田林の近所で有名なのは楠正成の籠つた千早の城跡で其周圍の赤阪の城跡

楠氏の邸跡等歴史上研究すべき處が數多くありまそ

●王寺　河南鐵道は富田林が終点でそこから又後戻りして柏原へ出まそと其次の停車場が王寺でそ停車場から八町程の處に達摩寺と申そのがありまそ▲龍田川は停車場から廿町古來有名な紅葉の名所で川に沿ふた龍田神社の正殿には小野の道風の書いた額が掛けてありまそ

●高田　奈良櫻井間の一驛で東は今井櫻井荊溜に達そべく南は五條吉野へ通じ中々繁華な地でそ南和鐵道は此處を起点として五條まで通じ五條からは更に紀和鐵道となつて和歌山まで行く事が出來るのです（一頁參照）

●畝傍　此處で見るべきは神武天皇の御陵及橿原神社でそ壺阪の觀音及久米寺も此處で下りるのが順路です

●櫻井　奈良を去る事五里廿町奈良鐵道の最終点でそ近傍の名所は安倍の文珠大野の彌勒寺音羽山大和神社寶生寺等でそが此處まで來て是非一覽しなければならぬのは

吉野と多武峯それから長谷の觀音でそ吉野へ行くには南和鐵道へ乘つて葛驛で下りるのが順路でそが次手でそから此處で一寸御案内して置きましよう▲葛で下りて車へ乘つて車阪を越しまそと其處が吉野川で岸に沿ひ溯る事數町柳の渡を渡ると吉野村字六田でモウ吉野山の麓でそ六田からは一町毎に石標が立て居て二十町上ると道の両側に櫻がありまそ此處を長峰の櫻と云つてそれから又十町上ると千本茶屋即一目千本の絶景でそ千本茶屋の直ぐ上に黒門がありてそれから吉野町になるのでそ宿と取るなら此處になさいませ町を過ぎて尚上つて行きますと右に厳王堂、東南院、勝手社左に吉野宮、如意輪堂等がありまして其の奥が所謂奥の千本でそ奥の千本の少し手前から岐れて右へ行きまそと義經や忠信の舊蹟がありまして有引櫻と云ふ有名な櫻もありまそれから藏王堂、竹林院、櫻本の坊などがあり、如意輪堂の奥には後醍醐帝の御陵、吉水院には南朝皇居の跡がありまそ尚奥へ這入りまそと奥の院の茶屋で苔清水、西行庵等幽邃の境毫も俗塵の浸そを許さぬ此處まで來ればマア吉野の花は見つくしたと申しても差支ありません▲多武峯　西行庵から引返して吉野町へ出て更に飯貝から上市へ參り其處から山越しに行く道もありまそが、櫻井停車場からは五十町で麓でそ麓から談山神社までも同五十町でそ談山神社は藤原の鎌足を祭つた別格官幣社で公

の遺骨を納めた浮圖は高さ四丈三尺十三層の高塔で中々美事なものでそ▲長谷の觀音は櫻井から一里半文武帝の御宇の創立で本堂は八棟に作り長さ一丈六尺の十一面觀音が安置してありまそ今の御堂は明治になつてから造營されたものでそが結搆は凡て昔の通りで非常に宏壯なものでそ昔は吉野と併び稱されて櫻の名所でしたが今は櫻は少くなつて牡丹が多くなりました

●●法隆寺　支線を後に立歸り又王寺から汽車に乘りまして次は南都七大寺の一なる法隆寺でそ建初以來毫も其形を改めざる日本唯一の名刹で殊に其東院は推古天皇の御宇に聖德太子が造營せられた斑鳩宮の宮居で器具飾寿品などもスッカリ當時の儘に保存されて居りまそ

●●郡山　伯爵柳澤保惠の舊領地で戸數三千、菊屋花内屋などと云ふ旅宿がありまそ俗に矢田寺と云ふ金剛山寺は停車場から卅町、舍人親王自作の厄除觀音を安置せる西松尾寺は矢田寺の直ぐ隣りでそ▲本邦第一の妙作と稱せらるゝ藥師如來の本堂藥師寺は停車場から十六町、聖武天皇の勅願所なる唐招提寺は其處から僅か三町、奈良の東大寺に對する西大寺は停車場から北の方弱一里▲其外菅公誕生の地などか神功皇后の御陵などか遊覽の場所は中々多う御座いまそ

●●奈良　元明帝以下七世八十四年間の帝都で春日若草三笠の三山が其東に幷立し、佐保川西北を巡り流れて南に赴く此が即ち奈良川でそ、鐵道は湊町から來る關西線と、網島から來る同社線と、京都から來る奈良鐵道とが互も交錯して交通も頗る便利でそ旅店の重なるものは三笠山の麓の武藏野、春日大華表前の菊水樓同一の鳥居の大文字屋今小路の對山樓、菩提の舍翠樓、猿澤池畔の三景樓等で宿料は下等卅五錢から上等二圓まで名物は奈良晒布、奈良團扇、奈良人形、あられ酒、奈良濱等でそ名所は第一▲春日神社　奈良町の東端春日山の麓で停車場からは廿町、境内廣く社殿神さびて其處此處鹿が徘徊して居りまそ少しも人を恐れそ傍へ集つて來て手から餌を貰つて食べる處など中々可愛いものでそ▲春日山仁明帝の時分から狩獵伐木禁制の地で頂上を本宮ケ嶽と申まそ猿が澤山居て矢張り人に慣れて居ます▲三笠山　春日山に連なる小峯で滿山草ばかりでそから遠くから見ると翠の毛氈でも敷き詰めたやうでそ麓に鷲の瀧と云ふのがありまそ停車場から卅町▲東大寺　春日神社の北隣りで二月堂三月堂勅封倉などは皆其境内にありまそ有名な大佛は此寺の本尊で別に大佛殿と云ふのが設けてありまそ奈良七大寺の一つで境内に五重塔南圓堂等の名所あり猿澤池は直ぐ其門前で停車場から僅に三町池の畔には旅店割烹店掛茶屋等が澤山ありまそ▲般若寺　元弘の亂に大塔の宮

が北條の兵と戰ひ敗れて逃げ込んだ寺で其時身を潜めて虎口を逃れた經箱は今もチヤンと殘つて居まそ▲多門山　松永久秀の城跡で麓に眉間寺あり眉間寺の後には聖武天皇の御陵及光明皇后の御陵がありまそ

●大佛　奈良市一條通りにあり大佛殿の近くで奈良停車場から僅か九町でそ以前關西鐵道がまだ大阪鐵道（湊町奈良間）と合併しなかつた前の建設で今は旅客には殆んど不用の驛となつて居りまそ

●加茂　同じ關西鐵道の線で網島（大阪）から四條畷を通つて來た列車が此處で本線と連絡そるのでそ▲近傍の舊蹟は聖武天皇の宮居だつた恭仁宮、「みかの原わきて流るゝ泉川は　つみきとてか戀しかるらん」の瓶原行基菩薩の開基に係る國分寺、瓶原の東にある海修山寺、京都上加茂の本社なる鴨神社等で凡て停車場から十町とは距つて居りません

關西鐵道　加茂大阪間

●新木津　後戻りそるやうになりまそが同じく關西鐵道の中でそこら本線の方は暫らく加茂で停めて置て、加茂網島（大阪）間の名所を一寸調べて見ましよう▲驛の東南に和泉式部の墓がありまそが京都の新京極の方が本當で此れは式部の出生地と云ふ處からして後人の建てたものだらうと云ふ事でそ

●田邊　山城國綴喜郡々役所のある處で京都から六里淀から三里名物は茶と鼈蓮で停車場の北に新一休寺と云ふ寺がありまそ

●長尾　有名な男山八幡宮のある處で停車場からは二里山麓から社まで色々の古蹟がありまそ石清水、景清塚、御前の橘などは、其最も有名なものです

●津田　此處から河内國でそ停車場の近傍一帶の桃林で倉治の桃と云つて中々有名なものでそ此寺の瀧も其の傍で此は秋の紅葉が一しほでそ

●四條畷　小楠公討死の舊蹟で明治廿二年に四條畷神社と云ふのが建てられました別掛官幣社でそ▲野崎觀音　停車場から廿町で本當の名は福聚山慈眼寺と云ふので大阪から三里廿八町毎年春になると野崎詣りと云ふて續々參詣人がありまそ宿屋の善いのは畷ホテル伊勢屋川豊等でそ

●住道　河内瓢箪山へ一里廿町、枚岡神社へ一里、生駒山の聖天へ二里、生駒山は大和の平群郡に跨つた瀧木の山で時鳥の名所でそ

●德庵　元和の昔大阪城の花と唄はれた木村重成の討死した處は此の停車場から一里廿八町でそ立派な墓が建つて居まそ

放出　はなてんと讀むので此處で線路が二つに岐れて一つは總江川の岸にある片町に至り一つは櫻の宮の側の網島に至るのでそ、共に大阪の市内で大阪の事は前に書いてありまそから此處には省きます

笠置　加茂網島間が濟みましたから元へ歸つて今方は其以東の案内と致しましょう加茂の次は山城の笠置で元弘の時後醍醐天皇が行宮を定められた舊蹟でそ御座石貝吹石などと云ふのが未だ當時のまゝで殘つて居まそ▲笠置の奥で木津川の上流一里程の處に有市と云ふ温泉がありまそ鳴胃病に大効があると云ふ事でして近頃笠置館、養神亭などと云ふ旅宿が出來ました鮎が名物でそ

大河原　山と山の間で鐵道の開かれる迄は人に知られなかつた土地でそから段々舊蹟と云ふやうなものはありませんが名勝としては明神の瀧と云ふのがありまそ伊賀から來た上野川が名張川へ合しやうと云ふ少し手前の處にありまして高さ百五十丈中々の奇觀でそ

島原　梅で有名な月ヶ瀬は此處から三里です隨分今迄は路が難澁なので大抵の人は上野まで行つて上野から八力車に乘りまそがありまそ、梅林の延長は約二里半、最も奇勝に富むは尾山、長引、月ノ瀬、桃香野で尾山ノ月ノ瀬には宿屋も料理屋もありまそ

上野　もと藤堂氏の分城で御城は今公園になつて居まそ停車場から約一里、曾我忠、八百新などと云ふ旅宿がありまそは名物は蒟蒻田樂、長崎菓子、靜馬饅頭、靜馬蕎麥等▲芭蕉翁故郷塚　は農人町の愛染院と云ふ寺の境内にあつて一寸した草堂がありまそ俳諧師なぞは態々尋ねて來る位の舊蹟でそ▲鍵屋辻　伊賀越道中双六で世に知られた渡邊靜馬が親の仇澤井又五郎を討つた處で以前は人家が軒を比べて居つたそうでそが今は少さな茶店が一軒あるばかりでそ▲赤目四十八瀧　上野から五里行つて名張町へ出て其處から又二里山の中へ這入ると赤目四十八瀧と云ふ奇勝がありまそ夏から秋へかけての奇觀は近畿第一だと云ふ事でそ

植柘　線路は此處で又分離して昔の東海道節に沿ふて草津まで參り草津で官線に連絡して居りまそ、一寸賑な町で風森神社と云ふ社がありまそ旅宿は鶴屋尾張屋などが宜しう御座いましょう

關西鐵道　柘植草津間

深川　近江國甲賀郡に屬し昔の東海道筋の水口へは一里十町、東の方飯道手山の頂上へ行きまそと和銅年中創建の飯道神社がありまそ

●三雲　垂仁天皇の御宇天照太神を大和から伊勢へ遷座した時四年間此處に鎭座ましました舊蹟でそ松葺の名所で直々近くに藤原藤房隱遁の遺蹟がありまそ

●石部　舊東海道の驛路で聖武天皇の勅願所なる東寺西寺の兩古刹あり宿屋では扇屋八幡屋等有名でそ

●草津　昔し東海道と中仙道との分岐點になつて居つた處でして鳩屋、魚清、伊勢屋中村屋等の旅宿がありまそ鳩屋には活人石と云ふ奇石がありまそ▲野路の玉川は停車場の西南十五町今は埋れて些かな池があるばかり、野路の篠原は佐々木高綱の古蹟でを『明日もこん野路の玉川萩こえて色ある波に月やとりけり』

●關　關停車場は柘植の直々次で太古鈴鹿の關と云つた所でそ旅宿は會津屋、鶴屋、玉屋等が有名で名物には關の戸餅と云ふのがありまそ▲鈴鹿山は海道への險岨と云はれた山で俗に八百八谷と申を奇勝がありまそ西行の歌に『鈴鹿山浮世をよそに振棄て如何になり行く我身なるらん』▲關の地藏は天平十三年行基菩薩の開基で一休和尚が小便としかけたとか云ふ談がありまそし筆捨山は町の北卅町程で狩野法眼が餘りの絶景に筆を捨てゝ去つたと云ふ傳說がありまそ

●龜山　舊石川氏の城下で中々〳〵繁華な町でそ、停車場の東北一里許の處に日本武尊の御陵

があります歷史に有名な能褒野と云ふのは此の近邊の事でそ▲此處から岐れて伊勢の津まで矢張り關西鐵道の支線がありまして津から又山田まで參宮鐵道が通じて居りまそ道順ではありませんが次手でそから一寸又其方へ外れて見ましよう

參宮鐵道

●一身田　眞宗高田派總本山專修寺の在るところで參詣者常に絕ゆる事なく旅宿は角屋、辰巳屋、桝屋等で名物は櫻おこしでそ、專修寺の今の門跡は近衞公爵の弟で久しく獨逸へ留學して居た有名な梵語學者でそ

●津　舊藤堂氏の城下で戶數六千人口三萬商工業の大層盛んな處でそ旅店の重なるものは鵜飼館、岩六、大觀亭、林屋、加喜伊、國分屋、岡宗、魚新、松阪屋等で銀子、綿木綿及紙が名物でそ▲阿漕浦で太神宮の贄魚を取つた爲め一般の漁獵を禁じて居たそうでそ▲結城宗廣墓　建武の昔の勤王の士で皇子を奉じて海路奧州へ赴かうとした處颶風のために船を覆され自分は此處へ吹上げられて病のために死んだのでそ

●松阪　舊紀州侯の城番地で本居宣長が出た處でそ遊覽所は大石不動、岩內瑞巖寺、瑞巖神社等、旅宿は回春樓、山川ホテル、鯛屋、西村屋等が宜う御座いまそ、

寺は伊勢の小松島と云はれる程わつ

●山田　津から阿漕、高茶屋、六軒、松阪、徳和、相可、田丸、宮川へ、勝向橋の九停車場を過ぎると其次が即ち大廟のある山田でそ旅館には五二會館、油屋、宇仁館、松島館、高千穂館、神風館等尚他にも澤山ありまそ▲内宮外宮　内宮は五十鈴川の上流にあつて御神体は八咫の鏡、世々帝室の崇敬淺からざる大廟でそ、外宮は山田町の南端高倉山にあつて内宮と距る井町、社殿は牡めて素朴で今も太古の通りでありまそ

▲朝熊山　山田町の東二里志摩の國境に蟹ゆる名山で頂に金剛證寺と云ふ禪寺がありまそ麓には名物萬金丹を賣つてる家が澤山ありまそ▲二見浦　朝熊山から一里十町で八力車が通ひまそ、誰も知らない者は無い名所で清渚亭と云ふ宿屋もありまそ宿泊は上等五十錢中等四十五錢並等卅錢魚が新しいので料理は獨特の味がありまそ

●高宮　以前の石薬師と庄野の間にある小さな驛でそ伊勢參宮を終つて再び關西の本線へ歸りまそと龜山の直ぐ次にある驛でそ停車場から廿町程參りまそと其處が有名な石薬師寺で境内に源範頼の舊蹟がありまそ

●四日市　伊勢第一の良港で横濱熱田等へ定期往復の汽船もあり商業殷盛な土地でそ町の西凡そ四里の處に水澤の楓溪あり東南五里に蔦野の温泉あり保養には適當な處でそ市中の

旅宿は吉高屋、十九村屋、美濃喜、山田屋、白木屋等で大概廻漕を兼ねて居まそ

●桑名　昔は熱田と桑名の間に渡船が通つて居て之が東海道の本通りだつたのでそ夫れ故今も廻漕業は中々盛んで宿屋にも船津屋、京屋、丸一、鍵沼などと云ふ立派なのがありまそ、近傍の名所は多度山、大福田寺、春日神社、八壺谷等でそ、相場師の多い町で此處の米相場は常に大阪や東京の標準になる程だそうでそ

●彌富　桑名の次が長島、ろの次が彌富で木曾川の岸に沿ふて居る一寸賑な町でそ尾西鐵道は此處から分岐して居るのでそ、彌富の次が蟹江で、其次が愛知愛知は即ち名古屋で

●名古屋　三府に次ぐ大都會で車馬の往來織るが如く市の北端にある名古屋城は加藤清正の築いた城で金の鯱鉾で有名でそ市街の中で最も賑な處は本町鉄砲町末廣町榮町等で榮町から新柳町に至る町筋は俗に廣小路と云つて其西の端が官線の停車場停車場から縣廳前まで電氣鐵道が敷設してありまそ▲宿屋は榮町の秋琴樓上園町の丸文宮澤町の支那忠門前町の鶴鳴館伏見町の三嘉等で停車場前にも山田屋支那忠支店等一寸氣の利いたのがありまそ料理店は得月樓、河文、魚半、洲先の金城館前津の香雪軒等、此香雪軒は東京築地の香雪軒の本家でそ、遊覽そる所は▲本願寺別院　下茶屋町にあるのが東本願寺の

別院で櫻の名所門前町にあるのが西本願寺の別院で梅の名所でそ▲長福寺　西本願寺の北で俗に七ツ寺と云ひ樒が澤山植てありまそ此處から大州觀音まては路の両側に茶屋や植木屋が軒を比べて居つて中々賑かでそ▲大州觀音　眞言宗の御寺で境内には劇場寄席露店飲食店等鱗次し毎年五月十八日及醬の七月九十両日は人で以て境内を埋めて仕舞ふ程の雜沓でそ▲東照宮　以前御城の中にあつたのを明治十一年長島町へ移したので例祭は舊の四月十六日でそ▲八事山　市の東一里半眞言律宗の御寺で俗に尾張高野と云ふ處でそ風景絶佳春は花夏は納涼の名所で山内に八勝館と云ふ料理屋がありまそ

南和鐵道

高田五條間

●高田　關西鐵道の櫻井支線にある驛で大阪から行くには王寺で下りて列車を乗り換へて下田停車場を通つて行きまそと次が高田でそ近傍の名所は關西鐵道の部に出て居まそ

●新庄　柿本人麿の墓へ五町當專寺へ十町今市の現德寺には松へ柿を接木したのがありまそ毎年柿がなると云ふから不思議ではありませんか

●御所　葛城川に沿ふた繁華な町で舒明天皇の御宇役小角の開いた吉祥寺へは八町程で參れまそ境内には笈摩杉の殘株香精水等の遺蹟もありまそ又櫻が澤山ありまそから花の頃は隨分賑でそ

●葛　吉野へ行く順路でそが吉野の事は前に書いてありまそから省きまそ上市下市は孰れも此近所の町で下市には雜盛の舊蹟があつて其家は今も宅田彌助と云ふて鮓と賣つて居まそ

●五條　吉野川に沿ふた町で町の北に北宇智と云ふ停車場がありまそ此處で見るべきは小島の栂室院でそ千年も前の建設でそから今は壞頽して見る影もありませんが景色は頗る佳麗でそ

紀和鐵道

五條和歌山間

●隅田　五條までが南和鐵道となるので五條の次が二見、二見の次が隅田でそ紀の川の沿岸で殊に其川節を隅田川と申して庵崎待乳山等の名所がありまそ昔から歌にも能く讀まれて居りまして東京の隅田川などは全く此處を摸したのでそ▲隅山八幡　は神功皇后三韓より凱旋の砌畔と駐め給ひし舊蹟で日本全國八幡宮の本家本元とも云つて善い所でそ▲妹背山　大和の國境で紀の川を狹んで居まそ南にあるのが妹山北にあるのが背山で中々景色のよい處でそ

●橋本　此處からが紀州で高野參詣の順路でも旅宿で有名なのは紅霞樓、備前屋、竹屋、玉屋、布袋屋等▲九度山　眞田幸村が大阪へ入城をするまで隱れて居た處で橋本から一里半紀の川の中央にありまそ▲慈尊院　九度山の西に慈尊院と云ふ寺がありまそ此は弘法大師の母御の舊跡で其南一里高野街道の往還に丹生都比賣神社と云ふのがありまそ神代からの神社だそうでそ西行の墓、鬼王團三郎の墓もその近くにありまそ▲高野山　慈尊院から大門までは一町毎に石標が立つて居まして百八十町行くと高野山の大門でそ弘法大師の靈塔で門を入ると金堂、大塔、西塔、東塔、濳頂堂、御影堂、及寶庫等があつて其處から東へ二町程行くと此の山の主坊がありまそし尙八町ばかり行くと一の橋と云ふのがあつて其奥が即ち有名な高野の墓塔でそ此處は見逃してはなりません其外御廟橋、燈籠堂、骨堂、經藏、四寸岩、不動阪、萬丈轉、岩不動、兒の瀧、六時の鐘等數へるに暇のない位でそ

●粉河　高野山から下りたら無理に橋本まで歸るには及びません名倉から乘つても妙寺から乘つても同じでそ妙寺の次は笠原で其次は粉河驛でそ名物には粉川酢と云ふのがありまそ▲粉河寺　西國順拜第三の札所で本堂は十五間四面外に西に千手堂東に六角堂乾の方に行者堂巽の方に丈六堂中門を出て半町程行くと出現池と云ふのがありまそ春は櫻秋は紅葉の名所で眺望絶佳宿屋も至極上等のがありまそ▲次手でそから一寸西國三十三所と云ふのと名だけ書いて置きましよう第一が那智の如意輪次が紀三井寺それから粉河寺、槇の尾施福寺、藤井寺、壺阪寺、岡寺、長谷寺、南圓堂、宇治堂、上の醍醐、岩間の正法寺、石山寺、三井寺、新熊野、清水寺、六波羅密寺、六角堂、革堂、西山の善峯寺、穴穗の菩提寺、總持寺、勝尾寺、中山寺、播州新清水寺、法華寺、書寫山、成相寺、松の尾寺、竹生島長命寺、芦浦の觀音寺、谷汲の花嚴寺でそ

●船戸　粉河の次が打田で其次が船戸でそは此處で下りるが宜しう御座いまそ根來寺は中古根來衆と云ふてのが割據して居た舊蹟でそ根來椀と云ふのも元は此處から出たのでそ

●和歌山　船戸から布施屋、田井ノ瀨の二驛を過ぎまそと紀州和歌山へ着きまそ併し大阪から若し直接に和歌山へ行かうと思召そなら此の鐵道によらぬ方が順當です市中一番賑な處は內町で名産は綿ネル、雲斎織、奈良漬、砂糖漬等です▲西本願寺　蓮如上人の草創そる處で俗に鷺の森の御坊と申しまそ內町の西部でそ每年四月六日には大馴しと云ふて信徒寄り集りて終宵躍り興そる慣でそ▲松生院　もと讃岐の八島にあつたのを此處へ移したのでそ不動樣が鼠を捕つたと云ふ面白い由緒のある寺でそ▲感應院

島崎町にある法華宗の寺で駿河の感應院、伯耆の感應院と共に宗内で三感と云はれて居る名刹です▲和歌浦　和歌山から一里古松白砂の間に地の島、沖の島、双子島、雑賀崎等を見晴らして景色甚だ佳麗です北に玉津島、其隣りに東照宮、東照宮山下に南龍神社、玉津島の前に妹背山などと云ふ名所がありまそ▲紀三井寺　和歌山の東卅一町行く日前國懸の二神社其處から南一里で竈山神社、竈山神社の西南廿町で紀三井寺へ參られまそ山腹に營みたる大伽藍で應同樹と云ふ異木がありまず▲熊野詣　和歌山から勝浦へ出て勝浦から二里行くと有名な那智の御山で爪先上りの道を登つて行きますと日本一の大きな瀧へ出まそ瀧を見て權現樣へ參詣したら引返して新宮まで參り新宮から有名な熊野川を下つて奇景百出の勝を眺め進んで北山川と十津川との出合で上陸して玉置口村へ行きまず此處が紀伊第一の絶景瀞八丁の入口でそ瀞八丁と見物したら今度は川上の戸田へ上陸し玉置山本宮を巡覽して田邊へ出まそと此處には大阪行の汽船がありまそ▲湯の崎　田邊から鉛山まで陸を行けば四里半海を行けば一里半で湯の崎温泉お逸しまそと胃病、肺病の名湯で有田屋、撓屋、菊屋等の宿屋がありまそ風景絶佳名物は鮑の粕漬で此は中々の珍味です

（遊覽遊行案内續端書）江之島

（遊覽遊行案内續端書）住吉

大阪山中合資會社印行

難波　大阪の市内で道頓堀と曲ると直ぐ其處で關西鐵道湊町の停車場へは僅かに一二町高野鐵道道頓堀停車場へ約五六町です

天下茶屋　林源治郎の仇討のあつた處で村内に有名な茶店がありまを昔豊太閤が屢〻ゑをすげては茶人紹鷗を御召しになつた舊蹟で其時分の茶器茶亭は未だ殘つて居まを阿部野神社へ二丁帝塚山へ五町、別に遊園地の設けもありまを此處と關西鐵道の天王寺の間に一線あつて両方の連路をつけて居ます

住吉　當國一の宮住吉神社は停車場から僅か二町神功皇后時代の草建で風光明媚境内に島津忠久の誕生石、三韓來貢の橘等有名なものがありまを▲住吉浦　此邊一帶の海邊を經稱したので名の聞えた住吉の大燈籠は本社の正面松林の盡くる所にありまを其近傍にある海水浴場は四時大阪からの浴客充滿し春は殊に汐干狩で大した賑ひを極めまを▲其他灣の口大黒へ五町浪速屋の笠松へ五町我孫子觀音へは十八町孰も一覽の價がありまを

堺　住吉の次は大和川其次が堺で慶長のはじめ迄は日本一の港だつたのでを停車場の南六町程の處を大濱と申して海水浴場がありまを一力樓、茅海樓、川吉樓などと云ふ旅宿

郵便はがき

郵便切手は此所へ貼付すべし

郵便はがき

郵便切手は此所へ貼付すべし

があつて孰れも生洲を設けまた生る魚を御客に出しまそ▲妙國寺　日蓮宗の名刹で材木町にありまそ此の寺にある蘇鐵は高さ三間大枝二十三本年を經る事四百年に垂んとそる奇樹でそ▲菅原神社　以前常樂寺と云ふ天台宗の御寺に屬して居つたのでそが御維新の時境内の輪堂阿彌陀堂等を毀して改めて菅原神社と名けたのでそ▲開口神社　甲斐町東二町にありて住吉神社の外宮で廿年毎に朝廷から社殿の修補を御命令になるそうでそ▲南宗寺　澤庵和尚の中興で寺内に牡丹花肖柏、一閑齋紹鷗、千利休等の墓がありまそ▲方違神社　停車場の直ぐ側で方違祓と云ふので有名です尚近傍五六町の處に高須稻荷祥雲寺大仙陵、百舌鳥八幡宮等の神社佛閣があります

●濱寺　『音に聞く高師の濱の仇波はかけしや袖の濡れもこそそれ』と歌はれた高師の濱の蹟で風景極めて宜しく旅店では公園内の海濱院が一番宜しう御座いまそ▲濱寺公園　昔元享年間三光國師の開創した大雄寺と云ふ御寺のあつた處で古松林をなし西に淡路島北に須磨明石南に紀伊の連山を望み風景絶佳夏日避暑の最好地です▲大鳥神社　堺の南一里濱寺からは八町程の大鳥村にあつて日本武尊を祭つた社です毎年八月の例祭には當村は勿論堺の町まで非常の賑を極めまそ

●大津　土佐日記にある小津の泊と云ふのは此處の事です楠公寄附の石燈籠のある宍師神社は停車場から十町秀吉が日々其水を大阪城まで運せたと云ふ國府清水も此の近所でそ▲信太の森恨み葛の葉とか千枝の樟とか云ふて淨瑠璃で有名な信太の森も亦此の近くでそ今でも狐が棲んでると云ふ事です

●岸和田●　昔楠氏の一族和田高家の居つた城跡で岸の和田と云ふ處から岸和田と云ふ名になつたのです宿屋の有名なのは西吉、田邊屋等で密柑が名物でそ▲牛滝山　紅葉の名所で岸和田から東南三里滝は三段に分れ其傍に大威德寺と云ふ寺がありまそ秋其寺へ行て泊ると猿や鹿が窓近く來て鳴くそうです▲蛸地藏　岸和田の町の中にある寺で本尊地藏菩薩は其昔蛸の背に乘て海中から現れたのだと云ふ事でそ▲久米田寺　停車場の東卅町で天平年間行基菩薩の開基でそ寺内に橘諸兄の墓がありまそが今は磨滅して僅に形を止むるばかりでそ

●貝塚●　貝塚の御坊と云ふ本願寺別院のある處で昔堂後の池に二股の蓮へ生へましたら其後間もなく本願寺の宗風東西の二派に分れたと云つて同宗では一廉の靈地としてありまそ▲水間寺　大川と樫原川が合して水間川となる所にありて停車場からは約卅町聖武天皇の勅願所で古は堂宇甚だ壯嚴だつたそうでそが今は護摩堂が殘つてるばかり併し景色は中々宜う御座いまそ

●佐野　停車場から五町の蟻通神社は枕双紙に出て居る某中將が唐から智慧くらべのために おこした七曲の玉へ蟻の力によつて糸を通したと云ふ故事のある處でそ▲犬鳴山瀧に紅葉に泉州第一の幽邃な地で停車場からは二里大土村の内にありまそ山腹に七寶瀧寺と云ふ寺があつて頼めば泊めても呉れまそし酒の肴位は拵へてもくれまそ

●樽井　躑躅の名所躑躅ヶ岡は停車場から十五町で縦十五町横五町の岡は悉く躑躅で花の咲りには紅燃ゆるばかりでそ▲金熊寺　停車場から一里餘梅花の名所で遠く塵寰を離れ眺望も頗る宜しう御座いまそ

●尾崎　西本願寺の別院のある處でそ波有手村揚柳山法福寺具掛の松等も其近所で一里餘を隔つた田山の稲荷は四時參詣者のあとを絶たぬ當國有名の神社でそ

●深日　昔から月、千鳥に名高い深日の浦で冠石、烏帽子岩、入道岩等の奇景がありまそ村の東にある飯盛山は住古飯盛寺と云ふ大きな寺のあつた跡で荒廢したあとと吊ふも亦風流です

●和歌山　深日までが和泉で其次が和歌山でそ旅館は富士源、紀見文等其外群しい事は紀和鐵道の章下に出て居まそ

高野鐵道　大阪(道頓堀)長野間

●道頓堀　大阪は道頓堀汐見橋の南にある停車場でそ大阪の事は此の章の初に書いてありまそ

●木津川　矢張り大阪の内で川を隔てゝ三軒家に對し木津の青物市場木津の大國神社等へは十五町以内でそ

●勝間　南海鐵道天下茶屋驛の側でそ次は住吉その次は堺で孰れも前に出て居まそから此處には省いて置きまそ

●西村　此の近所で見るべきは停車場から廿町隔つた金岡神社と同じく廿五町離れた今井法雪寺位のものでしよう

●狭山　茶の名所でそ停車場から五町行くと有名な狭山の池で我邦最初の池で其廣大なる事も亦日本第一でそ

●瀧谷　河南鐵道の富田林へ卅町日本三不動の一つなる瀧谷の不動へは廿五町でそ靈驗あらたかなと云ふ事で年中參詣人が絶えた事はありません

●長野　此鐵道の最終点で此處から高野山まで八里の間は未だ敷設になつて居りません千

早の城跡へ二里十八町正成の首塚へ一里十二町病氣保養に適當な錦渓温泉へは僅に六町避暑及楓の名所なる瀧畑四十八瀧へは約三里の距離で人力車の便がありまそ

阪鶴鐵道　神崎福知山間

●神崎　一体阪鶴鐵道と云ふのは神崎と福知山の線なのでそが今では旅客の便を計つて東海道線の京都からズット直通列車を出して居ります神崎は即ち大阪（梅田）の次の停車場で近傍一帯酒の産地でそ▲尼ケ崎　廣徳寺、法園寺、栖賢寺、本興寺、貴船神社等の名刹巨閥があつて立派な海水浴場も澤山ありまそ▲傾城塚　遊女宮城が法然上人の説法を受け飜然自身の罪を悟つて海に投じて死んだ跡でそ神崎の北一町田圃の中にありまそ

●伊丹　神崎の次は塚口其次が伊丹で古來有名な酒造地でそ附近に辻碑、荒附の池、野の宮祇園、黒染寺の遊覽所がありまそ▲昆陽寺　伊丹の西にあつて以前猪名の笹原と云つて居た處でそ寺は行基の草創で寺内に大池と云ふ周圍三十三町の池がありまそ矢張行基の開鑿したものでそ

●池田　停車場の北八丁に木の部と云ふ牡丹園があります牡丹の本場所で其名は日本全國に轟て居まそ▲五月山　俗に愛宕山と云ふて眺望開濶櫻の名所でそ山腹に池田光政の草創に係る大廣寺と云ふ寺があつて毎年七月廿四日の法會には無數の燈火を点じ大阪から見ると丸で星のやうでそ▲久安寺　細川村にあつて觀世音の靈場でそ境内朱雀の池、逆川の觀音、石車の瀧、水澄の清水等の名所多く春は櫻秋は楓夏は螢冬は雪等四時の眺を誰くして居まそ▲能勢の妙見　吉川村にある翠巒で俗に厄除の妙見と稱し遠近から參詣をるもの引きも切らぬ有様でそ其の昔女の高野山と呼ばれた高代寺も此傍にありまそ▲箕面山　停車場の北四十町で有名な箕面の瀧は直下十一丈幅十八尺秋になると瀧を挟んで楓樹紅を漲らし絶景筆紙の外でそ瀑布の傍に三鈷の松、座禪石、唐人戻石等の名跡あり山中の辨天社は江州竹生島、相州江之島、藝州嚴島のと一所に日本四ケ所の辨天と稱へらるゝ名刹でそ本坊の隣に岩本樓と云ふ料理屋があつて旅宿をも兼て居りまそ

●中山　有名な中山寺のある處で香煙絶ゆる事なく境内櫻樹に富み風光絶佳村内には又園藝家が澤山で一村殆んど植物園と云つたやうな有様でそ▲平野鑛泉　中山からは東北池田からは正北の多田村にありまそ胃病皮膚病に特別の効能あり旅宿も立派なのがありまそ▲滿願寺　矢張り多田村の中で太古素盞雄尊の降臨した處だそうでそ多田源氏一門の菩提所で東北には多田滿仲を祭つた多田神社がありまそし西南には最明寺時頼の止錫した最明寺瀧と云ふのがありまそ

●寶塚　寶塚温泉は近年の發見で胃病、リウマチス、子宮病に特効あり前は武庫川の流に臨み後は兜山と背負ふて風色明媚夏は中々繁昌しまし旅屋の善いのは寶塚ホテル、寶樂家分銅屋、寶來屋、泉山樓、北柳亭等で宿泊料は一日三十錢から五十錢まで山の中でとか魚に不自由はありません▲清荒神　米谷の山中にある寺で停車場の東十町日本第一と稱へられてる荒神樣でとその方丈の庭園は支那の盧山を寫したのだとか申まして幽邃極りなき仙境でとに近所に毫摂寺、昆陽寺、摂葉嶽、甲山等の名所が澤山あります▲月峯山　寶塚の東北にある山で昔の月峰寺の舊墟でとに眺望開豁、遺蹟の訪るべきもの尚二ッ三ッ殘つて居りまとに

●生瀬　有馬の温泉へは此處で下りて二里半の新道を通つて行くのでとに以前は住吉停車場から六甲山を越して行く方が順路だつたそうでまとに▲温泉場は愛宕山の中腹にあつて皮膚病、打傷、中風、リウマチス、子宮病、貧血性に特効があるそうでとその新道が出來てから此方が本街道になり客舍は清水ホテル、杉本ホテル、奥之坊、御所坊、中之坊、池之坊等卅餘軒ありまとに多くは三階造りで宿泊料は一等二圓から四等七十五錢まで席を借りる事になりまとに一週間六圓から七十五錢までの間でとに▲皷ケ瀧　有馬六景の一で温泉場の南八町瀧の川の上流でとに高さ十丈、櫻と楓が澤山あつて殊に有明樓と云ふのは歌にまで歌はれた名木でとに▲落葉山　温泉場の西にある山で其麓が瀧の川でとに風流の人は夏蟬を聞くため態々出掛けて行くそうでとに▲功地山　湯山町の巽にあつて昔孝徳天皇の行宮のあつた處でとに六景中第一風景に富んでる處でまとに▲此他温泉寺、鳥地獄、一虫地獄、極樂寺、善福寺、龜尾の瀧、菩提院の跡、拋木山の城趾等逝覽の場所が澤山ありまして長く逗留しても少しも退屈をる事はありません名物は有馬筆、籠細工、竹細工、有馬燒等でとに▲六甲山　住吉から有馬へ通ふ間の山で西にあるを摩耶山、西北にあるを唐櫃山東にあるを武庫山其又東にあるを甲山と云ひまとに孰れも六甲山の山續でとに摩耶山唐櫃山には夏になると外國人の避暑客が充滿して丸で小さな居留地のやうになりまとに

●武田尾　武庫川の上流高座山の麓にある間の宿で武田尾温泉と云ふのがありまとに風景佳美泉質良好諸病に特効があると云ふ事でとに

●道場　有馬から三田へ行く街道筋で路が極めて樂でとから病人などは汽車で此處まで來て此處から有馬へ引返をが宜う御座いまとに此處から武田尾へ通をる鎌倉谷は山の間と縫ふて流れる一葉川が處々の岩に當つて碎けて瀧になつたり淵になつたり天然の美を盡して居ると云つても宜い程の絶勝でとに

●三田　郡役所もあり警察署もあり近傍第一繁華の街でとに生瀬から此處へ參るまで川を渡

り山を潜り隧道の數凡て十二關西の箱根と云はれて居りまそ▲羽束山　一名香下山とも云つて屡古歌にあらはれた名山でそ山中相生松連理柏等の奇樹がありまそ▲鏑射寺　聖徳太子の開基で太子が智慧神通の鏑矢で數千の蝦夷を打ち敗つた舊蹟でそ

●古市　丹波の篠山から播磨へ通ふ街道筋で三田からは廣野、相野、藍本の三停車場を隔てゝ居りまそ西國廿五番の札所清水の觀音は西の方十五町でそ▲高仙寺　北へ廿町大化年中の草創で文保寺、龍造寺と共に丹波の三山と云はれてる御寺でそ

●篠山　舊幕時分には青山氏の城下で舊城は今學校になつて居ます宿屋では角源、近又などが宜しう御座いましよう▲少將山　西南三十町川に臨んで螢の名所でそ▲春日神社　町の北十町青山氏の產土神で舊の九月九日が例祭でそ▲文保寺　西へ二里弱修法の靈場で後小松天皇の勅額がありまず▲龍藏寺　南へ三十町城内村にある名刹で同じく法道仙人の開基でそ寺内の勝軍地藏は貴賤遠近の歸依淺らず衆人常に絕えざる有樣でそ▲籠防温泉　東南二里餘壽永の亂に平氏の臣鷲尾重臣が逃げて來た處で温泉も鷲尾の發見だと云ふ事でそ▲辨天の滝　東北五里八尾山の麓にありまして一名を大滝又四十八滝と申まそ盡し當國第一の奇觀でそ

●大山　北一里追入村に追手神社があつて社から二三町行くと金ケ坂隧道で山を穿つて道

を通す北に數十町の間は山櫻で並木が出來て居まそ

●谷川　福知山から播磨へ通ふ街道で南の方五里播磨の國に滝の川と云ふのがあつて鮎の名所でそ源平合戰の古戰場三草山へも六里で參られまそ

●柏原　篠山と距る四里廿三町福知山を距る六里十七町舊織田氏の治所で町の中に堀尾吉晴が秀吉の命によつて造營した八幡神社がありまそ宿屋の重なるものは叶田屋、魚友、菊屋等

●石生　俗に七尾七谷と呼ばれてる圓通寺は停車場の西北三里二十町景致幽邃奇岩と懸水とで有名な不動山も同ト〳〵二里神樂村の高源寺は紅葉の名所で又蹲踞の名所でそ

●黒井　俗に庖瘡神樣と云ふ兵主神社及朝日の天神、船城の天王等皆此の停車場の近くでそ

●竹田　黒井の次が市島で此處には神池寺日ケ輿等の名所がありまそし其次の竹田には石像寺と云ふ名高い寺がありまそ

●福知山　天正年間豊臣秀勝の城と築い處で山陰道の咽喉でそ天照玉神社へは西へ一里一宮神社へは南へ一里宿屋の有名なのは加賀儀樓でそ▲大江山　北一里丹後の國境にあつて昔鬼が擾んで居つたと云ふ處でそ登るには宮津街道の中佛性寺越を越して行くのが一番

近くて又一番樂でも▲宮津　　縞の財布が空になると云ふ勝地で禰知山から汽車に連絡して車馬の便がありまも此處から愛宕山、山王社、如願寺、大堂、鷄塚、鷄冠の松等の名所を見て一里程行くと天の橋立でも▲天橋立　　日本三景の一で何時何處から見ても絶景天下に類ありませんが其中でも一番善いのは但馬の城の崎へ越す楮峠と成相山の中腹傘松の二ケ所でも▲城崎温泉　　宮津から豊岡へ出て豊岡から二里廿五町行くと城の崎温泉でも油筒屋、三木軒等の旅館がありまも▲籠神社　　橋立の北で後は山を負ひ前は海に臨み景色の善い處でも此處から大谷寺阿彌陀峰等を過ぎて一里程北へ行きよもと有名な成相の觀音でも▲舞鶴港　　宮津から六里車も自由に通じまも日本海只一の軍港で町も中々繁昌して居まも▲皇大神宮　　皇夜の大廟が伊勢へ遷座もる前は此處に鎭座して居つたのだと云ふ事でして今でも元の大神宮と云ふて居りまも

奈良鐵道京都鐵道　櫻井京都間　京都園都間

●櫻井　奈良鐵道は一休京都が起点なんでも京都鐵道と連路して案内もるため態と櫻井の方から書きはじめる事にしました櫻井の事は關西鐵道の部に出て居まも

●三輪　三輪素麺の産地で市街の茶店は大概三輪の茶屋と云ふ看板をかけて居まも▲三輪山又神並山と云ふて山の上に不動地藏藥師の三石像がありまも山腹にある三輪社は崇神帝の時の創建で境内に三輪の檜原、玄賓谷、三光谷、神の峯、活日川、狹井川、淵橋、柴摘田、印の杉、双本杉、小田卷塚、纒向山等の名所がありまも

●柳本　柳本櫻へは五町大和神社へは十町でも大和神社は垂仁帝十五年の草建で四月一日が例祭でも

●丹波市　天理教會の本部のある所で停車場からは僅か五町でも其外桃尾瀧、石上神社等執れも十町以内の所にありまも

●櫟の本　柿本神社へ二町檜神社へ三町山邊郡と添上郡の境にある小驛で此處から郡山へ扳けられまも

●京終　奈良の市の南にある停車場で其北に奈良驛がありまもが詳しい事は關西鐵道の部を御覽下さい

●木津　此處で關西鐵道の加茂網島線と連路もるのでも附近の名所は同鐵道新木津の條下に書いてあります

●玉水　此地を玉水と云ふのは著名なる井手の玉水の所在地なるに由るので今も玉井寺と云ふ寺があつて其庭に玉の井と云ふのが殘つて居まも▲井手玉川　　驛の傍を通つて木津

川に入る川でそ昔は山吹の名所だつたろうでそが今はありません川の側に井手左大臣橘
諸兄の館趾がありまそ▲妙勝寺　玉水の西北一里半程の處にある禪寺で一休和尚の墓が
ありまそ▲高倉宮社　棚倉村にある社で治承の昔源三位頼政と共に事を起して成らざり
し高倉宮以仁王を祭つた處でそ

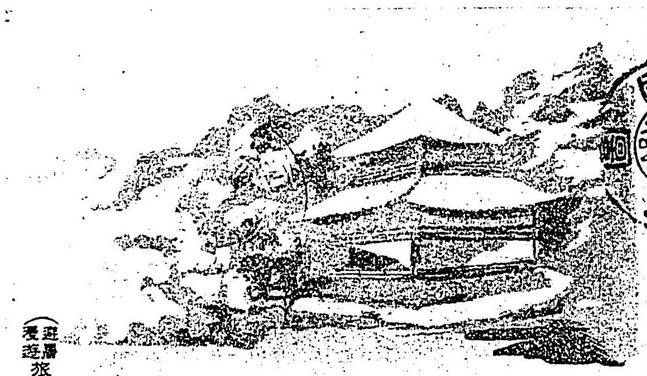
●宇治　玉水から長池、新田の二驛を過ぎまそと次は茶で名高い宇治の町でそ昔から歩の
名所で旅店も料理屋も灘酒なるものばかり納涼には此上なしの好地でそ▲平等院　頼政
の討死した處で其自殺した處を今も扇の芝と云ふて居りまそ本堂は即ち鳳凰堂で嘗てシカ
ゴの博覽會へ其模形を出して非常の賞讃を蒙つた事がありまそ▲興聖寺　朝日山の麓で
宇治川の碧流其下を巡り寺内草木水石の點綴宜しきを得て中々善い眺望でそ▲縣神社
弓削道鏡を祭つた處で毎年五月の例祭には京阪地方から遊女が列を作つて參詣そうそう
とそ▲橋姫社　舊宇治橋の南端にありまして戀の神樣だそうでそ失戀の人は行つて祈請を
籠めたら宜う御座んしよう▲槇島　宇治の東南凡そ十町許り前は宇治川後は巨椋池で月
の名所でそ▲椎本八幡　佐山村山の西の林の中にある神社で崇神天皇の御宇村民靈夢に
感じて男山八幡を勸請したのだそうでそ

●桃山　宇治の次は木幡で其次は桃山でそ昔豊臣氏の館のあつた處で伏見城の一部でそ梅

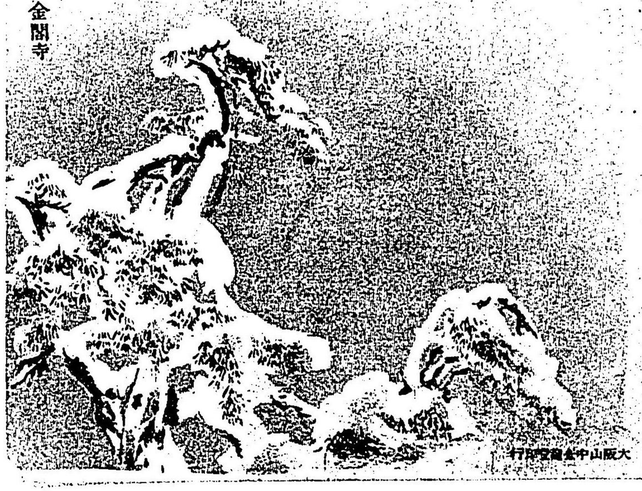
が澤山あつて花の盛りには遠近曳節の雅客少なからず桃も亦少くはありません▲深草里
正保の頃までは鶉の名所でしたが今は草を刈つて仕舞つたので一匹も居りません名物深
草圃扇は此近傍から出るのでそ▲東福寺　伏見街道一の橋の町一丁餘で有名な通天の紅
葉は此の境内にあるのでそ▲藤森神社　伏見街道の東側深草村の中にある社で桃山には
西北に當つて居まそ藤の名所でそ▲墨染寺　藤の森の南凡そ二町日蓮宗の御寺で有名な
墨染櫻のある處でそ

●伏見　京都とは町續きで大阪へは毎日數回汽船が通つて居りまそ關ヶ原の戰に鳥居元忠
が天晴れの戰死とした伏見城の城跡は町の東方伏見山の上に殘つて居まそ▲御香宮　伏
見山の西三町神功皇后を祭つた社で鳥居の前に御香水と云ふ清泉がありまそ▲觀月橋
奈良街道にある橋で古へ桂橋と云つた處でそ橋の北二町の間を指月と云つて料理屋もあり
まそし掛茶屋もありまそし月見には第一の土地でそ▲巨椋池　東西卅二町南北廿四町周
廻は四里の餘ありまそ淀川の水を注ぎ込んだのでして蓮の花が澤山ありまそ▲戀塚　上
鳥羽實相寺の側にあつて遠藤盛遠が誤つて袈裟御前を殺し其首と葬つた處でそ▲安樂寺院
初め鳥羽上皇の離宮だつたのを後御寺にしたので境内に二層塔、新堂、五輪塔、御愛
の梅、冠石等見るべきものが澤山ありまそ

京都●奈良鐵道は此處から丹波の園部まで通じて居りまそれで其停車場は大宮、丹波口、二條、花園、嵯峨、嵯峨までは孰れも京都の郊外で取り分けて區別をる必要もありませんから一括して書く事にしました扨京都は垣武天皇以降七十二代の帝都で東は淨土寺、鹿ヶ谷、南禪寺の諸嶽を以て近江に連り粟田口、清閑寺、今熊野の諸山を以て宇治郡に接して居りまそして褒たる奏の東山とは此の山の事でそ南は紀伊葛野の二郡西は葛野郡東北は加茂川を隔て、愛宕郡の下加茂、田中と相望み北は同郡の鞍馬口に境して居まそ東西二里南北一里半分て二區とし三條通以北を上京以南を下京と申して居りまそ▲上京區●此區内にある重な建物は御皇居、氣象台、博覽會、二條離宮、京都府廳、同志社及其他の官衙學校等で二條通には藥種商多く寺町通りには雜貨商及書籍商多く室町通には呉服商多く最も繁華な處は三條通でそ西陣は區の西北部で織物に有名なるは世人の普く知つてる處でそ▲下京區●御寺の多い處で賑なのは四條通魚青物の市は萬壽寺通右着商は五條通陶磁器製造所は五條の阪の邊と大概區域が極つて居まそ▲禁裏御所●即舊皇居で外郭には以前綉紳の邸が多かつたのでそが今は取拂はれて遊園地になつて居まそ▲三條大橋●橋杜は凡て花崗石で擬寶珠は悉く紫銅でそ橋の近所に旅宿が澤山ありまそ▲新京極



（避暑遊覽旅行案内繪端書）



金閣寺

（避暑遊覽旅行案内繪端書）

松島

大阪山中堂發行

郵便切手は此所へ貼付すべし

郵便切手は此所へ貼付すべし

三條大橋の西三四町を隔てた通で東京の淺草大阪の千日前と同じく興行物飲食店などが軒を比べて晝夜を分たず非常に賑な處でも▲四條大橋　京都唯一の鐵橋で橋西の先岸が先斗町橋東一帶の地は祇園新地で歌舞の菩薩の列んで居る所でも劇場も亦此處に集つて居ますと夏は橋の下へ納涼の客が群集して終宵絃聲を絶たない位でも▲島原　千本通東松原の南にわつて丹波口停車場の側でも天正十年の創開で其以前は將軍義政の遊苑だつたでも▲平安神宮　七條(官線)停車場から廿五町垣武天皇を祭つた社で社前にある紀念殿は昔の太極殿と摸造したもので盡し洛中の偉觀と云ふても宜う御座いましよう▲圓山公園　東山の一部で四條の大橋を車に渡つて八阪神社の背後を登ると其處が即ち公園でも位置は祇園林から智恩院の境にまで亘つて中には料理屋もありますし旅宿もありますし圓山鑛泉と云ふて諸病に特効ある温泉もありますも▲疏水運河　近江の琵琶湖の水を引いて來たもので大津三保崎から三井寺の下を過ぎ日岡まで來て一は西北に走つて加茂川に入りへは南禪寺を通つて御苑内へ入つて居ますと南禪寺にあるインクラインは舟が實際山に上る仕掛になつて居て中々の奇觀でも▲本願寺　烏丸通の南にあるのが東本願寺で慶長十七年敕如上人の開基です西本願寺は七條通りの堀河にあつて之が本願寺の本派でも▲金銀閣寺　金閣寺は三條大橋を去る西へ一里衣笠山の麓にありまして結搆閑雅寺僧に頼めば縱覽させ

て遥れます銀閣寺はズット東へ離れた浄土寺町で其庭園は相阿彌の意匠だと云ふ事です▲加茂社　上下の二社ありまして下の方は市の東北加茂高野両河の會する所にあつて近傍一帯の地が即ち糺の森です毎年五月十五日の葵祭は祇園會と相對して京都の二大祭と稱へられて居りまして上加茂社は此處から更に加茂川を溯る事半里後は御生の山前は御手濯川で山水幽邃の靈地です▲嵐山　京都停車場の西北三里大堰川の南岸で其中に渡月橋大悲閣戸無瀬滝等の名所があり又近頃の發見に係る炭酸泉もありまして四時の眺め絶佳ですから京都へ行つたものは是非一遊しなければなりません▲高雄山　紅葉第一の名所で梅尾、槇尾、高雄と三つ此んで居るのですが其中梅尾は一番北で高山寺と云ふ寺があります其次が槇尾西明寺次が高雄神護寺です或人が梅尾は快豁、槇尾は幽雅高雄は宏壮と申しましたのは盖し評し得て餘蘊なしです▲北野天神　三條大橋と去る一里六町右近の馬場の中にありまして梅の名所でもあります其西北二町程の處にある平野神社は古から櫻の名所でして御茶屋り澤山出て居りまして▲百萬遍　三條大橋の東北廿三町浄土宗の本山でもあります寺の西北に千栄寺于栄寺の東に北白川の流がありまして此處を越そのが即ち歌などで有名な志賀の山越です▲而禪寺　栗田口の北にある御寺で後の山には神仙佳境、駒ケ瀧、羊角嶺等の名跡があります又直ぐ北隣は浄土宗の永觀堂で春は櫻秋は紅葉の名所でもあります

申まして新島先生の御墓のある處でもあります▲鹿ケ谷　俊寛僧都等が平家討滅の謀を議した處で今も談合谷と云ふ名の殘つてる所があります▲靈鑑寺　京都を去る西へ一里半紅安樂寺、萬無寺、谷の南にあるのが光雲寺でもあります▲太秦廣隆寺　葉の名所でもあります寺の西北には廣澤池其對岸には遍照寺山等の舊蹟がありまして大覺寺直指庵もあります其の近くでもあります▲東寺　東本願寺の西南に當る眞言宗の本山で境内に牡若が澤山ありまして東寺の北にあるのが六孫王社で其北にあるのが大通寺更に北に進み七條通と右折して堀川に參りますと其左にあるのが與正寺でもあります▲東山　此外名所舊蹟は數限りもない程ありまそが一々説明して居る譯には行きませんからせめて名だけでも列ねて置ましよう先づ東山即ち市の東の山腹山麓にありまそのは西大谷、大佛、豊國神社、井三間堂、泉涌寺、清水寺、清閑寺、鳥部山、八阪神社、靈山（山上に木戸公の墓がありまして）庚申堂、三年阪、子安觀音、高臺寺（萩の名所）東大谷、長樂寺（紅葉の名所）、智恩院、黒谷、眞如堂、將軍塚、建仁寺、東漸寺、雙林寺（遊園地がありまして）六波羅蜜寺等でもあります▲西山　それから又西山即ち町の西の方にありますのは壬生寺、空也堂、佛光寺、御影堂、神泉苑、二條離宮妙心寺、仁和寺（即御室で櫻の名所）清涼寺（即ち嵯峨で同じく櫻の名所です）天龍寺、法輪寺、松尾神社、月讀の社、西芳寺等でもあります▲洛外　如意ケ嶽は鹿ケ谷の後で毎年七月十六

日には大の字の火を焼くので有名ですし鞍馬山は三條大橋から北へ三里牛若丸の蹟跡として名が著れて居まと其外一休和尚の居つた紫野大徳寺風景絶佳な修學院村等孰れも洛の東北にありまと▲旅店　圓山の也阿彌左阿彌、祇園の中村樓、姉小路の俵屋枩屋、三條通の萬屋鍵屋茶屋日光屋、押小路の澤文、七條停車場前の鶏岡屋、珠數屋町の吉岡家、川端通の六花園、東洞院通の蛭子屋、木尾町高辻の富士亭それから嵐山の方へ行て三軒家三友櫻明金樓坂利長谷川等は先づ有名な中でと▲名物　は西陣の織物が第一で次は扇子、色紙、紅、白粉、清水燒、嵐山燒、櫻木細工、京人形、花簪それに松葉、千枚漬等でと

●龜岡　矢田神社、穴太觀音、應擧寺、法貴谷、櫻天神等へ行くには此處から下りるのでして能勢の妙見へも此方が近道でと▲保津川　嵐山の上流水と岩との奇勝を探らうと思ふたら此處で船を傭ふて保津川を御下りなさいませ或は潮となり或は淵となり奇景應接をるに暇なく殊に晩春の候には兩岸に躑躅山吹が咲充ちて居つて其眺め亦一しほでと

●園部　龜岡の次が八木其次が園部でと三驛とも丹波の內に屬して木、石材等の產地でと殊に園部は丹波街道の咽喉で篠山へ七里福知山へ十二里大江山酒、桑酒、唐板、栗、松茸酸漿等其名產でと

東海道鐵道

●神戸新橋間

申さまでもなく新橋（東京）神戸間の官設鐵道を主にしたものでして、其子線とも見るべき近江鐵道、尾西鐵道、中央鐵道、武豐支線、豐川鐵道、豆相鐵道、橫須賀支線及び日本鐵道の東京山の手線は勿論此の中に加へる事にしました、東京の案內も此の條で說き明して居りまと併し京都、大阪及其附近の名所は近畿諸鐵道の部に出て居まとから其方と見て下さい

外に甲武鐵道、川越鐵道、青梅鐵道、總武鐵道、房總鐵道、成田鐵道も便宜上此の章に收めて置きました

官設鐵道

●神戸新橋間

每日二回づゝ神戸新橋の双方から直通急行列車が出まそのみならず近頃は又寢臺列車の設備も出來まして大層都合善くなりました

●新橋　東京は舊時江戸と云つて武藏國の東南部に位し、東西北の三面は廣漠たる關東の原野を控へ、南一面は東京灣を扼し、地勢曠濶、交通八達、本邦の帝都で、政治、文學、

商業の主腦地でを、市坊一千三百七十二、戸數三十四萬、人口百三十七萬八、區を別ちて麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四ッ谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川の十五としてありまを▲麹町區　市の中央にあつて、區内は官省最も多く學校、會社等尠からを、其重なるものを擧くれば内閣、樞密院、宮内省、近衛兵營、東京氣象臺（宮城内）陸軍省、參謀本部（永田町一丁目）外務省（霞ヶ關一丁目）海軍省、司法省、裁判所（櫻田門外）帝國議事堂（内幸町一丁目）東京府廳（有樂町一丁目）警視廳（八重洲町二丁目）會計檢査院（大手町一丁目）電話交換局（道三橋内）日本郵船會社、明治生命保險會社、海上保險會社（八重洲町）印刷局（常磐橋内）文部省（竹平町）赤十字社（飯田町五丁目）和佛法律學校（富士見町六丁目）英吉利公使館（五番町）佛蘭西公使館（飯田町一丁目）朝鮮公使館（中六番町）獨逸公使館（永田町一丁目）露國公使館（裏霞ヶ關）伊太利公使館（三年町）西班牙公使館（内山下町）華族女學校（赤坂門内）等帝國ホテルは有樂町にあつて洋風の旅館としては日本第一でを▲靖國神社は九段坂上にありまを明治二年の建設で、維新後國家の爲めに死せし忠士の靈を祭る所でを境内には能樂堂、遊就館、競馬場、相撲場及び大熊氏廣の製造した故兵部大輔大村益次郎の銅像等あつて又遊就館には古今の兵器及び征清の役當時の分捕品等がありまを社内櫻樹梅樹多く、春季は一層の好景でを▲星ヶ岡公園　俗に山王臺と稱して日枝神社のある所でを園内櫻樹生茂り、四季景色宜しく、星ヶ岡茶寮にて名高き會席がありまを▲神田區で見るべきは高等商業學校（一ッ橋通）東京法學院（錦町二丁目）明治法律學校（駿河臺南甲賀町）專修學校（今川小路）ニコライ教堂（駿河臺）錦輝館（錦町三丁目）神田明神等で明神の境内には相馬將門の祠がありまを、位地高台にして市内を見下し、眺望頗る絶佳でを▲日本橋區　市の中部で本邦里程の元標です、商肆櫛比、車馬往來繁く、夜間と雖も人通絶えた事がありません本町には藥種商多く、大傳馬町には呉服太物商、横山町には小間物商、人形町通りには雜貨商、大門通には銅鐵商、小舟町には肥料商等最も多し、區内の重なる建築物は明治座（久松町）水天宮（蠣殻町）日本銀行（常磐橋側）安田銀行（江戸橋側）三井銀行（駿河町）米穀取引所（蠣殻町）第一銀行（海運橋東）東京郵便電信本局（江戸橋南）等兩國橋、永代橋、新大橋何れも隅田川に架せる大橋です▲京橋區　銀座通りは煉化石造家屋鱗次し、西洋品雜貨、唐物商、新聞社、勸工場等多く、百事便利の地で、且つ最も壯麗なる商區でを、築地築町には外國人居留地あり、越前堀は運輸至便の地にして、橫濱、房總地方へ航行をる滊船ありて、諸貨の輻輳をる所でを、區内の重なる建物は遞信省（本挽町九丁目）農商務省（木挽町五丁目）歌舞伎座、新富座等、東京商船學校、海軍大

學校、造船所等でそ▲芝區　宮城の南に位し、北東は京橋に、北は麹町に、西北は麻布赤坂區に隣し、東南一体東京灣に面して區の東方海濱には濱離宮があります▲芝公園は三緑山增上寺の境内で、增上寺は德川幕府の香華院なれば、家康、家光、代々の廟あり寺内には口徑五尺八寸、高さ一丈餘の大鐘あり、境内樹木鬱蒼、幽邃の閑地で、圓山は遠望殊に宜し▲愛宕山　は芝公園に近く山上愛宕神社を祭つてある處でそ土地高く市内を眼下に見下し、眺望佳絶東京第一なと申ます其他琴平神社、泉岳寺、芝浦、海水浴場、紅葉館（芝公園西隅）能樂堂（紅葉館隣）赤羽海軍兵器局（三田四國町）慶應義塾（三田四國町）東京府廳工場（芝公園内）和蘭、諾威、瑞典、布哇、丁抹等の公使館等皆芝區の内にあります▲麻布區　此區で最繁華な處は飯倉町四辻で一本松には葡萄牙國公使館あり、龍土町には麻布兵營あり、笄橋の西南には赤十字病院あり、善福寺は一本松の下山元町にありて、境内には倒鴨脚樹と稱する名高き大木があります▲赤坂區　青山、赤阪の兩御所のあるところ青山練兵場は青山北町一丁目より五丁目に渉り四ッ谷に續きたる大原、氷川神社は溜池の南にありて素盞嗚尊を祭つた社で、境内閑靜、春は花見、夏は納涼の名所でそ▲牛込區　大久保余丁町に躑躅園あり、市ケ谷には八幡宮あり、神樂阪通りの北、赤城下町には赤城神社あり全所の南、東銀町には築土明神あり、てて將門の首を祭る、里沙門堂は神樂阪通の

善國寺内にあり、寅の日は緣日で仲々賑でそ、其他學校官署には早稻田に大隈伯の設立に係る東京專門學校あり、市ケ谷門外に陸軍士官學校、中央幼年學校、若松町に陸軍戶山學校等がありまそ▲小石川區　小石川橋外に、舊水戶侯の上屋敷で、有名な後樂園と云ふ庭がありまそ、現今陸軍砲兵工廠のある所でそ▲傳通院は、同所の後に當れる安藤阪の上にあつて、德川家康の建立したのでそ、それから又目白臺續き音羽堂丁目には、有名な音羽の護國寺と云ふのがありまそ▲本鄉區　學校の多い處で元富士町には帝國大學、高等學校、御茶の水橋外には高等師範學校、敎育博物館、女子高等師範學校等あり▲湯島天神　は切通阪南にある高臺で、眺望宜しく、團子阪は、菊の名所で、駒込千駄木町にありまそ▲下谷區　上野停車場は車阪町にあり、日本鐵道會社のある處有名な上野公園は停車場の上にある高台で、山の麓には不忍の池あり、池の中央には辨天祠あり、夏期池中遊花見るべく、眺望なか〳〵宜ろしう御座いまそ、園内には博物館、動物園、商品陳列所美術協會、圖書館、「パノラマ」、兩大師、東照宮、大佛、彰義隊戰死者の墓等の遊覽所多く、近時西鄉南洲の銅像を建立しました▲淺草區　淺草寺は古來有名の靈宇で、其名最も高く、境内今は公園となつて居まそ門前には玩具商店軒を並べ、園内には觀物、揚弓店寫眞屋、「パノラマ」、凌雲閣、劇場等あり、四時共に繁華でして、東京第一と云はれて居

りまをと▲吉原の廓……は此所より北數町の處にわん待乳山の夕景として有名なるは山谷堀の末流、今戸橋南詰め聖天町にありまをと、山上には聖天を祀り、眺望最佳でを▲本所區溝渠四通、水運の便に富み、工業の盛なる所で名所は龜井戸天神、回向院、廐橋等でを▲深川區　本所と同じく溝渠八通、運輸の便極めて宜しく材木、米穀、肥料商最も多し名所は富岡八幡宮、深川不動、三十三間堂等でを區末海中に突出したる地を洲崎と云つて有名な遊廓でを▲旅人宿の着名なのは帝國ホテル（麹町區山下町一丁目）東京ホテル（麹町區有樂町三丁目）山城軒（京橋區山城町）精養軒（京橋區山下町）對鷗館（京橋區元數寄屋町）厚生館（京橋區采女町）對山館（京橋區山下町）金水館（京橋區築地一丁目）伊東屋（京橋區南傳馬町一丁目）中央旅館（京橋區五郎兵衛町）桃李館（京橋區加賀町）島屋（日本橋區數寄屋町）遙菜屋（日本橋區通二丁目）魚十（日本橋區蠣殼町一丁目）島屋（日本橋區本石町四丁目）山城屋（日本橋區馬喰町二丁目）伏見屋（日本橋馬喰町一丁目）朝萬（日本橋區馬喰町三丁目）吾妻屋（芝區烏森一丁目）櫻鄉館（芝區櫻田本鄉町）群玉舍（下谷區車阪町）埼玉屋（下谷區三橋町）山城屋（下谷區下谷町二丁目）山田屋（日本橋區大傳馬町二丁目）木屋（日本橋區田所町）上州屋（日本橋區大傳馬町）聚星館（芝口一丁目）川崎屋（芝口

に此地に止まつたのだそうでそ

●横濱　元横濱村と稱し安政の始には只寂寞たる一漁村でしたが今は戸數三萬人口十五萬に達し巨舘高樓を爭ひ車馬絡驛として織るの如く商業活潑にして實に文明の先導者でそ▲市の西に伊勢山公園　と云ふのがありまそ景色頗る佳麗でそれから又市の南本牧天神の境内には海水浴もあり競馬場もあり春秋二季の競馬は日本第一と稱される程でそ▲杉田梅林　は横濱停車場より凡三里南海濱よりそると山越えとの二路ありまそ闊東第一の梅の名所でそ▲金澤　東海に面して三面山を負ひ青松綠深くして白波岸を打ち胸襟洗ふか如くで瀨戸辨天、瀨戸明神、瀨戸橋、稱名寺、金澤文庫舊跡、能見堂、峰捨松等の名勝がありまそ

●程ケ谷　は神奈川より一里十三町神戸岩間程ケ谷を合せて程ケ谷町と云ふので此處から金澤鎌倉へ行く道がありまそ

●戸塚　は程ケ谷より二里十五町當驛北外れの吉田橋より鶴ケ岡八幡宮迄二里八町でそ

●大船　舊時は微々たる一寒村でしたが停車場の設置ありてより此の方仲々繁昌して參りました東の方から來て鎌倉へ行かうとそる者は此處で列車と乘り換へるのでそ併し西の方から來る者は藤澤で下車し江の島を見物して鎌倉に出るのが順路でそ

横須賀支線

●鎌倉　壽永年中源頼朝覇府を開きしより北條氏足利氏の世を到る迄凡そ二百有餘年の間天下の俟伯豪族皆第宅を營みて商家軒を聯ね我國の一大都會でしたが今は小さな村になつて居まそけれども名所舊蹟は非常に多くて近來は海水浴も出來て追々繁華になりそうでそ▲鶴ケ岡八幡宮　は鎌倉の中央雪の下に在り「停車場」より二町計り源　頼義康平年中の勦　諸　で石階中段の傍にある銀杏樹は別當公曉が實朝を弑したる所でそ▲鎌倉宮　は停車場より凡そ八町大塔宮謚良親王を祭つた處で社背の山麓に土窟　あり建武の頃足利直義大塔宮を此所に幽し遂に淵邊某をして之を殺せしめた處でそ▲頼朝館跡　は鶴ケ岡の東筋逸橋の北にあつて今は田圃となつてまそ又頼朝公の墓は　法華堂の山上にあり公の墓より右へ少し隔てゝ毛利島津二氏の墓もありまそ▲建長寺　は鎌倉五山の一で鶴ケ岡の西巨福路阪にありまそ建　長　元年北條時賴の創建で開山は宋大慧禪師でそ五山の第二は圓覺寺で弘安五年北條時宗の創建に係り開山は宋の佛光禪師でそ其建築は宋國の寺門に倣ひしものゆへ一種の異觀を呈て居りまそ第三は龜谷山壽福寺で扇谷にあり頼朝の室政子の草創にして光嚴禪師宋西の開

山でも寺中開山塔の後方に瞿窟と稱する岩窟があつて其裡面に牡丹を畫き賴朝及政子の塔がありまを第四は淨智寺と云ふて北條師時の草建に係り宋の佛源禪師の開基で第五は淨明寺で開山は退耕和尙足利尊氏の父貞氏の建立でも▲假粧阪　は扇谷から西へ通ずる阪路でも昔し鎌倉の傾城町で曾我五郎が馴染し少將梶原源太が歌を詠て送りし遊女も此所に居つたのだそうでも▲鍛冶正宗宅趾　は今小路勝橋の南に在り正宗が父行光貞應の頃此の鎌倉に來り住んで居たのだそうでも同所に又及稻荷と云ふのがありまそが是は當時正宗の祀は我國彫刻家の巨擘で京師東寺の佛師だつたのでも▲大佛　は初瀨村深澤にあり元建長町に屬して居つたので長三丈五尺膝回り横五間半腹内に立像觀音阿彌陀三尊佛と安置してありまを聖武帝の建立で國分寺の一でも▲長谷寺　は長谷村にあり一に海光山と號し十一面觀音を安置してありまも長二丈六尺餘春日佛師の作で和洲長谷の觀音と同材だそうでも又如意輪勢至及び聖德太子の像もありまも▲星月夜　は極樂寺切通へ上る右傍にあり昔は此非白晝と雖も星影が寫つたとか云ふ事でも▲龍口寺　は腰越村の内にあり日法上人の作つた日蓮上人の像が安置してありまも當時は六弟子力と合せて建立せしもので本堂の西山の麓に日蓮上人の土窟がありまも龍口御難の舊

蹟で其側に行合川と云ふのがありますと申まも元弘の亂に新田義貞金の太刀を解さて海に投した處でも「しきなみに一人や寢なん袖の浦さはく湊による船もなし」西行

●逗子●　海水浴の最適場で貴顯紳士の別莊が澤山ありまもし極上等の海水浴旅店もありまも又同所の南凡一里許海濱に長者園と稱する海水浴場あつて此處は風景甚絕佳でも

●横須賀●　横須賀鎭守府の所在地で常に軍艦商船碇泊し市中も仲々繁昌でも町の西方逗見山に「アダムス」の墓がありまも「アダムス」と云ふのは昔德川家康に用られた英人でも▲浦賀　は橫須賀から二里餘安政年間米國使節「ペルリ」が來て彼我貿易の談判を開ひたのは此所でも

●藤澤●　江の島見物の旅客は此所で降りるのでも町の中央にある遊行寺は藤澤山淸淨寺と名け一遍上人の開基に係り昔は堂宇壯嚴でしたが今は僅に假堂を存そるのみでも▲小栗堂　は此寺の東一町計りで小栗判官滿重の像及照手姬の守本尊を安置してありまも傍に小栗十士の古墳あり又什寶として鬼鹿毛の轡照手姬所持の紫摺通寶古錢古鏡等を藏して居りまも▲鵠沼海水浴場　は當驛より廿町餘海濱にあり平砂稚松洲淺く水淸く前

に茫漠たる太洋を控へ東に江の島と望み風景明媚の地でも

●平塚●は海濱に接もる地で馬入川の西にありまも馬入川は昔相摸川と稱して甲州山中湖から流れ出も大河でも▲大山雨降神社は相州大隅郡大山の嶺に在り本大山石尊大權現と稱し平塚より三里餘前不動より本堂迄十八町神躰は岩石で昔日本武尊東征の時此石上に憩ひ給ふた處です

●大磯●は東海道線路中屈指の遊賞地で右は石橋山眞鶴ヶ崎左は江の島鎌倉を控え海水浴場の設ありて三伏の候は京濱等より來遊もる者夥しく甚繁昌を極め紳士の別莊も近頃次第に增加して參りました▲鴫立澤は停車場より西四五町游濱に突出したる小丘で細流其下を繞り丘上西行堂虎子堂あり其木像及び西行の杖及歌抔を藏して居りまも「こゝろなき身にもあはれは知られけり鴫立澤の秋の夕暮」西行

●國府津●小田原へ一里半湯本へ三里小田原へ行く途中酒匂と云へる松林中に松濤園と云ふ旅舘がありまも至極閑靜な處で病氣保療には最好の場所でも▲小田原町は北條早雲より累世の居城で後ち大久保氏の所領となつて居つた處です名物は外郎梅干鹽辛砂糖漬の類でも▲箱根山は東海道中有名の山で昔は關を設けて通行の旅人と吟めましたが今は此事廢して跡なさのみならも鐵道の便開けて復此山を越行く者ありません併し避暑等の爲

（避暑遊旅行案內繪端書）奈良

（避暑遊旅行案內繪端書）太磯

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

郵便はがき
郵便切手は此所へ貼付すべし

め來遊する者が澤山で其ため國府津停車場から山の麓まで馬車鐵道かわつて二時間で達します▲熱海温泉 ―は小田原より七里西北は山に倚り東南は海に對し冬ば暖にして夏は炎熱の候と雖も八十四五度を昇る事少でそ浴泉客舍凡四十戸伊豆山權現來宮神社公園地魚見崎不動濱等の名所がありまそ

●松田● は酒匂川の上流に接近せる一小村でそ此酒匂川は源を富士の東麓に發し山間を屈曲潺湲洄して流れ鐵道經過そる事十四回でそ

●山北● は三方皆山で此處から小山迄の間トンネルが澤山わつて其間には奇峰嵯峨として積翠滴るか如く又谿流岩石に激して白雪を噴き東海線中尤幽邃の地でそ

●御殿場● は地勢高き事海面より一千四百九十尺東海道中第一の高處です昔東照公の遺骸を久能山より日光山に移そその際此處で一宿したので御殿場と名つけたのだそうでそ富士登山を企つる者は是より下車そるが宜しい▲富士山 登山の口は大宮口須山口須走口吉田口人穴口東口新道の六つありますが近頃では概ね東口新道から行きまそ山麓より頂上に至る凡五里十合に分ちて一合二合と次第に上り五合目以上は草木なく只燒石ばかりで登るに隨ひ道益〳〵嶮峻容易に進ひ能はそ四合目より毎合石室があつて旅行に必要の品を賣り又不時の風雨を避けんか爲に宿をも致しまそ頂上には古き噴火口の跡あり積雪四時絶ゆる事なく

晴天雲なきの時近傍數里の景色は捕へ得可しと思はる丶許りでも

●佐野　黄瀬川の上流にある村落で有名な佐野澤園は停車場より西北十五町園内廣く樹木鬱蒼として五條の飛瀑あり懸崖直下其下流一條の川となり園中を流れ甚幽邃の地でも

●沼津　は當時水野侯の所領地で人口一萬餘東海道中屈指の市驛でも旅店は杉本屋、虎屋其他兩三軒ありまする名勝は千本濱、我入道、牛臥等でも▲戸田　は伊豆國戸田港字御濱にあり沼津より便船あり三保の松原富岳御前ヶ崎等を望み好風景なり又漁獵の樂もありまそ▲修善寺温泉　は伊豆國君澤郡修善寺村にあり三面山で桂川の流れ中央を貫流し温泉は川中及ひ西岸より湧出そ盤石と鑿て槽となし又一奇觀でも旅舍は二十六軒内菊屋新井淺羽等風俗醇朴物價も低廉でも此に來る程里は熱海より八里沼津及ひ佐野停車場より六里で近傍には名所が澤山ありまする▲三島　は舊五十三次の一で伊豆國に屬し驛中の伊豆三島神社は官幣大社で大山祇命を祭つてありまそ例祭一ヶ年に七十五回内大祭は旧暦正月元日同月十七日、四月中酉日、八月十六日、十一月中酉日、古より神領甚廣し

●鈴川　南方は田子の浦穏波一碧渺茫として渥りなく三保の松原等の洲渚相接し北方は富岳屹然天表に玉立し東海道中風景絶奇の所です『田子の浦にうちいでゝみればましろにそふじの高嶺に雪はふりつゝ』

●岩淵　富士川の西岸に在りまして停車場の前面に堀割を設け水運便利でも旅店は谷屋萬屋等でも▲富士川　水源は信州八ヶ嶽より發し甲州に到り諸流相會して大河となりて海に注く日本三急流の一で其川流甲州より岩淵に下るの間奇嵓怪石橋梁等畫圖を見るか如く身延參詣の途次は之を眺望そる事が出來まそ▲身延山　は停車場を距る十里計り日蓮宗の總本山でも此山に到らんとそる者は富士川を船にて遡るも又は駕籠に乘るも宜しいが健脚の人は徒歩そる方却て早う御座いまそ旅店は田中屋、玉屋、梅屋等でも

●興津　は和名抄に島津奥津又は冲津なとゝ書いた處でして山水の風致海道第一と云はれて居りまする名産は奥津海苔、奥津鯛等です▲薩陀嶺　普地藏菩薩の像此濱で漁夫の網に上つたので薩陀山と云ふのだそうでも此峠から富嶽愛鷹山伊豆の岬三保の松原等を望ひで風景絶奇齒にも筆にも書きつくせません▲清見潟　奇岩怪石起伏し白砂珠玉の如く水清く波穏で最も海水浴に適して居ります前に三保の松原伊豆の諸山を望み後に富岳愛鷹等の諸峯と控へ旅館には海水樓一碧樓身延樓佐野屋等立派なのが澤山ありまする

●江尻　駿州第一の良港清水港は其南にあり靜岡に近き處でそから市街も稍繁盛でも▲久能山　は江尻の西南二里餘推古天皇の御宇久能忠仁なる者の草建で德川家康を葬つた處でそ▲三保松原　は三保浦三穂崎風早浦等の稱あり清水港より舟で廿町陸を廻つて行け

ば凡ろ一里半餘白砂青松相映し風光絶佳古人の秀詠も澤山あります「風早の三穂の浦邊を、こぐ舟の船人さわぐ浪立らしも」萬葉集

●靜岡　横濱以西名古屋以東の一大市街で高樓大厦聳を爭ひ隻機織漆器竹細工茶紙等を其名産としてゐます▲淺間社は　木花開耶姫命を祭つた社で停車場より十五町はかり府内の生土神で境内頗る濶く櫻桃多く社殿亦美にして日光の次ぎなと云はれて居まそと

●燒津　神皇正統記に曰く『景行天皇四十年夏東夷叛き邊境さわかしかりければ又日本武の皇子を遣そ吉備武彦大伴武日を左右の將軍として相副しめ給ふ十月に柾道て伊勢の神宮に詣て大倭姫命にまかり申給ふ彼命神劍を授けて「謹て愈り予と教へ給ける駿河に至るに賊徒火を付て害し奉ん事を計けり、火の勢免れかたかりけるに佩給ふ所の叢雲の劍自ら拔て側の草を薙き掃ふ是より名を改めて草薙の劍と云ふ」此處が其舊跡でそ▲宇津山　燒津の東北に聳ゆる山で蔦の細道と呼ふ古の小徑もありまそし又有名な志太磯泉んて生茂り通行甚た困難でそ業平東下りの條に「とるかなるうつの山邊のうつゝにもゆめにも人にあはぬなりけり」

●藤枝　一寸繁華な町で越前屋柿屋魚安魚屋抔云ふ旅屋もありまそし又有名な志太磯泉は停車場より廿三町許り鑛泉は硫黄質と含有し諸病に効能が多いそうでそ

●島田　大井川の東岸にある宿場でそ大井川は源を白根山に發し信濃と駿河の境なる赤石山の麓を流れ駿遠二國を分界して注て海に入る海道一の大川で昔は大雨等ある時は川止と成り往來の旅人は大屋困つたと云ふ事でそ

●金谷　大井川の西岸に當る小驛で停車場北方廿五町許りの處に潮の磯泉と云ふのがあります

●堀の内　は遠州城東郡西方に屬する小村で掛川驛より川崎町及相良町へ行く街道でそ停車場設置已來稍繁昌して參りました

●掛川　元と駿河の城主今川氏眞の出城在つた所で德川氏の頃には諸侯交々之を勤番して居りました葛布の産地でそ

●袋井　此處で見るべきは秋葉山でそ先年登山した折某新聞へ寄せた葉書を左に是れは酋生ならでは出來ぬ避暑に御座候。先づ草鞋脚絆に菅笠一蓋、抔情詩一册なと御携へありて東海道は袋井の停車場に御降りなさる可し、江戸七と申そ旅店には御支度遊ばされガタクリ致そ乘合馬車に御乘りなされなば約三時間して森町と申そ所に到着致そ可く候大黒屋あたりに草鞋を解て鮎の魚田でも召上がるが丁度御刻限かも存候斯くて翌期愈山路へ御かゝりなされ、青くさき山の臭ひと、かしましき蟬の聲と唯々

頓狂な聲して嘶り候。驚を聞き乍ら、蜀の棧道然たる處を越へ行けば十時頃には三倉と申す村に達し候間、此處にて水の清冽なるを御賞玩遊ばさる可く候。其れより後は只山、只谷、抱の木の一種郤に目なれぬ花や、風に吹かれておかしげに首振り候山百合の間など過ぎ行けば、時には足下より雉子山鳥の飛び立つ事も有之候、而して其の夜は大居と申す村に宿り名物の椎茸に山谷以外の味をしめ候も興ある可く候、大居は秋葉の直ぐ麓にて道者の宿るため旅店は一寸間に合ひそうなるも有之、藝者と申す動物も住び居り候、此所より頂上までは山路五十町の隨分險はしき坂路にて面白きものも不斷候へども尚面白きは氣多川を渡り山に深ふて氣多と申す處へ參り裏より秋葉に上るとに御座候、朝大抵六時に森を出で候はゞ其の日の中には氣多までは參ひられ申す可く、此處には有名な奥紙會社あり、盛んに附近の山々より楮、三椏を集めて紙を製造致し居り候、山又山の奥深く、水こりならでは通ひ得ぬ處に煙突や瀧鐘の影を見候はゞ、奇にあらざれば餘程怪と申すより外之れなかるべく、製し上げられたるものは舩にてドシ〳〵天龍川を下し申候。

●中泉　東海道の見附を去る事十二町昔し遠州の國府のおうた處でも太平記などで有名な池田宿は天龍川の西岸にあつて今も可なり繁昌して居ります。

●濱松　街道中樞要の處で曾て一度縣廳を置きましたが今は靜岡縣に合併して居りまする大米屋花屋と云ふ二軒の宿屋は京大阪にも稱な立派の宿屋で▲方廣寺は一に奥山半僧坊と申しまして濱松の西北凡五里引佐郡奥山村にあつて是は其言宗でそふのは東鴨江村にありまして禪宗でそれから又鴨江寺と云

●舞坂　濱松を去ること二里餘南方は茫々たる大洋北は風光明媚の濱名湖です濱名湖はもと一ッの湖でしたが明應八年海嘯起り崩壞じて海と通じ今は内海となつて居まする東西二里南北凡三里其風景の美なる事江州の琵琶湖にも劣らない位です

●驛津　濱名湖の西岸眺望に富たる處でも元と寂々たる一漁村でしたか停車場設置以來頓に人家が增加して來ました

●豐橋　舊と吉田と云ふて居つた處で今は師團聯隊の所在地でそ旅店の重なるは小島屋相摸屋つは屋米喜屋等で名物は砥石刻煙草等でそ▲鳳來寺は豐橋の東北凡十里許推古天皇の勅願所でそ山甚た崔嵬路極めて嶮峻松杉鬱蓊風景亦絶奇でそ▲豐川稻荷　停車場の東北二里豐川村妙嚴寺地中にあるのでそ此寺は嘉吉元年の建立にして境内廣く景色も仲々宜しう御座いまそ

●御油　豐川稻荷鳳來寺等へ行くの里數は豐橋よりそるも此所よりそるも大抵同しでそ近

所に山本勘助の舊跡がありまそ

●蒲郡　御油の西南一里半海岸に近き處にありて眺望にも富むで居りまそ蒲郡海水浴は島嶼相列り波穩かにして清く旅舍も又清潔でそ

●岡崎　德川氏の本據として居た地で家康公生湯の井も今にそのまゝ殘つて居まそ

●苅谷　苅谷から知立まで一里知立の東十町許牛田村の松原が其以前杜若のおつた八つ橋の古蹟だそうでそ『參河國やつはしといふ所に至りぬそこを八はしといひけるは水行河のくもでおれははしを八つわたせるによりてなんやつはしといひけるそのさはのほとりの木のかけにおりゐてかれいひくひけりそのさはにかきつはたいとおもしろく咲たりそれを見てある人のいはくかきつはたといふ五もじを句のかみにそへて旅の心をよめといひけれはよめる『から衣きつゝなれにしつましおれはるゝ〳〵きぬる旅をしそおもふ』伊勢物語

●大府　は武豊線路の分岐そる處でそ武豊線一帶の地は凡て釀酒で有名な地で殊に龜崎には酒造の家數十軒ありまそ▲半田港　には定期航海の滊船あり出入絶もる事なく又半田より里程三里六町の大野は古來より海水浴に名ありし處で今では大磯と比肩そる程になつて居まそ▲武豊港　は半田港の南に位し灣内水深くして常に大船巨船が碇泊して居りまそ武豊より南四里半南の師崎海水浴は眺望甚宜しく養春館と名くる旅舘もありまそ

●大高　鳴海より凡十町許元と氷上の里と稱した處で驛の東北に鷲津の城跡がありまそ▲桶狹間　鳴海より一里許東有松村と落合村との間に在りまそ今川義元の討死した處でそ

●熱田　は名古屋市の東にわつて商業仲々繁盛でそ旅店は岡田屋、紀伊國屋、伊勢屋、大森町屋、桔梗屋、神戸屋等▲熱田宮　は日本武尊を祭つた處で神躰は草薙の寶劍でそ眞行天皇の時の鎭座で社域宏大大小の社祠數十社八境に朱の華表を建て石橋海藏門鎭皇門春敲門渡殿釣殿祭文殿回廊拜殿勅使殿等あり實に海内屈指の大社でそ

●名古屋　近畿諸鐵道の部に出て居りまそ參照

●淸須　淸須古城跡は淸須五條の西北方鐵道線路の右にありまそ昔は城内宏濶なりしか今は數株の老松古杉殘存そるばかり些も當時の影をだに留めて居りませんが歷史上仲々有名な城でそ

●岐阜　は金華山の麓にあり長良川の臨み其東南は各務野の廣原を擁し岐阜縣廳の所在地でして人口三萬餘中央の一都會でそ▲長良川　は岐阜市の北端稻葉山の麓を抱ひて流るゝ有名なる川で鵜飼は毎年五月より十月まで〳〵そを漁舟五艘乃至七艘を一組に連ね每舟篝火を燒て急流を下りつゝ數十羽の鵜を放ち鮎を捕らせるのですか火光百道碧流に映じ眞に海内の奇觀でそ

●大垣　大垣城は永祿四年齋藤龍興の修築した處で今は公園になつて居まそ前年濃美の震災の時人家多く破滅しましたが城は依然舊のまゝでそ▲養老公園　は多藝郡白石村養老山中に在りまそ有名な養老の瀧は高九丈二尺巾九尺近傍楓樹多く秋の頃錦織りなす燦爛たる眺め雅致ある事言語に絶して居りまそ

●垂井　此邊は關ヶ原戰爭の頃東西兩軍相挑みたる所で其陣營の趾が各所に散在して居まそ又た宿の東玉泉寺と云ふ禪刹の前にあります泉は今も變らず清冷で寒暑ともに增減なく往來の人常に來つて渴を醫して居りまそ

●關ヶ原　曠原漠々として地痩せ水少なく目に見るものは桑麻ばかりで滿目悽涼眞に古戰場の名に負きません原上所々に兩軍陣營の跡及び刑塲首塚がありまそ▲不破の關の趾　は松尾村の西藤川の東岸にありまそ字を大木戸と申まして天武天皇創めて此の關を建て給ふたのだそうです「おられふる不破の關屋に旅寢して夢をもえてそ遠さかりけん」大中臣親王

●長岡　は山間の一小邑で人口僅に數百でそが地近江の琵琶湖に接し風景は頗る明媚でそ日本書紀に「日本武尊伊吹山へ到り給ふ時山神の毒氣に觸れ醉るが如く喪心し給ふにより山下の泉を呑み給ひければ忽焉として醒む故に居醒の水と名く」とありまそ醒ゲ井も此の近所でそ

●米原　は東海鐵道線と北陸線との分岐そる所で東麓鈷峠に接し人口六千旅店は井筒屋支店其他數軒ありまそ

●彦根　は琵琶湖の東北岸に位し舊井伊氏の城跡は金龜山と云へる山上にあつて湖水に臨み今は公園になつて居りまそ▲多賀神社　は延喜年間の創設で伊弉諾伊弉册を祭り末社數十あり老杉翁蔚として邃猶暗く本社の左に神木あり日本杉と申します又社前に壽名石と云ふ石がありまそ枕石と云ふのは此の事なのでそ

●草津　關西鐵道への連路驛です詳しい事は近畿諸鐵道の部を御覽下さい

●馬塲　大津へ行く方は此處で御乘換なさいませ驛内に義仲寺及び傍らに芭蕉ノ墓があります

●大津　近江の南西、琵琶湖の南隅岸に位し、湖上數十の小滊船、絶えず長濱間に來往し衢街頗る繁盛でそ、東京と去ると百二十七里三十四町、比叡山、近江八景を探らうと思ふなら此所に一泊そるが宜しい、旅舍は小林亭、松坂屋、中村樓等でそ、先づ八景を御案内致しまそれば▲粟津　膳所より數丁に至る街道の松原で、附近に、昔義仲が葬

頼、義經と戰ひたる古戰場がありまを、此地一帶の翠松汀渚に添ふて舞ひ、清澗輕く、岸を打ちて洗ふが如く、晴嵐掬をるに堪へたる名勝でを▲瀨田の長橋　瀨田川に架けた橋で、古へ田原藤太秀鄕の大百足を斃したる所だと言ひ傳へてありまを、琵琶湖の下流でを▲石山寺　瀨田川の西、橋より南一町許りの所にありまを寺内に紫式部の源氏物語を書いた室があつて今尙は式部の愛硯を遺して居りまを、夫より登れば式部塔、經藏、賴朝塔等あり、其東に方りて觀月堂あり、湖上の眺望を一瞰そべく、右に瀨田川を隔てゝ三上山、鏡山を望み後には笠取、醍醐の諸山を眺め、怪岩奇石名狀そべからざるの仙境でを此地亦釜の名所で、夏の夜は遠近より螢狩りに集ひ來て、頗る賑で御座いまを▲三井寺　大津の西にありまを園城寺と稱して弘文天皇の皇子、與多王の創立だそうでを此寺は湖上の景は言ふまでもなく、膳吹、比叡、近江富士等の眺望を添へて、山水の美八景の第一に位して居りまを▲唐崎の松　琵琶湖の西岸、辛崎にありまを大津を去ること一里餘、天正年間、大津城代新庄駿河守の栽えしものです、枝葉蔓りて湖面に映じ、地面と蔽ふ百余坪、實に稀有の名木でを▲堅田　琵琶湖の西、大津の北三里五町の處にあります岸より十數間突出して浮見堂と云ふのがあつて風ろよ〳〵と波穩に岸を打ちて光景云ふべからざるの絶勝でを▲比良山

大津より山頂迄六里二十町、春晩白雪を戴き、遠く之と湖岸に望めば、水上の景色一段の美觀でを▲矢橋　湖の西岸草津停車場より西一里の處にありまを、晩帆霞に籠められて歸る狀、實に愛そべきの景色でを▲比叡山　近江、山城の兩國に跨る高山で、史上に名高き山でを、山上に天台宗の延曆寺と云ふのがあつて大津より二里、坂本より五十町又京都よりそれば、田中、一乘寺を經て二里二十一町でを山道峻嶮にして容易ならざれども、登山それば近江、山城を下瞰して、湖上の風景手に取るが如く昔時平將門の平安城を望瞰したるは、即ち此の山上なのでを、又官幣大社日吉神社は山の東麓にあり、大津を去ること一里二十五町、國内第一の宮祠にして、宮殿七社、末社十四あり、祭禮は每年四月中旬で、賽人夥しく其雜沓甚しいものでを

大谷　逢坂山の山腹に位し、驛の附近には、今尙は逢坂ノ關の舊蹟がありまを、又大津へ至る街道に蟬丸ノ祠、小町ノ蔣跡がありまを

山科　附近に古跡多く、大石良雄閑居ノ跡は西の山村に、深草少將ノ宅趾、小野小町ノ塚等、其近傍にありまを

京都　前に出て居まをから此處には能と省いて置きまを

山崎　明治初年會津、桑名二藩の兵が薩長の兵と接戰した地で、大山崎ノ庄は、天王山

の麓にあり昔時羽柴秀吉、明智光秀を亡ぼせし、有名の古戰場でそ、驛の附近には、寶寺
●雛宮、八幡宮等見るべきものが澤山ありまそ
●高槻　町の中央に醫水井氏の城趾がありまそ元と近藤忠範の築く所で、今尙は石壘を存して居りまそ▲櫻井驛は　山崎街道の傍らにありまそ昔楠正成子正行と訣引の所で附近廣瀨村に官幣中社水無瀨宮と云ふのがありまそ、社殿清麗水無瀨川溪澗に流れて、頗る幽邃と極めて居りまそ
●茨木　町の西端に茨木城あり、中川清兵衛、片桐且元の居つた城でそ又村内梅林寺は中川氏の香華院でそ
●吹田　神崎川の北岸に位して居りまそ、惡七兵衞景清ノ泪池、高濱觀音寺、謚國寺、圓滿寺等の遊覽所がありまそ、又箕面詣は停車場より北、三里の處にありまそ
●大坂（梅田）近畿諸鐵道の最初の部に出て居りまそ
●神崎　阪鶴鐵道の部に出て居りまそ參照
●西ノ宮　古來酒造の盛地でして豪商多く商業亦盛でそ、附近には著名なる、神功皇后御出船の地と稱する打出ノ濱あり、又猿丸太夫ノ墓、業平ノ邸跡等がありまそ、大國主西神社は　町の字市庭町に鎭座ましまして、天照　皇太神、素盞嗚尊、蛭兒尊を合祀してあ

りまそ、樹木鬱蒼、境内　廣濶俗に之を蛭子と云ひ、毎年正月の十日には、賽者遠近より集り來り鐵道局之れが爲め、特に臨時汽車を發する程でそ、又町の北方には海清寺、海岸には御前ノ濱、越水には越水神社、廣田には廣田神社等遊覽所がありまそ
●住吉　岡本ノ梅林、は停車場を去る、東北十五町の處にありまそ、前に沃野を控へ、後に山を負ひ、眺望佳絶、山麓より山頂に至る迄、悉く梅樹にあらざるはなく、春は香雲覆郁として、花の山を現出し、頂上に登れば、渺たる蒼海を望み、遠く紀伊の翠巒を雲の如くに認め、風色眺望、共に愛すべきの雅境でそ▲住吉神社　は停車場の直ぐ隣でそ其他求女塚は御影村に、蘆屋ノ里、阿保親王ノ墳は、中國街道の北、精道村にありまそ
●神戸　東は生田川に沿ひ、西に和田の岬を控へ、北は山脈列環して、天然の良港となして居りまそ、市を大別して神戸、本町、兵庫、河東の四組となし、榮町海岸通りは回漕店多く元町は百貨の辨ぜる所、之を神戸と云ひ、湊町、江川町、戸場町、小物屋町、北仲町邊を本町と云ひ其海岸には米穀問屋、材木商多く、之を兵庫と云つて居ります又市の東方海岸より菟合の半に至る迄は、即ち外國人の居留地でそ▲湊川神社　は相生橋の西、多聞通にありますす　楠正成の靈祠で、社外には劇場、寄席、茶店、揚弓店軒を並べ、夜は雜貨、骨董、飮食物、盆栽等を鬻き、賽人常に群集して、市内第一の賑地でそ▲生田神社

は三ノ宮停車場より北、四五町の處にありまそ、社後生田ノ森は、源平の古戰場で、梶原景季の血戰した處でそ、境内には、旅ノ梅、梶原ノ井、敦盛敦等の墓蹟を殘して居りまそ

▲布引ノ瀧　は市内葺合村布引山の半腹に懸つて居りまそ雌瀧の方は布引温泉の前を過ぎて坂路を登り掛ける處にあり高さ七丈三尺、夫より登ると三町許で雄瀧があります高さ十五丈、幅十三尺、瀉下頗る急にして、飛沫白雪の如く、遠く望めば、宛然白布を懸けたやうでそ▲布引温泉　は山間より湧出でるのを、樋を引て浴場を設けたので、泉質清潔炭酸と含み、皮膚麻質斯病、子宮病等に尤も効があります

菊水樓等の、旅店兼割烹店がありまそ▲諏訪山　山本通りの北の方に、屹立せる山で、山上に礦泉がありまそ、旅舍は東常盤、西常盤、中常盤等で皆割烹の業を兼ねて居りまそ山の西に諏訪明神あり、山頂に到れば、神戸市内は眼下に見下し、淀泊の船舶、一々指點そべく、遠く須磨、住吉、淡路島を望みて、神戸第一の遊覽所でそ▲和田ノ岬　は兵庫港の西南に斗出せる岬で、四顧風色の明媚ならざるはなく、岬頭に砲臺あり、近時又赤色の燈臺を設けました、燈臺の西には遊園地あり、和樂園と申して、園内には生洲あり、勸工場あり、割烹店ありて、夏日は仲々賑ひまそ

總武鐵道成田鐵道及房總鐵道

●東京●　總武鐵道の東京停車場は本所區にありまそ

●市川●　の葛飾等近傍見るべきものが澤山ありまそ

鴻の臺弘法寺總寧寺柴又帝釋天を始め眞間の繼橋星降の松等孰れも遊覽そべき所でそ

●船橋●　意富比神社と云ふのが此の直ぐ近くにありまそ旅店は津田屋佐藤屋市川屋等でそ

●千葉●　房總鐵道の乘換驛でして羽衣松猪鼻臺君待橋等の古蹟もありまそし旅店は梅松屋加納屋かめ屋村田屋等を始め有名なる者が數軒ありまそ

●佐倉●　成田鐵道の乘換驛で堀田家の舊城下で今は第二聯隊の兵營が置れてありまそ米屋駿河屋等有名な旅舍もありまそ其次の驛の酒々井は印旛沼の畔にありて有名な宗吾神社へは凡そ一里半でそ

●成田●　有名なる不動尊と安置せる新勝寺のある所でそ鐘樓寶塔經藏額堂等五彩燦然海内屈指の靈場で御料牧場三里塚へは二里半芝山仁王尊へ四里宗吾神社へは一里道路平坦で參詣に頗る便利でそ旅宿は若松樓海老屋等が宜う御座いまそ

●滑川　坂東二十八番の觀音のある所で朝日淵翁水山等の古蹟も皆其近所でそ又此處から凡一里で藤原師賢公と祭れる別格官幣社小御門神社へ參れまそ

●佐原　利根川の南岸にある一都會で交通至便商賣隆盛でそ牧野山觀福寺は町内に官幣大社香取神社は町の東方卅二町の處にありまそ

●横芝　停車場より二里餘で有名なる芝山仁王尊へ參られまそ規模宏壯參詣者絶へぎ旅館では藤屋と云ふのが有名でそ

●銚子　東海濱の一要港で醬油醸節銚子縮の名産地です飯沼の觀音堂淺間山妙福寺等の遊覽所多く亦磯巡の名所は風光絶佳でそ大吠岬端には燈臺があつて最も海水浴に適し曉雞館大新などゝ云ふ旅舍もありまそ

●寒川　千葉の南端にあつて房總鐵道の始の驛になつてまそ前面は鏡ケ浦に對し風景頗る佳寒川神社千葉寺は數町の間にありまそ

●曾我　濱野を經て八幡町に至る館山街道でして房總鐵道會社の所在地でそ

●士氣　酒井氏の舊城地で本壽寺善勝寺法光寺赤人塚等の名所がありまそ

●大網　本國寺大網神社清岸寺の瀧等は皆南玉村にありまそ炎熱の候に至れば浴客接踵盡し關東の好避暑地でそ

●一の宮　一宮川の南岸にある東上總の一部邑で國幣中社玉前神社觀明寺等の遊覽所がありまそ

●大東　大東岬は中原和泉の間に突出し飯岡岬と相對して居る岬で海濱は所謂鐵沙て黑色の光と放つて居りまそ

●長者町　郡内の小都會で大多喜町と距る西方四里餘の處にありまして江場土の海濱は避暑に極く善い處です

●大原　房總鐵道現時の終點で字小濱の八幡山は海中に斗出し矮樹叢生最端に至れば波瀾渺茫巔崛に激盪る狀頗る奇觀でそ

甲武鐵道川越鐵道及青梅鐵道

●東京　甲武鐵道の東京市内にある停車場は飯田町、牛込、市谷、四谷、信濃町の五つで信濃町の次が新宿なのです

●新宿　甲州街道の重なる驛で日本鐵道の新橋赤羽線は當驛にて甲武鐵道の線と横又して居りまそ又近傍に大久保村と云ふのがあつて躑躅を以て有名でそ

●中野　南方十五六町の處に法華宗の本山があります本尊は厄除御祖師とて信徒の崇敬厚

く又北方五六町の處に新井の藥師と云ふのがありまそ

●境　廿町東にある井の頭辨天は神田上水の源でそ小金井の櫻を見物せんとそゝるものは多くは當驛より下車そるのでそが境村より小川村まで五十七町の間兩岸の長堤一萬の櫻樹花時には士女織るが如く東京近郊では有數の名勝でそ

●國分寺　國分寺山口觀音所澤貫井辨天府中町將軍塚大國魂神社向ケ岡百卿園等皆此の近傍です

●立川　青梅鐵道は此所から起つてるのでそ

●八王子　古來織物を以て有名な處で市街繁盛甲州街道中第一の都會でそ子安明神散田眞寛寺高尾山御殿場等遊覽の場所多く旅舍は鈴木と云ふのが一等でそ

●所澤　國分寺を起點とそゝる川越鐵道の第二驛で綿布の生產盛んな處でそ新光寺藥王寺なと皆古るさ寺院でそ

●川越　埼玉縣中第一の都會でそ町内遊覽の場所は舊城内の三芳野神社を始めとし喜多院東照宮養壽院成田不動發出張所等あり又氷川神社は當地の總鎭守でそ又近村に堀兼の井小手指ケ原抔の舊蹟もありまそ

●羽村　立川を起點とそゝる青梅鐵道の第二驛で玉川上水の堰は實に此處にあるのでそ

●青梅　甲州路の裏街道で綿を盛んに製造して居ります青梅山金剛寺は停車場より八町程寺内老幹の梅樹あり其の實青色にして熟せざる故に青梅の名稱起つたのだと申まそ

山陽及四國

此の章には山陽鐵道、播但鐵道、中國鐵道、德島鐵道、讃岐鐵道及伊豫鐵道の六つを集めて置きました、孰れも精査に精査を加へた上の案内でそが、特に山陽鐵道の厚狹馬關間は今度はじめて開かれた線路でそから、態々出かけて行て實地調査をして書いたのでそ、

山陽鐵道　（兵庫馬關間）

●兵庫　は山陽鐵道第一の驛で最も樞要の地位を占め同鐵道會社の在る所でそ市街は湊川を挾んで東西に分れ共に神戸市に屬して居りまそ夫れ故此處の案内は神戸の部を御覽下さい

●鷹取　

●須磨　須磨工場所在地で忠度塚へ東七町、禪昌寺へ北十八町、奈須與市墓へ西北廿八町でそ

古來名高き勝地でして水清く氣爽かに風土頗る脚氣病者に適し近國より轉地療養

に來る者少なからぎ近傍に名所舊跡多く又銃獵漁獵にも便利でそ松風村雨磯馴味噌と云ふ名物もありまそ▲須磨寺　本尊は天長年中和田岬から網に掛りて揚つた觀音樣で昔は大きな伽藍でしたが今は頽廢して仕舞ひました什物には青葉の笛高麗笛敦盛の赤旗名號熊谷の母衣絹名號敦盛幼時の手跡辨慶若木櫻制札等ありて誰にでも見せて呉れまそ▲須磨關屋　關屋の跡は源光寺と稱そる寺の西街道の左右にありまそ一堆の塁があつて是が其の遺跡だと云ふ事です▲松風村雨　在原行平須磨の浦に謫せられた時蜑の子を遇ひて宿はとたづねたら『白波のよそる濱に世をそへて風村雨の墓は東須磨より西北三十町許り非畑村と云ふ處にあります▲一の谷　は有名は源平の古戰場でそ須磨より三町　許り西で高さ四町幅二十間兩岸岩の高さ十二間餘鐵拐ケ峯とは二の谷の奥に亘る山嶽の事でそ壽永三年平家假りに皇居を定めたる跡今猶存在して居りまそ

●塩屋　海濱一帶風景頗る宜しく海水温泉もありまそ西洋料理ビーチハウスは停車場の西五町でそ

●垂水　昔し渡海船の用水を汲取りし場所で今も斷崖より水滴り落つ故に垂水と云ふのでそ海神社へは東へ一町五色山へは西へ四丁遊女塚へは西へ五町でそ

●舞子　東西六七町南北二三町の松林を右へより舞子濱と申まして古松數千株枝幹屈曲龍蟠鳳舞樹毎に各其趣を異にし翠蓋地を蔽ひ松韻濤聲と相和し眞に天樂を聽くやうでそ海岸に沿ふて旅店もありまそし貸別莊もありまそし關西名勝中の白眉でそ

●明石　は元と松平氏の城下でして齋城跡は停車場の北深林の中にありまそ元和年中小笠原右近太輔始めて之を築き後ち松平氏に屬し今は公園と成つて居まそ▲人丸神社　は城跡の東八丸山に在りまそ人丸は持統天武二帝に仕へた歌聖で其生國石見から京師に通ふの途次當所で『ほの〳〵と明石の浦の朝霧に島かくれゆく船おしそおもふ』と歌つたとか云ふ事です▲忠度墓　は大藏谷村の西孤松の下にありまそ別に人丸山の麓にも忠度の腕を埋めたと云ふ腕塚と云ふのがあります▲休天神　延喜元年菅公左遷の時此の驛の長が公と迎へて公の不遇を悲しひだ處公傍の石に憩ひなから筆をとりて『驛長無レ驚時變改一葉一落是春秋』と書し與へられたと云ふ事で今も社内に菅公の腰掛石と稱そるものがありまそ▲岩屋神社　は明石港の西戎町にありまそ當市第一の大社で伊弉諾、伊弉册、大日靈、月讀蛭子、素盞嗚諸尊と合祀したのでそ

●大久保　天鄕の梅林は停車場より北二十町許り丘の頂より半腹まで老幹數百株縱横枝と交へて叢生し開花の頃には節を曳く雅客が非常に澤山ありまそ

●土山　停車場から東凡一里の處に二見浦と云ふ名所がありまそ古歌に『夕月夜おほつかなさを玉くしけ二見の浦はわけてこそ見め』▲念佛山教信寺　は光仁帝の皇子教信上人の開基でして封疆廣く坊舍五十餘堂塔頗る壯麗だつたのでそが後ち兵火に罹り今は僅に其の二三を遺して居るばかりでそ▲手枕松　尾上より東の方一里餘の處に別府村の手枕松とて一株の古松がありまそ此邊望海の風景が非常に佳麗でそ

●加古川　加古川町から北凡そ三十町許大野村に日岡神社と云ふのがあります神武天皇の御實兄彦五瀨命を祭つた社でして舊曆正月亥の日より巳の日まで七日間は亥巳籠りの祭と稱し村中謹愼を守り今尙古風を存して居りまそ▲刀田山鶴林寺　は加古川町より東南廿五町許り用明帝の御宇聖德太子十六歲の時秦川勝に命して建てさせたので右方の厨子には太子十六歲の像あり即ち太子の頭髮を植ゑたるものだと申まと草創以來今日まで千六百八十年昔の儘現存そるは奇といつても宜しう御座いましよう▲尾上の鐘　は停車場より南一里十餘町住吉大明神を祀つた社の前後に有名な尾上の鐘があるのでそ高さ三尺二寸周圍七尺二寸厚さ二寸許徑二尺五寸在昔神功皇后三韓から持歸り給ひしものだそうでそ又神社の後には尾上の松とて世に名高き松林がありまそ方凡ろ四町に廣かつて居まそ▲相生の松　同社の境内にありまそ雌雄一根より生し枝葉繁茂して居るのでそが今は本樹は枯れて繼木の方が殘つて居まそ▲高砂の松　尾上の東高砂町濱に高砂神社と云ふのがあつて此社内にも亦た相生の松がありまそ世にいふ高砂の松は是なんでそ初代の松は天正年中羽柴秀吉毛利を征そる時小早川吉川の兵三萬餘騎此邊に陣し當時伐て籌としたとか云ふ話でそ▲曾根の松　高砂町の西北一里餘曾根村に天神社があつて檜笠の天神とも稱せられて居まそが其境内にある曾根の松も播磨名所の一に數へられたる名木です菅公左遷の節稚松を此所に栽へて自ら譽ひ我に罪なくは榮へよと云つたのだそうでそ

●寶殿　此處に生石神社又都が窟ともいふ社があります一大石を切抜き屋社の形と作し之を横さまにしたものでして寶殿の周圍は整つて窪くなつてる處から自然に雨が溜て一見恰も水面に浮んでるやうでそ

●阿彌陀　昔しは北原といつたのでそが文永の頃時光寺に阿彌陀の像を移したので名を改めたのでそ往古大巳貴、少名毘古二神留りましたと云ふ高御位山は此の停車場の北一里西志方村にあります全山皆石で一の門二の門御座石抔稱そる奇石がありまそ

●姫路　姫路城は本邦有數の名城で別に白鷺城とも申まと初め赤松貞範の居つた所で德川氏に至つて酒井家の所領と成りましたが今は師團の兵營になつて居まそ▲射楯兵主神社　例祭は舊曆十一月十五日臨時祭は廿一年目に執行しまそる此祭には白倉山高端山華崎山

の三假山を絹で飾り作るので有名でそ又舊暦七月十三日より十五日までは修羅跡と稱そる古式の踊を催しまそ▲白國村の梅林　停車場より凡そ三十町白國村の山腹に在ります其數幾千株其種類紅白相交りて攝州岡本の梅林と幷ひ稱せらるゝ名林でそ　傍に白國神祠と云ふのがあつて開化天皇第一の姫宮國方姫を祭つた處でそ▲廣峰山　は白國梅林の傍より阪路を上ること凡そ十八町許で頂上にある廣峯神社は素盞嗚尊を祭つた社でそ社殿の後に神穴といふ九つの穴がありまそ參詣者は此穴から賽錢を投げるのでそ作物の神として農民の信仰殊に厚く舊の三月三日が例祭です▲書寫山　姫路の西北一里程の處にある山で山上には杉が澤山あつて中にも一本杉と云ふ老樹は四圍もありまそ頂上にある圓敎寺は西國廿七番の札所で引雲岡、紫雲堂、辨慶學問所の硯水池、如意輪の漩等の名所も其の内にありまそ

播但鐵道

●野里　姫路の次の停車場で埴位山温泉へは五町　浴客常に絕へた事なく又前に出て居た廣峯神社へは四五町許りでそ

●香呂驛　此處から三十町許りで炭酸泉がありまそ又近傍の播磨富士は松尾の名所で

そ旅店は玉田屋が有名でそ

●福崎　近所に文珠菩薩七草の瀧等有名なのが澤山ありまそし次の鶴居停車場附近には金樂山法樂寺と云ふ紅葉の名所がありまそ

●生野　海面を抜くこと一千餘尺の有名なる生野銀山のある處でして工場内を一覽せんとする者は金拾錢を寄附それば案内して呉れまそ旅店は對山館ぬしや濱屋わがや湯葉屋稻田屋播磨屋等

●網干　昔推古帝當所の水田百町を聖徳太子に給ひ班鳩寺を建てしめ給ふ寺は當村の中央にありて太子堂昭堂彌勒堂山王社三層櫻鐘樓等結構中々壯麗です▲家島の群島　は網干港から三里の海上で東西八里南北三里の間に無數の群島がありまそ其最も大なのを中家島と云ひ丹鹿松島箕島等之れに亞き風景絕奇奥の松島に似て居りまそ

●龍野　停車場から町まで凡一里十五町醬油の產地とて世に名高ふ御座りまそ▲室津は室の泊又は室の浦と稱して停車場より南凡二里半播州第一の良港でそ往時西國の諸侯江戸に參勤交替の途次には必らず此處に立寄たので各其陣屋があつたので自然繁華の地でしたが維新後は頓に衰頽して仕舞ひました

●那波　は室津、坂越の中間にある一海港で遠く陸地に灣入し風波を避くるには此の上も

なく安全でそが水が淺くて船の停泊に適しません▲阨越港は那波より一里海水甚深く良港で灣内に生島と呼ぶ島がありまそ雜樹繁茂して風景絶佳又風濤を避くるに最も適當な所でそ▲赤穗町　は阪越の西南一里赤穗鹽の本場で兼て又淺野家の舊領地を以て著名な町で之淺野家の菩提所泉岳寺には義士木像其墳墓及び忠義塚等がありまそ大石宅趾は町の南舊城地内にあつて今は僅かに門が殘つてるばかりです

●有年　寥々たる一小村其西凡一里半の處に播備二國の堺なる舟坂峠と云ふのがありまそ赤松圓心の立籠つた白旗山は停車場の北二里餘です

●三石　蠟石の產地で種々の細工物を作つて賣つて居りまそ兒島高德が後醍醐天皇を奉ひ奉らんとした舟阪山は此處の東約十町深谷の瀧は東北五六町の處にありまそ

●吉永　南凡一里許の處に閑谷學校の跡がありまそ寬文年中池田光政碩儒熊澤蕃山を聘して之れを設けさせたのでして延寶二年聖堂を建て元祿十五年支那風に擬し講堂を造り其結構天下第一だつたそうです今は西毅一氏が此に私塾を開ひて居りまそ

●和氣　吉井川に沿ふ一小村で川を遡ること一里餘岩月村に天神山といふ山がありまそ吉井の川流に臨み巖石重疊として自ら一大山と形くり靑松雜樹其間に茂生し頗る幽雅の地でそ▲藤野の櫻　停車場は中國著名の温泉で美作國勝田郡湯の鄕村にあるのでそ停車場より七里勝田の御湯とも申まそ大古發見せられ淸和帝の貞觀二年叡山の僧圓仁之と改修し今日まで續いて來たので今の浴室は明治二十三年の春新築したものでそ▲藤野の櫻　停車場より東凡一里藤野村猿目神社の前に沿へる日笠川の堤に在りまそ千本櫻と稱して花時には遠近より來覩そるものが非常に澤山ありまそ

●瀨戸　金陵山西大寺は有名の巨刹で毎年正月元日より二七日の間國家の祈禱をなし法會了りて十四日夜會湯と唱へ參詣人の人に牛王を投與へる例でそが諸人裸體被髮身躰を吉井川の水に淸めて之を守ひ拾ふ樣亦一種の奇風でそ

●長岡　西北十五六町の國府市場は寒村でそが古吉備の國府を置かれた處で治承年中關白基房の配流せられた所でそ

●岡山　は池田氏の舊城下で旭川の西岸に位し山陽道中屈指の郡會でそ就中橋本町西大寺町紫町紙の屋町上、中、下、の三町の如きは最も繁華を極め岡山縣廳を始め諸官衙諸會社諸學校病院等十分の設備がしてありまそ旅店の重なものは自由舍池田武藏野魚春等でして料理店は大黑屋（西洋料理兼業）山佐西大寺町三好野（旅店兼業）魚嘉（旅店兼業）上出石の三好野（旅店兼業）丸佐丸敬藤久等▲岡山城　其創造詳かならざ累世池田氏の居城でしたが明治維新に廢城となつて今は天主閣が殘つてるばかりでそ▲宗忠神社　は停車場より

十二三町中野村にありまそ黒住教會の本社でして社殿頗る莊嚴でそ▲東山公園は偕樂園と申まそ操山の中間に新設したるものでして招魂社あり西南の役の戰死者の靈と祭る山上眺望絶佳でそ▲後樂園は貞享年中藩主池田氏の開く所で周圍に脩竹を植え四方に門を搆へ池沼を設くる四ケ所旭川の上流を導き縈洄して澗となり池となり奇態異狀各其風致をなし再び溢して旭川に入る眞に日本第一の名園でそ

中國鐵道

●岡山● 中國鐵道の起点は市の西北にありまそ山陽鐵道岡山驛の西北一町でそ

●金川● 不受不施宗の本山妙覺寺は二町許りの處にありまそ大谷屋小松屋等の旅舍もありまそ

●福渡● 因幡街道と伯耆街道の會合點でして市街頗る繁盛でそ吉野屋豐屋等の旅館がありまそ

●誕生寺● 誕生寺は淨土宗祖圓光大師の誕生地でそ毎年陰曆三月廿三日練供養と云ふのを行ひまそ

●津山● 美作第一の都會でして津山城趾は東北十餘町に公園は城趾の北二町許に作

樂神社中山神社共に一里餘の處にありまそ兒島高德が櫻樹を削つて赤き心を表した院の庄も此近所でそ

●庭瀨● 備前備中の兩吉備津神社は北一里、高松稻荷は北二里半、高松城水攻の古蹟は北西二里、藤戸渡古蹟は南二里の處にありまそ

●倉敷● 不洗觀音は東南一里廿町小野小町の古蹟へは北一里又有名なる豪溪へ行くには此驛で下車そるが宜しい旅舍は池田屋、東雲樓等有名でそ

●玉島● 玉島港は南廿七町、圓通寺は南一里砂美海水浴場は南二里半にして讃岐多度津へは毎日汽船の便がありまそ

●笠岡● 廣濱桃園は東二十三町鞆仙醉島は海上五里、吉備高島神武天皇行宮蹟は海上二里十八町の處にありまそ

●福山● 福山城は當時公園となつて居ります府中へ行には此處で下車そるが宜しい草戸稻荷神社は西南十五町、草戸明王院は西南十六町旅舍は定栗、吉野、松村、名波龜等が重なる者でそ

●松永● 伊勢宮は此處から東十八町陰陽石は西十六町

●尾道● 阿伏見觀音は東南三里半でそ千光寺へは此處から東七町西國寺は東十三町淨土寺は東廿町で三大寺鼎座有名な

烏帽子岩、千疊敷峯の藥師は皆是等の寺内に在るのでも、旅舍で善いのは濱吉、鶴水館、高橋等でも

●糸崎　一名を長井浦とも申まして糸崎神社多久良能火淡墨の松等見るべき處も數多くありまも

●三原　三原城の古趾のある處でして西野梅林へは西十六町、壬生忠宗墳等へは西一里旅舍は綾平金丸山年等重なるものでも

●本郷　南廿五町の處に米山寺と云ふ寺がありまも土肥實平より小早川降景迄十七代の墳墓のある處で尚小早川城趾は其北八町の處にありまも

●河内　停車場から大津の瀧へは北八町竹林寺へは南四里でも

●西條　御園宇吾妻子瀧は停車場の南一里次の停車場八本松の東には有名な賣卜者篠村大藏と云ふのがありまも

●瀨野　此處から志和、中野へ何れも一里次の停車場の海田市から府中多祁理宮へ西一里十町でも

●廣島　山陽第一の都會でして明治廿七、八年役には大元帥陛下の大本營を移し賜ふた所でも廣島城は停車場の西十八町、淺野侯別墅泉邸は西十二町饒津公園は西北八町宇品に行くには此驛にて下車して乘換なければなりません旅店は吉川、長沼、溝口等重なるものでも

●宇品　停車場から宇品島觀音堂へ四町、海軍兵學校のある江田島へは七海里、呉軍港へは九海里でも

●横川　八木梅林は北二里半、三瀧の瀑は西北十八町次の停車場巳斐の近所には草津と云ふ梅林がありまも

●五日市　停車場から藥師へ一里、八幡宮へ十一町次の廿日市驛には陶全姜の墳墓、源範賴の墓などがありまも

●嚴島　日本三景の一でして廣島灣の西南隅に位し周回七里餘悉く斷崖奇巖で其間七浦と云ふ勝景があります島峯を彌山と號し山麓より上り十八町山中楓樹尤も多く青松と枝を交へて全島を蔽ひ山水優美風光絶倫眞に三景の一たるに愧じません山麓北向の灣内にある嚴島神社は國幣中社で人皇第三十三代推古帝の二十二年創建したものだと云ふ事でも社殿は平相國清盛の造營で崖に倚り水に架し規模甚だ壯麗又左右には長廊を遶ね延長殆んど五十間海潮滿ち來るときは殿舍共に水上に浮び中々の奇觀でも又本社正面の海原に大鳥居聳

べ其高さ七間餘目今掲ぐる處の額は有栖川二品親王の御筆でそ

大竹 長州征伐の戰場の趾、古瀬川は停車場西十町の處にありまそ蛇喰(三里半)、魚切(三里十五町)は何れも避暑の好適地でして幽邃閑雅の仙境でそ

岩國 著名なる錦帶橋は停車場の西北一里十五町岩國町にあります小赤壁と名のついた名勝は同しく一里廿町旅舍は米平松聲館等でそ

藤生 停車場の西十町なる松岩院は境内奇巖怪石を以て庭園を成し眺望絶佳次の停車場由宇の西南廿八町の處には此近傍で有名な大將軍と云ふのがありまそ

大畠 暑中水浴保養場として有名なる神代濱は東一里八力車の便があります大畠瀬戸は廣島以西山陽鐵道の名所です

柳井津 防州東南部の要港でして食鹽を以て有名でそ又柳井縞、甘露醬油は此地の名産でそ般若姫の舊蹟へは南一里半、旅舍は凌波館、新房等が宜しう御座いまそ

田布施 平生町は南一里、多賀神社は東北一里十町次の停車場の岩田には大日山冠念寺と云ふのがあります

島田 正義靈社は東十三町、立野鳴谷觀音は東北十八町次の停車場下松には妙見宮があります

德山 以前毛利氏の城市だつた處で今は山口縣下重要の商業地でそ殆ど七士の碑(東廿町)遠石八幡宮(東廿五町)等觀るべき所多く旅館は松政、樫部、武下、原庄、鶴水等でそ

福川 若山城趾(北十五町)は陶尾張守遺跡で風光頗る佳麗でそ琴音の瀧は夏季避暑の好適地でそ停車場の北八町、此邊の海濱は一帶に風景絶佳でして富海海水浴として夏時には遊客が群集しまそ

三田尻 佐波郡三田尻村に在る停車場でして南十數町を隔てゝ三田尻港に接して居りまそ九州門司及山口に近きを以て船客貨物常に輻湊し、銀行、取引所等ありて市中甚だ賑かでそ宮市天滿宮は北九町酒垂山の半腹に位し眺望絶佳風景畫の如く、祭時には賽者雲集し其盛なること沿道第一でそ停車場前の井原、松崎、宮市の藤村三田尻の熊谷、柏木等は重なる旅店でそ

大道 南に大海、秋穗西に鰐錢司等の部落あり線路附近に翠松白砂相連なる勝地あり春秋の候には三田尻、宮市邊より來遊をる者が澤山ありまそ

小郡 山口へ三里道路平坦交通最も便利でそ又此處から十二里にして萩町に至るべく又山口街道より左折し仙崎に至る道路があつて頗る要衝の位置を占めて居りまそ三田尻以西の主要驛でそ

舟木　厚狭郡厚東村大字吉見に在り舟木の市邑を距る東方約一里舟木村には裁判所、郵便局、郡役所等諸般の機關を具備し繁榮郡中第一である。

小野田　小野田セメントの生産地として高千帆炭坑に行くには此處で下車するのである。

厚狭　厚狭村の西端にある一商業地であるが此處から馬關までは今度新に開通したのであるから別に記事をつくる事にしました

厚狭より馬關　山陽鐵道が最終（幹線）の工事として去る三十一年六月三田尻厚狭間三十二哩六十六鎖と共に實測及び工事設計に着手したる以來苦心經營の結果約一年九ヶ月と以て竣功せしめたる厚狭馬關間工事延長二十一哩六十鎖は五月二十五日を以て之が開通式を擧行しました記者は去る二十四日午後七時三十五分神戸を發し翌午前九時五十四分厚狭着其より同會社の特別仕立の列車で馬關線を通過しましたが線路は厚狭停車場より北西に向ひ漸く進みて青樹の間を通じ厚狭郡出合村を經て出合生田の兩村に跨る福田隧道（延長九百二十四呎）を過ぎ福田川と渉ること三回にして生田村埴生停車場に達しました此間五哩十五鎖北方吉田村には花山法皇建立の蓮臺寺の觀世音及び高杉晉作氏の墳墓があります同驛と出で山野を通じて王喜村に至り生田王喜の兩村に跨る松屋隧道（延長二百九十呎）を通過し海岸に出づるや程なく北向し山野を過ぎ王喜村に於ける寺山隧道（延長四百

三十一呎）を經て西北に向ひ國道を横斷し宇津井に出で麥畝の間を通じて吉田川の長流を渡り更に濱田川に渡りまもなく其處が即ち小月停車場なのである此間三哩七十一鎖程近き清末村には源平壇の浦合戰の當時源義經が弓先にて掘りたりと傳ふ兜水を稱する非池があります水質最も清鮮それから又西一里を距りて王司村に員光温泉と號し稀薄なる炭酸泉が湧出して居りまも同驛を出で線路は一直線に清末村を通過し清末王司兩村に係る神田川と渡り南西に進み王司村長府停車場に達しまもなく此間三哩三十八鎖でも西方十八丁を隔てゝ忌の宮と云ふのがありまも仲哀天皇熊襲御親征のとき宮殿を建て給ひたる豐海宮の舊趾でして今は神功皇后を奉祀してありまも同宮に近き功山寺は國内屈指の古刹でして曾て七卿西下のとき永く同寺に寄寓せられしことがあんがありまも地位は東南海に臨み南は豐前國田の浦と相對し東は千珠滿珠の二島より本山岬を眺め風景頗る佳絶でも此處から鐵道線路は長府村市街の北方に接し八幡川を渡り西に轉じ山麓に沿ひ線路中至難工事たりし長府勝山兩村に跨る滑石隧道（延長二千三百呎）を通過し山野を繞りて勝山村ノ宮停車場に達しまもなく此間三哩二十七鎖停車場西南一町と隔て仲哀天皇を奉祀した住吉神社と云ふのがありまも社殿莊嚴境内靜邃でして參拜者常に絶えず北方勝山村大字田倉には大内毛利兩氏の勝山城趾がありまも夫れより漸く南に進みて勝

山生野両村にかゝる長谷隧道（延長六百二十七呎）を過ぎ西向し生野村●生停車場に達しまそと此間二哩七十五鎖停車場の西に當り金比羅山山腹に琴平社わり讃岐琴平社に次ぎ關西屈指の名社でして山の眼下の筋ケ濱は海濱一帶五色の小石蟠在し風光頗る明媚でそ同驛を出で南下し大字大坪と過ぎ赤間關市關後地を經て櫻山招魂社參拜道に該る棧道橋を潛り嚴島神社の裏手を横切りまそと此處が新設の馬關停車場でして此間二哩四十四鎖わり同驛の前面には嚴柳島わり往昔佐々木嚴柳宮本無三四と仕合をなしたる地にして全島松樹鬱蒼し翠松の岸に望み風景絶佳でそ西二十町を隔て小門と云ふ勝地がありまそ彦島と呼應の間にありて奇岩惟石轉々趣となし潮流奔逸し恰も大河のやうでそ東方に當り龜山八幡宮赤間宮及び壇の浦の古戰場等あり日清戰爭媾和談判のわつた春帆樓及李鴻章の旅館引接寺等最近の部に属そべき舊蹟もありまそ

讃岐鐵道附伊豫鐵道及徳島鐵道

●高松●　讃岐第一の都會でして松平氏の舊城地でそ城趾今猶存し風致佳麗北南には日本三大公園の一なる栗林公園と云ふのがありまそ園の廣さ十六萬餘坪土地幽邃奇松怪石多く四季共に風致多し高松法泉寺の旧宮坊太郎墓は停車場から八町又源平の古戰場なる屋島山及壇の浦は東二里の處にありまそ

●香西●　四國八十二番の札所なる根香寺は停車場の西一里半でそ又白峯寺は八十一番の札所でして白峯大權現及相模坊の古蹟がありまそ其西一町にあるのが崇徳天皇御陵でそ

●鬼無●　藤花の名所なる飯田八幡は停車場から五町次の驛端岡の東二里の處に楠尾神社一の宮佛生山等の名祠巨刹がありまそ

●國分●　停車場の北二町に四國八十番の國分寺がありまそ又田宮坊太郎が金刀比羅宮の靈驗に依て仇討と遂げた國分八幡は停車場の東二十五町に雲井の御所古趾は北●鴨川●　崇徳天皇社八十八の水摩尼珠院は孰も停車場の西二十五町に崇徳天皇御陵兒ケ嶽白峯寺は北一里半の處に十五町に蛟ケ岡甲智の御所舊趾は南十五町にある御寺でして境内に細川清氏討死の古蹟がありまそ

●坂出●　遍照院は停車場の東一里の處にある岩藥師は

●宇多津●　四國七十八番の道場寺は停車場の南四町目方一萬貫目餘の杜石のある

同じく東へ十町でそ

●丸龜●　讃岐第二の都會でして京極氏の舊城地でそ旧溜八幡宮細川頼之掛引の松等孰も停

車場から東十町以内の處にありまを

●多度津　白方熊手八幡宮白方屏風浦弘法大師の修業地たりし四國七十一番の彌谷寺等孰れも停車場西一里半位の處にありまを

●金藏寺　智燈大師の誕生せし四國七十六番の金倉寺は東三町に又天霧山彌谷寺高瀬の大坊仁尾の平石延壽寺の櫻等は西二里以内の處にある名所でを

●普通寺　弘法大師誕生所屏風浦普通寺は四國七十五番の札所でして停車場の西十町の處にありまを本尊は藥師瑠璃光如來弘法大師の作です

●琴平　琴平神社の鎭座所で大祭日は三月六月十月就中十月の十日は當社第一の神事でを

伊豫鐵道

●高濱　伊豫の小富士と稱せられる與居島安藝の嚴島に模したる嚴島神社及大山寺抔が此地の名所で旅舍は有信舍延齡館等有名でを

●三津　多度津港の西に在る港で汽船の出入常に絕へを汽船問屋は久保田石崎和泉小島新玉等でを

●古町　松山市の西北味酒に在る驛で有名なる道後の湯泉へは十八町以内でを又法塔寺寶積坊の姥櫻等名ある所も澤山ありまを

●外側　外側は久松伯の舊領地でして城趾は滿山亘樹繁茂し天主閣に登れば山海の風光一眸の中にあり旅宿は城戶屋矢次高知屋等でを

●立花　此驛は東は平井河原南は森松に達そる分岐點で平井河原の近傍には松葉が澤山產さまを

●石井　豆比古神社は五六町の內にあり星岡は元弘の役河野土居得能等の義兵を擧げた古戰場でを

●森松　南一里の砥部村は伊豫砥を產出そる處でを二十町許と隔てたる上野村大宮社に源三位賴政夜明し松の古蹟がありまを

德島鐵道

●德島　峰須賀侯の舊城地でして市街繁盛福島は東十町古川は二十町共に神戶大阪撫養淡路等に至る汽船發着所で大瀧山へは六町山腹に瀑布あり山中に八阪神社招魂碑紀念碑三重塔あり眺望絕佳でそれから又勢見山へは十二町で山內に忌部神社金刀比羅神社等あり境內廣く梅花の名所でを重なる旅舍は平鰮樓柳屋表屋等でしよう

●藏本　新居不動へ十町峯薬師へ十三町觀音寺井戸寺國分寺等皆十町以内の處にあります徳命臥龍梅建治の瀑布は共に停車場から一里半です

●石井　高瀬の渡へ一里餘藤花の名所地福寺は停車場の傍にあります我神社へ十五町童學寺へ二十町五百羅漢へ三里下浦釋迦堂へ十二町です

●鴨島　弘法大師の開基なる四國十一番の札所藤井寺へ十六町子安地藏寺へは一里餘で參詣人が非常に澤山あります

●川島　驛は川島町の南八町春日神社及藥師堂へ十八町四國十番の札所なる切幡寺へ一里半岩戸神社は一里十五町鎌橋へ一里二十町高越寺船戸の渡共に三里脇町へは四里繁盛なる都で稻原桝屋等の旅舍があります

内海及九州

内海の汽船航路は寧ろ山陽の部に属すべきですが、紙面の都合で九州と一所にする事にしました、大阪商船會社の航路を主として關西同盟汽船の航路をも參酌し、重に東から西へ北から南へと云ふ順序に據りました九州鐵道の方は、唐津も豊州も一切九州鐵道の條下に纒めて置きました

瀨船航路

●高松　女に男木眞島の諸島其前に連り瀨船帆舶の寄泊するもの多く碧波青巒相映じ風光極めて佳麗です大阪と距ること七十五海里七時間餘で達することが出來ます▲高松城一に玉藻の城と申まして其名稱の由て起る所は詳ではありませんが盡し萬葉集人麻呂の歌に玉藻吉讃岐國とあるに基くのでしょう城は天正十五年生駒雅楽頭近矩の築く所でして松平氏此地に封ぜらるゝに及び尙ほ其居城と爲し儼として今に殘つてるのです▲栗林公園高松城を距る南廿四町ばかり敷使村に在る公園地です規模寬濶松平氏が幕府の吹上苑に擬したる別業でして山を負ひ池を穿ち沿岸には東海道五十三驛を寫し四時の景物一として具はらざるはなく其風趣の閑雅幽邃なる遊人をして徜徉顧望去る能はざらしむる程の名園です▲屋島　高松の東北三十八町栗山の西麓に在りて庵治村と相對して居ります此地は有名な古戰場で元暦元年平宗盛が安徳帝を奉して行宮を經營した處です行宮の跡今に尙ほ存し行客をして坐ろに懐古の情を起さしめ又海上を望めば大島鎧島兜島等ありて頗る風景に富んで居ります

●多度津　金刀比羅へ參詣するには此地に上陸するのが至便です瀨船の出入間斷なく煤烟

空を蔽ひ漁笛埠頭に響く實に繁華の一要港でそ町の後に視岡と云ふ丘があつて之れに登れば筆の海は脚底に收まり鰻飽の群島は點々指掌に歸して眺望甚だ佳勝でそ大阪を距ること九十四海里七時間餘にして達そる事が出來まそ▲普通寺　多度津の南一里二十町弘法大師が其伽藍に天竺八塔の土を敷て建立したりと傳へらるゝ五層の高塔峨々として聳へ彫刻古雅寺内頗る清淨でそ▲金刀比羅宮　多度津を距る三里餘毎日滊車二十餘回の往復がありまそ大物主神を祭り以前は金銀珠玉を鏤め燦然たる社殿でしたが明治十一年に至り舊模を改め毫も彩色を用ゐず悉く白木の良材を以て造營せられ屋根は檜皮葺で社殿の正面上には金の菊章を掲げ燦々人目を眩射して居りまそ其威靈夙に四方に聞へ賽客の諸國より來るもの年に其數萬なるを知らずと云ふ有樣でそ

●鞆津　備後國沼隈郡の東南端に在る港で其鞆と名くるは風土記に神功皇后征韓の御歸途鞆（弓具）と以て沼隈郡渡の地に納め玉ふとある處から出たのでしよう港内波靜かにして船舶の寄泊するもの多く其前なる三津島沖輕島狐崎其東なる仙酔島辨天島其西なる阿武菟岬等を望めば布置の巧妙なる風景の絶佳なる畫手も其筆端を寫す能はざる位でそ大坂を距ること百十四海里達到時間は十一時間餘でそ▲仙酔島　鞆津港の對岸に在りて松樹蒼々翠色白波に映じ其傍の小島を辨天島と云ひ辨才天の小祠ありて共に風致に富んで居りまそ▲沼名前神社　鞆津の北方に在りて素盞嗚尊を奉祀する國幣小社でそ相傳ふ尊出雲を發し南海に赴き玉ふとき鞆に至り跡を嗣町に駐め玉ひしを以て往古より此に鎭座しけるを天長中今の地（草谷）に移したのだとか云ふ事で今の社殿は明治十七年の營造でそ▲福禪寺　鞆津の東岸にある御寺でそ天慶年中空也上人の開基でして千手觀世音の像を安置してありまそ正徳年中韓人李邦彦其眺望を賞して日東第一形勝と書し寛永中韓人洪景又對湖樓と題し今尙ほ之を扁額として居りまそ所謂對潮樓に上り仙酔島を望めば翠色波影相映帶し之を呼べば答へんとする風景眞に多く其匹を見ざる處でそ

●尾の道　備後國御調郡の東南海岸に在る繁華の市街で大賓愛宕の諸山其後に峙ち向島其前に横はり港内波浪穩かにして滊船帆舶の出入繁く帆檣林立社寺一帶山腹に駢列して觀望甚だ佳麗でそ大坂を距ること百二十七海里餘十二時餘にして達そる事が出來まそ▲千光寺　尾の道寺院中の最も著名なるものでして町の西北三町許を登りたる所に在ります寺宇壯麗にして古雅大同年間の開基でそが今の寺院は貞享年間の建設だと云ふ事でそ寺内に島帽子岩と呼ぶ岩がわつて其岩が丸で玉のやうな處から此地を名けて玉の浦と申て居りまそ

●竹原　備後國加茂郡の東南端成井川の海口に在る港で東は阿波島を望み南は生野島に對して居りまそ此地は賴山陽の鄕里て翠色常に白波に映し眺望甚だ佳大坂を距る百四十三海

里十四時間餘にして達する都合になつて居ります

●瀬戸　安藝國安藝郡に在りて警固屋村と相對して居りまする其間僅かに五十餘間所謂穩戸の瀬戸でも傳へ云ふ昔此地は地峽だつたのを平清盛安藝に守たりし時之を開鑿して舟運に便にしたのだとか潮流急激奔雷雪と飛ばすの響は綠樹萬巓の聲に和し帆船は岸に倚て潮を俟ひ潮應じ風順なるに及びて乘帆齊く張り疾徐其度に從ひて過ぐ寔に內海の奇觀でする

●吳　舊と南端數村の總稱ですが明治十九年軍港となつてより此の方頓に有名の地とはりました前は鳥小島を控へ西は江田島南は倉橋島と相對し一大灣を爲して居りまする江田島は海軍兵學校の在る所で北方遙かに廣島と相望ひ其間に似の島あり宛然たる小芙蓉所謂安藝の小富士とは即ち是の事でする吳は大坂を距ること百六十六海里航海時間は十六時間餘でする

●宇品　廣島市の南にあつて海運頗る不便の處でしたが一度築港の業竣り棧橋の設あるに及び俄に其面目と革め旅舍軒を並べ馬車の往來織るが如く其繁榮實に舊時に倍蓰して居りまする吳港の南に宇品島ありて青松繁茂し嵐光波影と映帶し景致恰かも畫のやうでする大坂と距ること百七十六海里航海時間は十七時間でする

●嚴島　安藝國佐伯郡の海中に在りて周回七里餘市杵島伊都伎島又宮島とも申して居りまする

北廣嶋と距ること五里餘西大野村最も近くして一里に過ぎず南は遙かに防豫二州の諸山綿々として起つが如く伏すが如きを望み東は能美江田の諸島青髮螺峨として松杉鬱蒼櫻桐ありて艷陽の候白雲長へに山腰に靉靆し楓溪ありて秋爽の期錦霞遙かに嶺半に溯漫し四時の眺と盡くしたる所崖に倚り水に架し左右に長廊を廻らし潮滿つれば皆水上に浮ぶが如く其結構の宏壯偉麗なる風景の秀潤妍媚なる真に日本三景の一たる名に背きません大坂を距ること百八十六海里航海時間は十八時間餘でする

●岩國　吉川氏の舊藩地でする人家稠密頗る繁華の地で其大坂を距ること百九十五海里航海時間は十九時間餘でする▲錦帶橋　一に十露盤橋と申まする岩國の北西錦川の流に架し五橋連絡して居る名橋で長さ百二十五間最高の所を六丈の餘ありまする

玖珂郡と大島郡との間に在りまして潮流激苦奔雷の聲を爲し綠樹影を蘸して碧一層の碧を加ふ灘酒の致奇逸の態亦內海航路中の一名勝區でする

●柳井津　周防國玖珂郡に在りまして前は笠佐島を控へ東は大畑の瀨戸に枕み風景も亦佳麗でする此地貨物の流通繁く人家富庶周防東南部の要港として山口縣下屈指の商業地でする

●德山　周防國都濃郡に在る舊藩毛利氏の城市でする市街國道に沿ひて西北より斜に東南に

延び南は德山灣を擁し北は前山代諸村を控へ海陸の運漕頗る便利でして漁船帆船常に寄泊して居りまそ大阪を距ること二百五十二海里二十五時間餘にして達する事が出來まそ

●三田尻● 周防國佐波郡に在りて江泊半島其東に突出し向島其前に橫はり港內水深からざるも山口最近の要港なるを以て船舶の寄泊そるもの常に間斷わることなく觀望も亦極めて秀絕して居りまそ▲松崎神社 三田尻の北十八町宮市驛酒垂山(一に天神山と云ふ)に在りて菅公を祀る縣社でそ全山白砂清爽洗ふが如く所々に矮松を生じ翠色掬すべく山腰に花木ありて艷麗愛すべく近くは三田尻江泊の勝景と掌上に收め遠くは二豐諸山の青髮を煙波髣髴の間に望み風趣清麗眺矚頗る佳麗でそ

●門司● 九州東北の隅豐前國企救郡に在り長門の赤間關と僅かに一葦帶水を隔つるのみ古昔の所謂高麗濱新羅濱文字關等は皆此地の稱でして一時盛昌を極めた事もありましたが屋移り物換りて遂に蕭條寂寞の一漁村と化し去つたのでそ處が近歲九州鐵道完通し築港の業竣るに迨ひて高樓大厦碧瓦鱗次し帆檣常に港內に林立し土地狹隘なれども海水深くして內外船舶の一去一來そるもの日に其幾百なるを知るべからざる實に西海の咽喉たる名に背きません大阪を距ること二百九十二海里航海時間は二十九時間でそ▲清瀧公園 門司港頭の南五六町の山腹にありて處々に亭を設けてありまそ眸を放てば北は對岸なる馬關の人煙上り西は漫々たる玄洋の島嶼東は渺々たる周洋の帆影等皆指掌の中に歸し風光絕佳觀望雄麗でそ▲速戶神社 門司港の東北なる海峽速戶崎に在り比賣大神の外五座を祭つた社でそ西は長門の壇の浦に對し其間纔かに八町餘に過ぎざれども舟行甚だ危險でそが磯石磊砢隱顯出沒し波浪藍を染め變々として之れに觸れ忽ち碎けて雪花飛散そ景致奇峭愛すべきの勝地でそ

九州鐵道 附豐州鐵道

●門司● 九州の咽喉でして海上僅に二十町余を隔てゝ赤間關と相對して居ります和布刈神社甲宗八幡宮及清瀧公園等遊覽所少からざ重なる旅店は石田川卯柳邊支店古賀文三宅山田屋等でそ

●小倉● 小笠原侯の舊城邑で寺町なる永照寺は九州本山と俗稱する巨刹でそ旅店の重なる者は梅屋藤井飯森等

●行橋● 豐州鐵道の起點で一は中津を經て宇佐に川崎に達して居りまそ

●中津● 舊奧平氏の城趾で豐州線中の一都邑でそ旅舍は長春園三原屋等有名でそ耶馬溪

の勝區へは二里羅漢寺へは三里ありまそ

●宇佐　豊州線の終點でして和氣の清麿が其昔神勅を請ひ奉つた宇佐八幡宮へは停車場から一里餘でそ

●折尾　筑豊線路と変又そる所でそから若松或は直方に行くには此處て乗換へなければなりません

●福間　須佐の男の大神及神功皇后を併せ祭つた宮地嶽神社は停車場の北十五町玄海灘に望み眺望尤秀佳でそ

●香椎　香椎宮は神功皇后を祭つた宮でそ帆柱の化石は停車場より十八町許の名島の海濱にありまそ

●箱崎　箱崎神社は停車場の直ぐ西隣に在りまず又箱崎松原千代の松原は風光極めて宜しく松露の産地でそ

●博多　黒田侯の舊城邑で櫛田神社承天寺聖徳寺東西兩公園等の遊覧所がありまそ又元寇戰亂の遺趾なる石城蒙古の首塚等も近邊にありまそ旅人宿は松島屋築屋旅順館築屋支店いろは館今任等が宜しう御座います

●一日市　大宰府天滿宮觀音寺都府樓及び水城の古趾等皆停車場の近邊でそ夫から武藏温泉には延壽館武藏屋等の浴舍がありて遊客常に雜沓して居りまそ

●鳥栖　長崎線八代線の分岐點でそ門司長崎間及門司八代間は毎日上下各四回の直通列車がありますが長崎線より八代線行及八代線より長崎線行は此所にて乗換へなければなりません

●佐賀　鍋島侯の舊城下でして松原神社神野の御茶屋等風景最も善く旅店では松屋築徳屋呼屋等有名です

●牛津　頗る繁華の商地で北方一里に小城藩の舊都がありまそ櫻岡公園清水の瀑佳の江松尾柳原岩倉八幡晴氣祇園等の景色絶佳古湯熊川の温泉は四時浴客絶へず三岳寺は名僧信長の出た巨刹でそ

●武雄　武雄温泉は停車場を去ると六丁神功皇后三韓征討凱旋の際發見せられたる靈泉で遂萊山、白瀧峯、三舟山、三方に併立し翠松の間櫻楓を點綴して風景絶佳四時浴客群集して居りまず旅舍は東京屋三國屋角枡春慶屋を始め總て〻百軒の餘ありまそ

●有田　有名な陶器を産出そる所でして伊萬里行の乗客は此の所にて乗換へとなるのでそ

●伊萬里　有田と同じく有名な陶器の産出地です英彦山神社に登れば市中を一望に集め風

景頗る佳麗でそ

●早岐　九州鐵道佐世保線への乘換驛でして小松屋太國屋等の旅舍がありまそ

●佐世保　大村灣口に在る軍港で灣内水深く風波穩かに鎭西第一の良港でそ鎭守府は停車場を去る十七八町の立山に在り旅亭は油屋播磨島谷等有名です

●大村　以前大村藩のあつた處で今は兵營の所在地になつて居まそ旅亭は松島屋乾物屋等が有名でそ

●諫早　島原の温泉の近くにある驛でそ高城の神社は風景に富み登山すれば鎭西の山水一眸の中にあり水月樓摘芳園等皆旅店と料理店とを兼ねて居りまそ

●喜々津　驛より三里餘地おのづから一仙窟をなし夏時曳杖の好域でそ諫早より長與の間には大小七ケ所のトンチルありて明暗參差忽ちにして谿間忽ちにして海岸ろの出るや大村灣内一面鏡の如く大小の島嶼各々其趣を異にし風景の佳なる名狀そべからそ盡し九州鐵道中第一の勝區でそ

●長崎　五港の一でして數多の船舶は港内に輻輳し諏訪山の公園は眺望に宜しく三菱造船所は其の結構人を驚かそ程でそ重なる旅亭は上野屋福島屋長崎館伊崎屋等又料理兼業にてはみとりや賓屋等でそ

●久留米　有馬家の舊城市でそ水天宮篠神社梅林寺又高山彦九郎の墳墓もあります旅店は鹽屋靑々館布屋等有名な部でそ

●大牟田　から三池町へは一里三池は炭礦のある處でそ夫れから次の停車場の木葉は西南役の激戰地田原坂に接近して居りまして今でも大分當時の面影を存して居りまそ

●熊本　細川侯の舊城下でそ城趾には今は第六師團を置ひてありまそ錦山神社本妙寺出水神社等遊覽そべき個所多く重なる旅店は研屋研屋支店綿屋白水館等最も有名でそ

●宇土　三角港に達そる分岐點でそ此處で肥後濱船會社の濱船に連絡し天草長崎薩州に至る事が出來まそ

●八代　征西將軍廟八代神社八代宮白鳥多霞島の舊蹟も亦遠からそ帶屋由水館酒井等の旅舍あり日南久町温泉へは三里四時浴客群集して居りまそ

明治三十四年九月十日印刷
明治三十四年九月十五日發行

不許複製

金三拾錢

編輯兼發行者　大阪市東區南本町四百卅六番屋敷　金尾種次郎

印刷者　大阪市西區土佐堀裏町五十四番屋敷　中西豐藏

發行所　大阪市東區南本町心齋橋筋東北角　金尾文淵堂書店　（電話東二一七八番）